

ハード編

FMV-DESKPOWER

C/50L, C/45L, C/457, C/40L, C/407, C/405

パソコンの各部は
こうなっている

基本的な機能を使おう

オプション機器を活用しよう!

BIOSセットアップ
~ C/50L, C/45L, C/457をお使いの方 ~

BIOSセットアップ
~ C/40L, C/407, C/405をお使いの方 ~

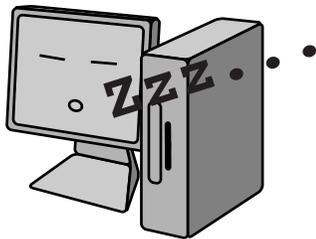
技術情報

索引



こんなことがやりたい！

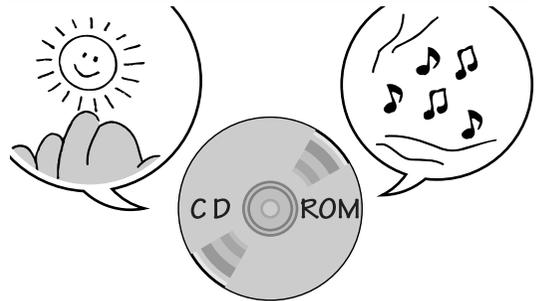
スタンバイ（省電力）機能で
節電したい！



ちょっと休憩...そんなときはスタンバイ（省電力）機能で電力消費を抑えましょう。

👉 P.18

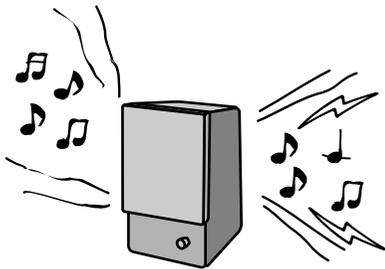
CD-ROM や音楽CD を使いたい！



パソコンでCD ROM や音楽CD の映像や音声を楽しむことができます。

👉 P.23

スピーカーで音を聞きたい！



音が大きすぎる、あるいは小さくて聞こえない...そんなときはスピーカーの音量を調節しましょう。

👉 P.26

マイクを使って録音したい！

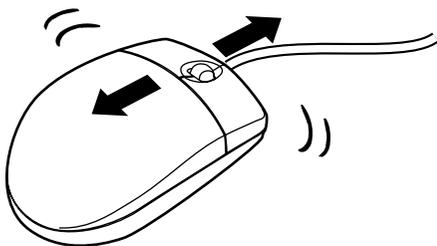


自分の声をいろいろなアプリケーションで使いたい...そんなときはマイクを使って録音し、保存しましょう。

添付のマイクをお使いください。

👉 P.33

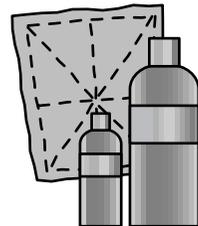
スクロールマウスでらくらく！



スクロールマウスを使うと、簡単に画面をスクロールできます。

👉 P.36

なんだか汚れてきちゃった...
お手入れの方法を知りたい！



パソコンを毎日使っていると、だんだん汚れてしまいますよね...まめにお手入れをしましょう。

👉 P.41

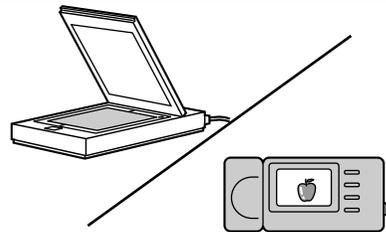
パソコンで作ったものを印刷したい！



年賀状、カード、企画書...作ったものを印刷したいときは、プリンタを接続します。

👉P.50

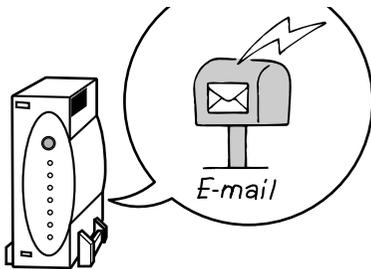
お気に入りのイラストや 写真を取り込みたい！



お気に入りのイラストや写真を取り込んで、オリジナルの画像を作りたい...そんなときはスキャナやデジタルカメラを接続します。

👉P.54

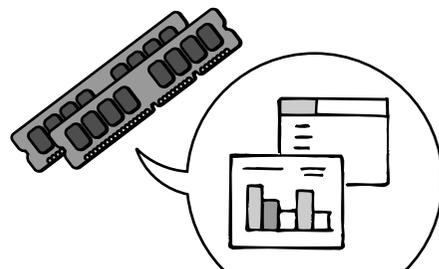
ISDN 回線を使いたい！



ISDN回線に接続して、もっと快適にネットワークを楽しみたい...そんなときはターミナルアダプタを接続します。

👉P.56

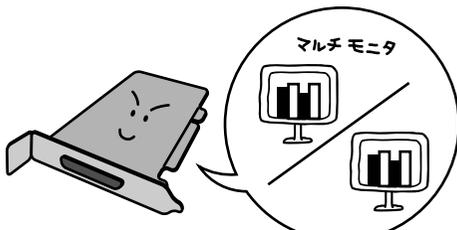
パソコンの処理をもっと快適にしたい！



たくさんのアプリケーションを同時に使いたい、「メモリ容量の不足」のメッセージがよく出る...そんなときはメモリを増設します。

👉P.62

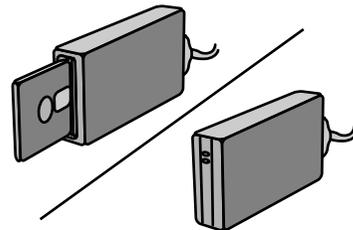
パソコンでもっと いろいろやってみたい！



ビデオの編集をしたり、マルチモニタ機能を使ったり...拡張カードを取り付けると、さまざまなことができるようになります。

👉P.69

もっとたくさんのデータを 保存したい！



あれもこれもとっておきたい...MOドライブやハードディスクを増設すると、大容量のデータを保存できます。

👉P.76, 👉P.81

本書の表記について

安全にお使いいただくための絵記号について

本パソコンおよびその他のオプション機器を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。

本書では、いろいろな絵表示をしています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、本文をお読みください。

 警告	 注意
この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があります。	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

記号の例とその意味	
	で示した記号は、警告・注意をうながす内容であることを告げるものです。記号の中には、具体的な警告内容（左図の場合は感電注意）が示されています。
	ⓧで示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中には、具体的な禁止内容（左図の場合は接触禁止）が示されています。
	で示した記号は、必ずしたがっていただく内容であることを告げるものです。記号の中には、具体的な指示内容（左図の場合は一般的な強制事項）が示されています。

画面例および入力例について

- 表記されている画面およびイラストは開発中のものです。実際とは異なる場合があります。また画面は一例です。お使いの機種やモデルによって、画面が若干異なる場合があります。
- お客様に入力していただく文字列（コマンドライン）などは、入力例の文字上にアミ  をかけて表しています。
- 特に指定がない場合、英数字、記号は半角で入力します。また、大文字と小文字の区別はありません。
- 入力時に空白を入れる必要がある場合は、以下のように表しています。

`dir c:`

この場合は、「dir」と入力したあと、（空白キー）を1回押し、続けて「c:」と入力してください。

イラストについて

- FMV-DESKPOWER C/50L（縦置き）を例にしています。他の機種では若干異なる場合があります。
- 本来接続されている縦置き用フットやケーブル等を省略している場合があります。

本文中の記号について

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

 重要	お使いになるときに注意していただきたいことや、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 アドバイス	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
	知っていると便利なことを記述しています。必要に応じてお読みください。
	手順が分かれる場合などに、次に進む箇所を示しています。
	参照先を記述しています。
	ご覧になっていただきたいマニュアルを記述しています。
	CD-ROMを表しています。
	フロッピーディスクを表しています。
 用語	覚えていただきたい用語を解説しています。パソコンを初めてお使いになる方はぜひお読みください。

製品の呼びかたについて

製品名称を、次のように略して表記しています。

製品名称	本書での表記
Microsoft® Windows® 98 operating system	Windows98
Microsoft® Windows NT® Workstation operating system Version4.0	WindowsNT4.0
Microsoft® Internet Explorer	Internet Explorer
Microsoft® Outlook™ Express	Outlook Express
VirusScan for Windows 95/98	VirusScan
情報処理機器の省エネルギー化推進に関する法律	省エネ法

機種名の表記について

次のように略して表記しています。

製品名称	本書での表記
FMV-DESKPOWER C/50L, C/45L, C/457, C/40L, C/407, C/405	本パソコン
FMV-DESKPOWER C/50L	C/50L
FMV-DESKPOWER C/45L	C/45L
FMV-DESKPOWER C/457	C/457
FMV-DESKPOWER C/40L	C/40L
FMV-DESKPOWER C/407	C/407
FMV-DESKPOWER C/405	C/405

こんなことがやりたい！
本書の表記について

第 1 章 パソコンの各部はこうなっている

1. 各部の名称と働き	2
パソコン本体前面	2
パソコン本体背面	4
パソコン本体内部	6
キーボード	8
マウス	11

第 2 章 基本的な機能を使おう

1. 電源を入れる / 電源を切る	14
電源を入れてパソコンを使おう	14
今日はおしまい。電源を切るには？	15
2. スタンバイ（省電力）機能を使う	18
スタンバイ（省電力）機能とは？	18
電源の管理	19
3. フロッピーディスクを使う	20
使えるフロッピーディスクは？	20
気をつけてください～フロッピーディスクを使うとき	21
フロッピーディスクをセットする / 取り出す	21
フロッピーディスクのデータを守るには	22
4. CD-ROM を使う	23
使える CD は？	23
気をつけてください～CD を使うとき	23
CD をセットする / 取り出す	24
5. スピーカー / ヘッドホンを使う	26
C/50L, C/45L, C/40L をお使いの方は	26
C/457, C/407, C/405 をお使いの方は	26
音量を調節する	27
ヘッドホンを使う	30
6. マイクを使う	33
気をつけてください～マイクを使うとき	33
マイクで録音しよう	33
7. スクロールボタンを使う	36
スライドして使う	36
押して使う	37
8. 画面の解像度や発色数を変える	38
表示できる解像度と発色数	38
解像度や発色数を変更する	39

9. お手入れのしかた	41
パソコン本体 / ディスプレイ / キーボード / スピーカーのお手入れ	41
マウスのお手入れ	41
フロッピーディスクドライブのお手入れ	42

第3章 オプション機器を活用しよう！

1. オプション機器を取り付ける前に	46
取り付けられるオプション機器	46
オプション機器の接続にあたって	48
2. つないで活用！！	50
文書や画面を印刷したい！～プリンタを接続する～	50
お気に入りのイラストや写真を取り込みたい！ ～スキャナ / デジタルカメラを使う～	54
ISDN 回線に接続したい！～ターミナルアダプタを接続する～	56
つないでらくらく！～USB 機器を接続する～	57
3. パワーアップするために～本体カバーを取り外す～	59
本体カバーを取り外す	59
本体カバーを取り付ける	60
4. メモリを増やす	62
メモリを増やすとは？	62
取り付けられるメモリ	63
メモリを取り付ける	64
5. 拡張カードを増設する	69
拡張カードとは？	69
お使いになれる拡張カード	70
拡張カードを取り付ける	72
6. MO ドライブを増設する	76
MO とは？	76
コラム 終端抵抗（ターミネータ）とは	78
外付け MO ドライブを取り付ける	78
7. その他のオプション機器を使う	81
ハードディスクを増設する	81
複数のディスプレイを使う	88

第 4 章 BIOS セットアップ～ C/50L, C/45L, C/457 をお使いの方～

1. BIOS セットアップとは	92
2. BIOS セットアップの操作のしかた	93
BIOS セットアップを起動する	93
設定を変更する	94
変更内容を取り消す	95
BIOS セットアップを終了する	96
3. ご購入時の設定に戻す	97
4. BIOS のパスワード機能を使う	102
パスワードの種類	102
パスワードを設定する	103
パスワード設定後のパソコンの起動	106
パスワードを変更 / 削除する	106
5. BIOS が表示するメッセージ一覧	108
メッセージが表示されたときは	108
メッセージ一覧	108

第 5 章 BIOS セットアップ～ C/40L, C/407, C/405 をお使いの方～

1. BIOS セットアップとは	112
2. BIOS セットアップの操作のしかた	113
BIOS セットアップを起動する	113
設定を変更する	114
変更内容を取り消す	115
BIOS セットアップを終了する	116
3. ご購入時の設定に戻す	118
4. BIOS のパスワード機能を使う	122
パスワードの種類	122
パスワードを設定する	122
パスワード設定後のパソコンの起動	125
パスワードを変更 / 削除する	126
5. BIOS が表示するメッセージ一覧	128
メッセージが表示されたときは	128
メッセージ一覧	128

第 6 章 技術情報

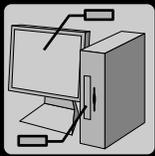
1. 仕様一覧	132
パソコン本体	132
FAX / ボイスモデムカード	133
サウンド機能	135
スピーカー (C/457, C/407, C/405 添付)	135
コネクタのピン配列と信号名	136
本体のコネクタ / ジャックで利用できるケーブル	140
2. 本パソコンのリソースについて	141
リソース一覧	141
コラム リソース、IRQ、DRQ、I/O ポートアドレスとは	142
リソースを解放する	143
3. ドライバのインストール	145
インストールのときに気をつけること	145
ディスプレイドライバをインストールする	146
サウンドドライバをインストールする	149
4. その他の注意事項	154
インテル® プロセッサ シリアルナンバコントロールユーティリティについて (C/50L, C/45L, C/457 をお使いの方) ...	154
液晶ディスプレイの特性 (C/50L, C/45L, C/40L をお使いの方) ...	155
液晶ディスプレイの廃棄 (C/50L, C/45L, C/40L をお使いの方) ...	155
PS/2 マウスの表示	155
モデムについて	155
APM について	157
索引	164

第 1 章

パソコンの各部はこうなっている

パソコン本体やキーボードなどの各部の名称について説明しています。

1. 各部の名称と働き	2
-------------------	---



1

各部の名称と働き

ここでは、パソコン本体前面、背面、内部、キーボード、マウスの各部の名称と働きを説明します。

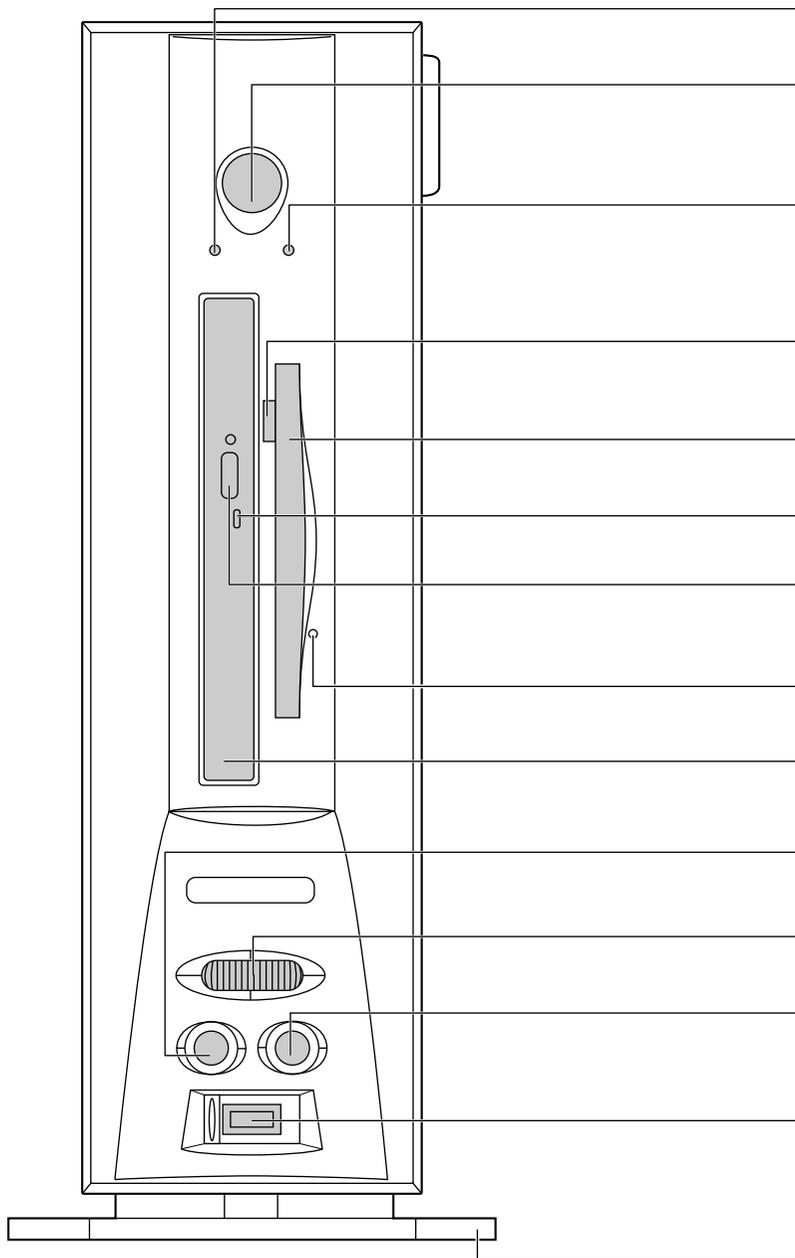
パソコン本体前面

用語

USB(ユーエスピー)

Universal Serial Bus という規格の略称です。主に USB 規格に対応している機器には、次のものがあります。

- ・マウス
- ・キーボード
- ・プリンタ
- ・ターミナルアダプタ
- ・スピーカー
- ・デジタルカメラ
- ・スキャナ



ハードディスクアクセス表示ランプ

ハードディスクを読み書きしているときに点灯します。

電源スイッチ (☞P.14)

パソコン本体の電源を入れるとき、スタンバイにするとき、またはスタンバイから復帰させるときに押します。

電源ランプ

パソコン本体に電源が入っているときに点灯します。

また、FM便利ツールと連携してEメールを受信した際に点滅します。

フロッピーディスク取り出しボタン

フロッピーディスクを取り出すときに押します。

フロッピーディスクドライブ (☞P.20)

フロッピーディスクをセットし、データを読み書きします。

BUSYランプ

CD-ROMから情報を読み込んでいるときや音楽CDを再生しているときに点滅します。

EJECTボタン

CD-ROMドライブに、CDをセットする、または取り出すときに押します。パソコン本体の電源が入っているときに使えます。

フロッピーディスクアクセス表示ランプ

フロッピーディスクを読み書きしているときに点灯します。

CD-ROMドライブ (☞P.23)

CD-ROMの情報を読み出したり、音楽CDを再生したりします。

ヘッドホン端子

市販のヘッドホン (☞P.30) を接続します。

音量ボリューム (☞P.26)

スピーカー、ヘッドホンの音量を調節します。

マイク端子

添付のマイク (☞P.33) を接続します。

USBコネクタ

USB機器 (☞P.57) を接続します。

お使いにならないときは、カバーを閉じておいてください。

縦置き用フット

本パソコンを縦置きでお使いになる場合、転倒防止用として取り付ける台座です。

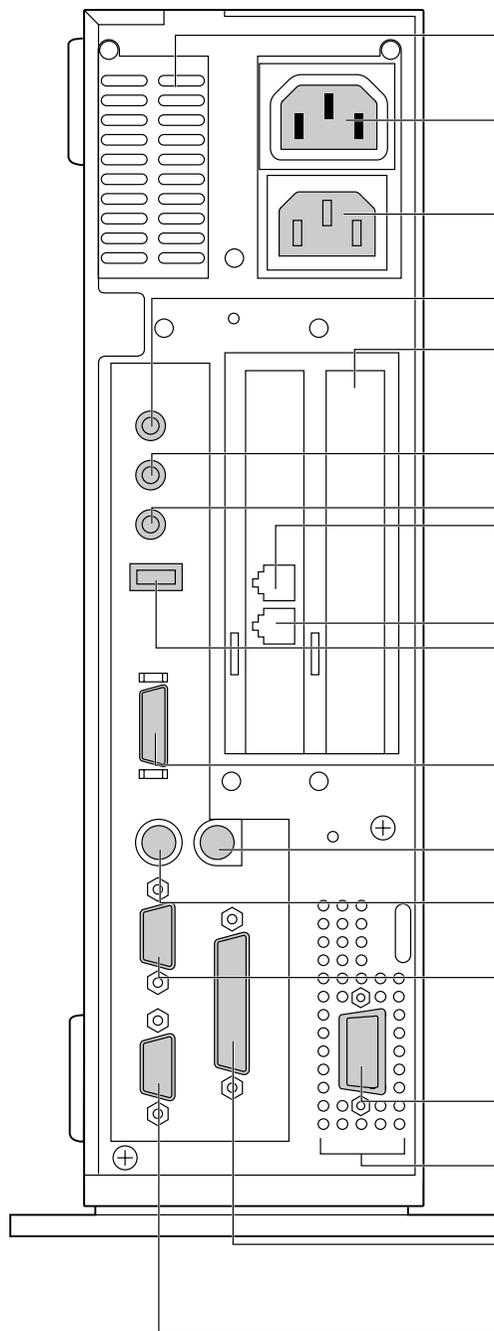
両側面にある通風孔 (パソコン本体内部の熱を逃がすための開孔部) は、ふさがらないでください。

パソコン本体背面

アドバイス

お使いになるときの注意

- ・本パソコンでは、デジタルディスプレイコネクタとディスプレイコネクタを同時に使用することはできません。
- ・ディスプレイは、必ずパソコン本体の電源を入れる前に接続してください。また、ディスプレイの電源は、必ずパソコン本体の電源よりも先に入れてください。



通風孔

パソコン本体内部の熱を逃がすための開孔部です。ふさがないようにください。

アウトレット

ディスプレイの電源ケーブルを接続します。

インレット

パソコン本体の電源ケーブルを接続します。

SPK OUT端子

C/50L, C/45L, C/40Lはディスプレイに内蔵のスピーカー(←P.26)を、C/457, C/407, C/405は添付のスピーカー(←P.26)を接続します(←取扱説明書)。

拡張スロット

拡張カードを取り付けると、コネクタがここに見えます。

LINE OUT端子

オーディオ機器などの音声入力端子を接続します。

LINE IN端子

オーディオ機器などの音声出力端子を接続します。

LINE端子

電話回線とつながるモジュラーケーブルを接続します。

PHONE端子

電話機とつながるモジュラーケーブルを接続します。

USBコネクタ

USB機器(←P.57)を接続します。本体前面のものと同じ規格です。

C/50L, C/45L, C/40LはディスプレイのUSBケーブルを、C/457, C/407, C/405は添付のキーボードを接続します(←取扱説明書)。

デジタルディスプレイコネクタ

添付のデジタル液晶ディスプレイのケーブルを接続します。

C/50L, C/45L, C/40Lはディスプレイケーブルを接続します(←取扱説明書)。

キーボードコネクタ

別売りのPS/2キーボードを接続します。通常は使いません。

マウスコネクタ

別売りのPS/2マウスを接続します。通常は使いません。

シリアルコネクタ(COM1)

デジタルカメラ(←P.54)、ターミナルアダプタ(←P.56)などの、RS-232C規格に対応した機器のケーブルを接続します。D-SUB9ピンのケーブルがお使いになれます。シリアルポートともいいます。

MIDI/JOYSTICK端子

MIDIケーブルやジョイスティックを接続します。

通風孔

パソコン本体内部の熱を逃がすための開孔部です。ふさがないようにください。

パラレルコネクタ

プリンタ(←P.50)やスキャナ(←P.54)などのケーブルを接続します。パラレルポートともいいます。

ディスプレイコネクタ

アナログRGBインターフェースのディスプレイケーブルを接続します。

C/457, C/407, C/405はディスプレイケーブルを接続します(←取扱説明書)。

パソコン本体内部

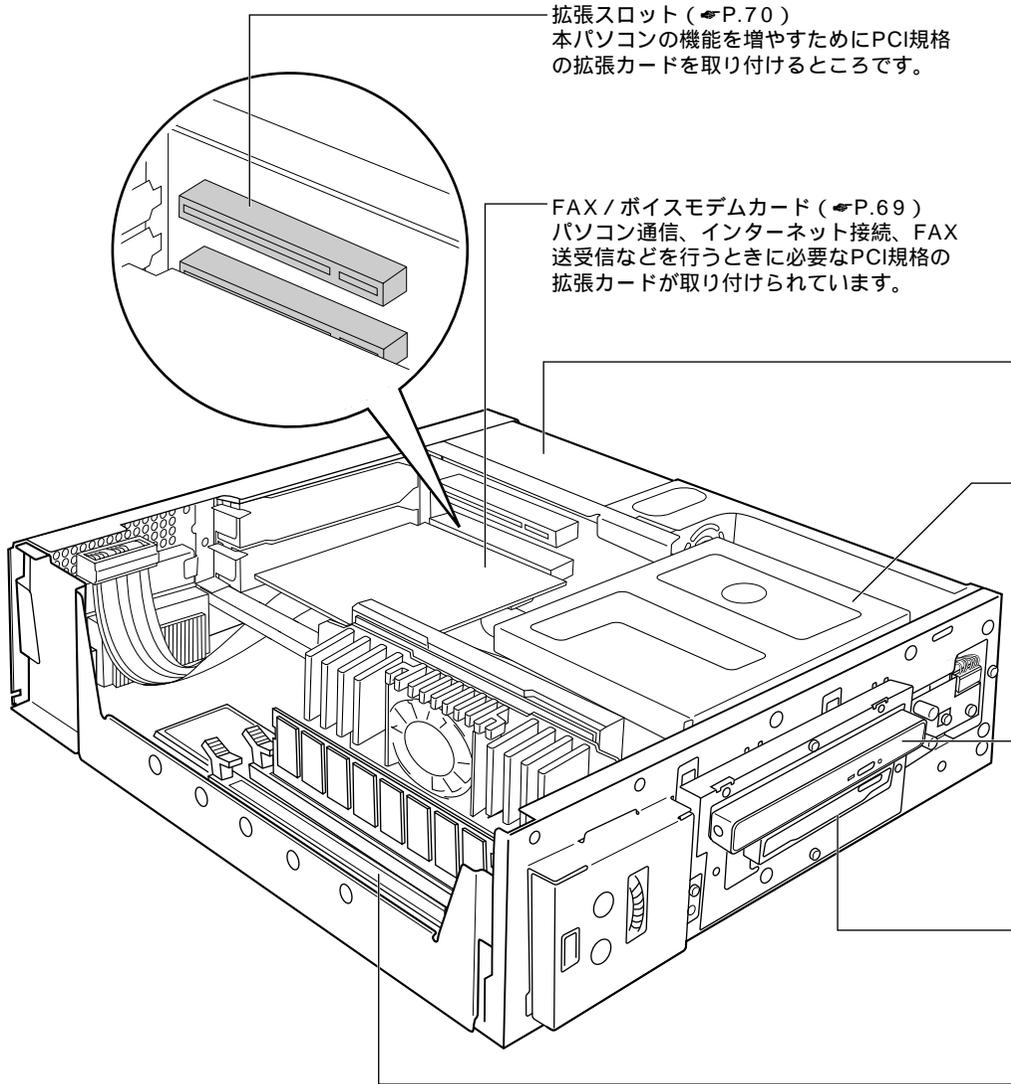
用語

IDE (アイディーイー)

ハードディスクやCD-ROMドライブなどの内蔵ドライブを接続する規格のひとつです。

ATAPI (アタピー)

CD-ROMドライブなど、ハードディスク以外のドライブをIDE規格のコネクタに接続して使うための規格です。



(イラストは、C/50Lです)

電源ユニット

内蔵ハードディスク
IDE規格のハードディスクが取り付けられています。

CD-ROMドライブ(←P.23)
ATAPI規格のCD-ROMドライブが取り付けられています。

フロッピーディスクドライブ(←P.20)
3.5インチ3モードフロッピーディスクドライブが取り付けられています。

メモリスロット(←P.63)
増設するメモリを取り付けられます。
本パソコンには、64MBのメモリが1枚あらかじめ取り付けられています。

キーボード

アドバイス

キーボードに角度をつけて置くには

キーボード底面にあるチルトフットを起こすと、キーボードに角度をつけて置くことができます。使いやすいほうをお選びください。



他社製のUSBハブではお使いになれません

添付のキーボードは、本パソコンのUSBコネクタまたはディスプレイのUSBコネクタ(C/50L, C/45L, C/40L)をお使いの方に接続してお使いください。

キーボードは、パソコンに対して指示を与え、実行させるためのものです。

C/50L, C/45L, C/40Lでは、ディスプレイのUSBコネクタに接続します(☞☐『取扱説明書』)。

C/457, C/407, C/405では、本体背面のUSBコネクタ(☞P.5)に接続します(☞☐『取扱説明書』)。

使用するアプリケーションによって動作が異なることがあります。ここでは、各キーを押したときの一般的な動作を説明しています。

マウスポート(裏面)

添付のマウスを接続します(☞☐『取扱説明書』)。

添付のマウス以外は接続しないでください。

ワンタッチボタン(☞P.10)

音楽CDの操作や音量調節、Eメールソフトの起動を直接行えるボタンです。

パソコン本体の電源が入っているときに使えます。

F(ファンクション)キー

アプリケーションごとにいろいろな役割が割り当てられます。

Esc(エスケープ)キー

作業を取り消すときに使います。

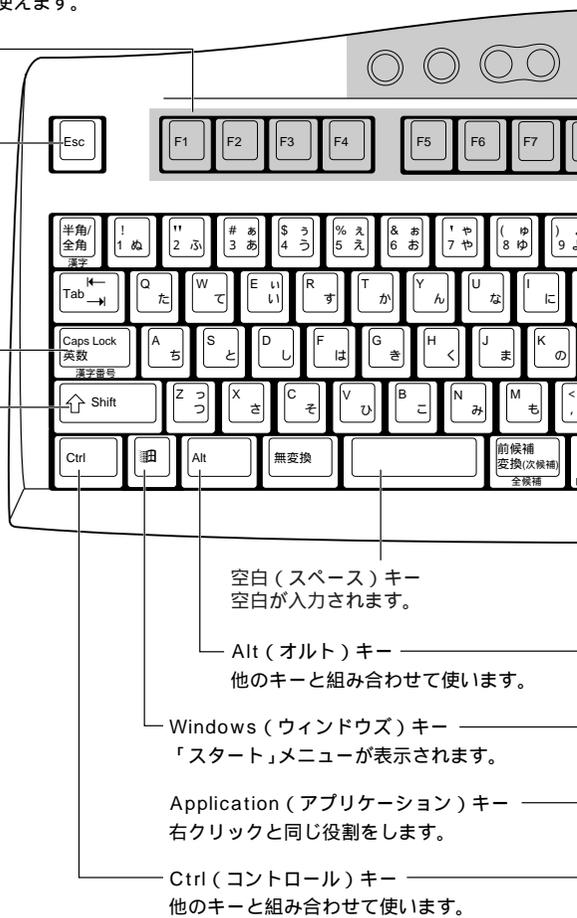
Caps Lock(キャプスロック)

英数キー

アルファベットを入力するときに、(Shift)を押しながらこのキーを押すと、大文字/小文字入力が切り替わります。

Shift(シフト)キー

他のキーと組み合わせて使います。このキーを押しながら文字キーを押すと、キーの上段に刻印されている文字や記号が入力できます。



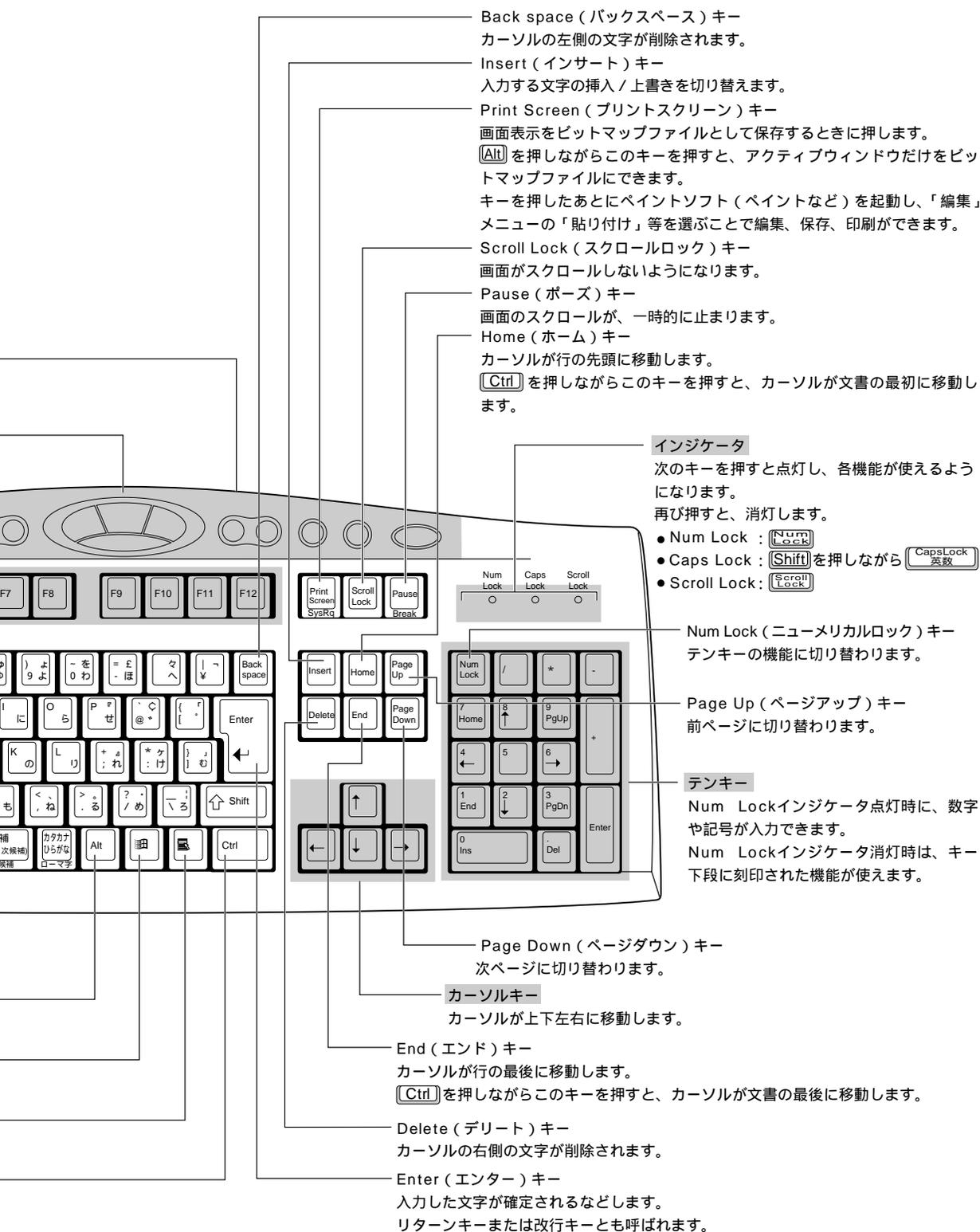
空白(スペース)キー
空白が入力されます。

Alt(オルト)キー
他のキーと組み合わせて使います。

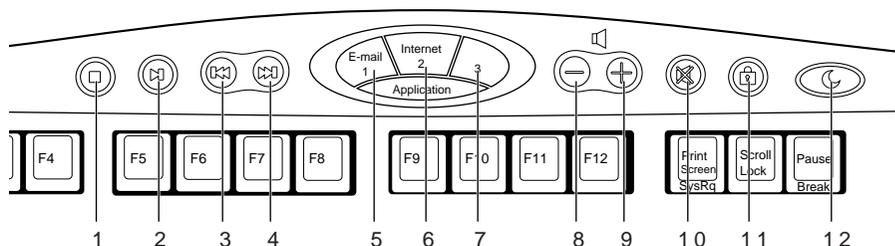
Windows(ウィンドウズ)キー
「スタート」メニューが表示されます。

Application(アプリケーション)キー
右クリックと同じ役割をします。

Ctrl(コントロール)キー
他のキーと組み合わせて使います。



ワンタッチボタン



重要

CD 操作ボタンは、音楽 CD 以外では使わないでください

パソコンの動作が不安定になる場合があります。

特に「停止 / 取り出しボタン」を押すと Eject 機能が働いてしまい、エラー画面が表示される場合があります。

詳しくは、『トラブル解決 Q&A』の「CD-ROM を取り出したら青い画面になった」をご覧ください。

1 ~ 4 CD 操作ボタン

- | | |
|----------------|--|
| 1 停止 / 取り出しボタン | : 音楽 CD の再生を停止します。
停止しているときに押すと、トレイが少し飛び出します。 |
| 2 再生 / 一時停止ボタン | : 音楽 CD の再生をはじめます。
再生しているときは、一時停止します。 |
| 3 巻き戻しボタン | : 音楽 CD の再生する曲順をひとつ前にします。 |
| 4 早送りボタン | : 音楽 CD の再生する曲順をひとつ次にします。 |

5 ~ 7 Application (アプリケーション) ボタン

FM 便利ツール (『FMV 総合案内』) が起動しているときに使えます。

FM 便利ツールで設定したアプリケーションが起動します。詳しくは、FM 便利ツールのヘルプ画面をご覧ください。

ご購入時は、次のように設定されています。

- | | |
|------------------------------------|-----------------------------|
| 5 Application ボタン 1 / E-mail ボタン | : Outlook Express が起動します。 |
| 6 Application ボタン 2 / Internet ボタン | : Internet Explorer が起動します。 |
| 7 Application ボタン 3 | : インターネット無料体験が起動します。 |

8 ~ 10 音量調節ボタン

スピーカーの音量を調節します。詳しくは「音量を調節する」(P.27) をご覧ください。

- | | |
|------------------|--|
| 8 ボリュームボタン (-) | : 音量が小さくなります。 |
| 9 ボリュームボタン (+) | : 音量が大きくなります。 |
| 10 Mute (消音) ボタン | : 音が消えます。
もう一度押すと、元の音量に戻ります。 |
| 11 スクリーンセーバーボタン | : スクリーンセーバーが起動します。 |
| 12 スタンバイボタン | : 本パソコンがスタンバイ状態 (P.18) になります。
もう一度押すと元の状態に戻ります。 |

アドバイス

「Application」と書かれている部分は

ボタンではないので押せません。

マウス

アドバイス

マウスの設定を変えるには

「コントロールパネル」ウィンドウの「マウス」で変更できます。

マウスポインタの速度を変えたり、左右ボタンの役割を入れ替えることができます。

詳しくは、デスクトップにある『パソコン便利帳』の「Q & A」の「マウス」をご覧ください。

パソコン便利帳については、『FMV 総合案内』をご覧ください。

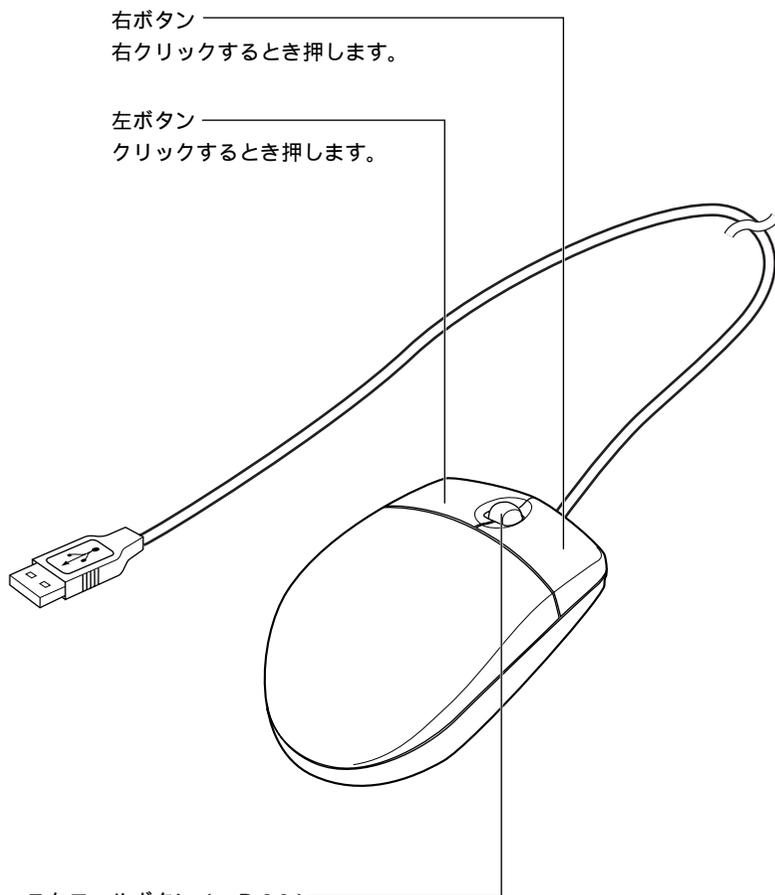
マウスのすべりが悪くなった

マウスの裏にあるボールが汚れていると、すべりが悪くなります。マウスのボールはクリーニングできます。詳しくは、「マウスのお手入れ」(←P.41)をご覧ください。

マウスは、画面の中の絵や文字を指して、パソコンに情報を伝えるための道具です。本パソコンのマウスは「USB スクロールマウス」というタイプのマウスです。

キーボードのマウスポート(←P.8)に接続します。

マウスの使いかたについて詳しくは、『わかるがるパソコン入門』をご覧ください。



右ボタン
右クリックするとき押します。

左ボタン
クリックするとき押します。

スクロールボタン(←P.36)
画面をスクロールしたいときに、押したりスライドさせたりします。
スクロールについて詳しくは、『わかるがるパソコン入門』をご覧ください。

第 2 章

基本的な機能を使おう

本パソコンの基本的な取り扱い方法や、お手入れのしかたについて説明しています。

1. 電源を入れる / 電源を切る	14
2. スタンバイ (省電力) 機能を使う	18
3. フロッピーディスクを使う	20
4. CD-ROM を使う	23
5. スピーカー / ヘッドホンを使う	26
6. マイクを使う	33
7. スクロールボタンを使う	36
8. 画面の解像度や発色数を変える	38
9. お手入れのしかた	41

電源を入れる / 電源を切る

ここでは、電源の入れかたと切りかたについて説明します。



けが

- ・フロッピーディスクをセットまたは取り出すときには、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。
- ・CD-ROMなどをセットまたは取り出すときは、CD-ROMドライブのトレイに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

電源を入れてパソコンを使おう



電源を入れるときの注意

電源を切ったあとに再び電源を入れるときは、10秒ほどお待ちください。

アドバイス

先にパソコン本体の電源を入れてしまったら

接続されている機器を、Windows98が正常に認識できないことがあります。Windows98が完全に起動するのを待ち、次の手順に従って操作してください。

- 1 本パソコンに接続されている機器の電源を入れます。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「Windowsの終了」をクリックします。
- 3 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。本パソコンが再起動し、接続されている機器が認識されます。

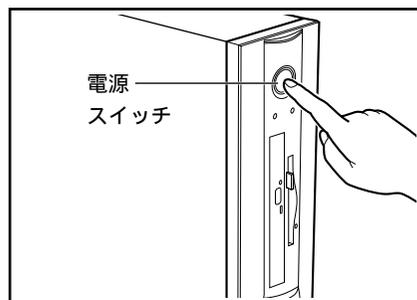
1 本パソコンに接続されている機器の電源を入れます。

『取扱説明書』の記載どおりにディスプレイを接続しているときは、一度ディスプレイの電源を入れると、そのあとはパソコン本体と連動するようになります。

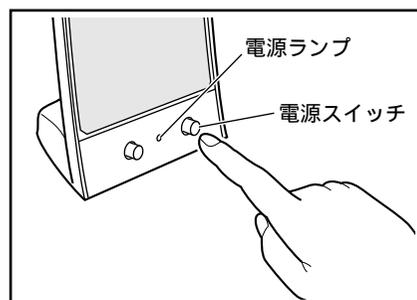
- ### 2 フロッピーディスクがセットされていないことを確認します。
- セットされているときは、フロッピーディスクを取り出してください。←「フロッピーディスクをセットする / 取り出す」(P.21)



- ### 3 電源スイッチを押します。
- ディスプレイとパソコン本体両方の電源ランプが点灯します。しばらくすると、Windows98の画面が表示されます。



- 4** C/457, C/407, C/405でスピーカーをお使いになるときは、右スピーカーの電源スイッチを押して、スピーカーの電源を入れます。



電源スイッチを押してもWindows98が起動しないときは

Windows98が起動せず、画面にメッセージが表示されたままになっているときは、

- ▶ C/50L, C/45L, C/457をお使いの方は
 ← 「BIOSが表示するメッセージ一覧」(P.108)をご覧ください。
- ▶ C/40L, C/407, C/405をお使いの方は
 ← 「BIOSが表示するメッセージ一覧」(P.128)をご覧ください。

今日はおしまい。電源を切るには？

重要

電源スイッチは押さないでください

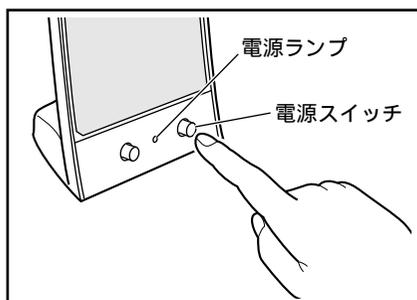
電源を切るときは、Windows98の操作で行います。電源スイッチは、通常は使わないでください。

必ずアプリケーションを終了してください

本パソコンが正常に終了できなかつたり、次に起動するときに正常に起動できなくなることがあります。

- 1** 本パソコンで行っていた作業を終了します。
 必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。

- 2** C/457, C/407, C/405でスピーカーをお使いのときは、右スピーカーの電源スイッチを押して、スピーカーの電源を切ります。

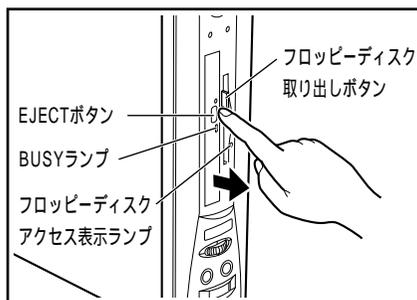


- 3** フロッピーディスクやCD-ROMがセットされていないことを確認します。

セットされているときは、取り出してください。

←「フロッピーディスクをセットする / 取り出す」(P.21)

←「CDをセットする / 取り出す」(P.24)



- 4** 「スタート」ボタンをクリックし、「Windowsの終了」をクリックします。



アドバイス

メッセージが表示されたときは

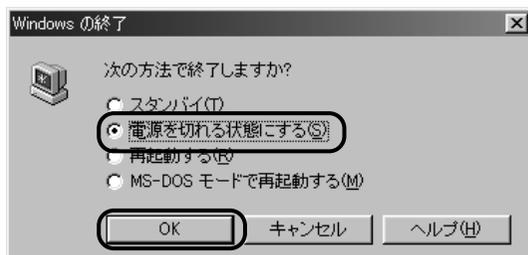
「フロッピーディスクが入っています。Windowsの終了を中止します。」というメッセージが表示されたときは、「閉じる」をクリックし、手順3から操作し直してください。

アドバイス

強制終了について

『トラブル解決Q&A』の「操作中に動かなくなった」をご覧ください。

- 5** 「電源を切れる状態にする」をクリックし、「OK」をクリックします。しばらくするとWindows98が終了し、ディスプレイとパソコン本体両方の電源ランプが消えます。



- 6** 本パソコンに接続されている機器の電源を切ります。

『取扱説明書』の記載どおりにディスプレイを接続しているときは、パソコン本体に連動して、ディスプレイの電源も切れます。ディスプレイの電源を切る必要はありません。

Windows98 の操作で電源を切れないときは

使用中のアプリケーションが何らかの理由で動かなくなり、強制終了もできなくなったときは、パソコン本体の電源スイッチを4秒以上押し続けて、本パソコンの電源を切ってください。このあと、パソコン本体の電源ランプが消えている（電源が切れている）ことを確認してください。

オレンジ色に点灯しているときはスタンバイ状態になっていて、電源が切れていません。もう一度電源スイッチを4秒以上押し続けて電源を切ってください。

通常は「今日はおしまい。電源を切るには？」(P.15)の手順に従って本パソコンの電源を切ってください。

アドバイス

電源スイッチを押して電源を切ったときは

電源を切った後10秒ほど待ってから、もう一度本パソコンの電源を入れ、Windows98の操作から電源を切ってください。☛「今日はおしまい。電源を切るには？」(P.15)



2

スタンバイ（省電力）機能を使う

ここでは、本パソコンの省電力機能について説明します。

スタンバイ（省電力）機能とは？

本パソコンの電力消費を抑えるための機能です。この機能が働くと、パソコン本体が省電力の状態になり、画面の表示が消えて真っ暗になります。

長時間作業をしないときなどは、この機能を使って節電を心がけましょう。

スタンバイ状態になると、パソコン本体とディスプレイの電源ランプの点灯が、緑色からオレンジ色に変わります。

スタンバイ（省電力）機能を働かせるには

本パソコンをスタンバイ状態にするには、次の方法があります。

- ・ キーボードのスタンバイボタン（←P.10）を押す
- ・ パソコン本体の電源スイッチ（←P.3）を押す
- ・ 一定時間操作しなかったときに、自動的にスタンバイ機能が働くように設定する
←「電源の管理」(P.19)
- ・ 「Windows の終了」ウィンドウで、「スタンバイ」に設定する
←「今日はおしまい。電源を切るには？」(P.15)の手順5で「スタンバイ」をクリックします。

重要

次のときは、スタンバイ状態にしないでください

スタンバイ機能が正しく働かなかったり、本パソコンが正常に動作しないことがあります。

- ・ Windows98 の起動中
(パソコン本体の電源を入れてから画面が完全に表示されるまで)
- ・ ハードディスクアクセス表示ランプやBUSYランプの点灯中
- ・ 動画や音楽の再生中
- ・ 通信中
- ・ ネットワーク接続中 (LAN カード増設時)
- ・ マウスの操作中

連続してスタンバイボタンや電源スイッチを押さないでください

スタンバイ機能が正しく働かなかったり、本パソコンが正常に動作しないことがあります。

スタンバイ状態から元の状態に戻すには

本パソコンをスタンバイ状態から元の状態に戻すには、次の方法があります。

- ・ もう一度キーボードのスタンバイボタンを押す
- ・ もう一度パソコン本体の電源スイッチを押す
- ・ キーボードの□□□□や (Shift) を押す
- ・ マウスを動かす

しばらく (5 ~ 10 秒) すると、パソコン本体とディスプレイの電源ランプが緑色に点灯し、再び画面が表示されます。

アドバイス

元の状態に戻したときは

画面が表示されても、ハードディスクアクセス表示ランプが完全に消えるまでは操作を行わないください。

電源の管理

Windows98では、一定時間操作しなかったときにスタンバイ機能が働くように設定したり、その他の簡単な省電力機能が設定できます。

1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2  (電源の管理) をクリックします。

「電源の管理のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

3 設定を変更します。

本パソコンのご購入時には、次のように設定されています。

< 電源設定タブ >



自動的にスタンバイ機能が働くまでの時間を設定します。

< 詳細タブ >



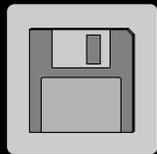
パソコン本体の電源スイッチを押すと、スタンバイ状態になります。

キーボードのスタンバイボタンを押すと、スタンバイ状態になります。

アドバイス

シャットダウンに設定すると

設定したボタンを押すと、本パソコンの電源が切れます。



3

フロッピーディスクを使う

フロッピーディスクドライブは、フロッピーディスクにデータを保存したり、フロッピーディスクからデータを読み出したりするための装置です。

ここでは、本パソコンのフロッピーディスクドライブでお使いになれるフロッピーディスク、フロッピーディスクのセットのしかたや取り出しかたなどについて説明します。

使えるフロッピーディスクは？

本パソコンのフロッピーディスクドライブは、次のような種類、記憶容量のフロッピーディスクを読み書きできる、3モードドライブです。

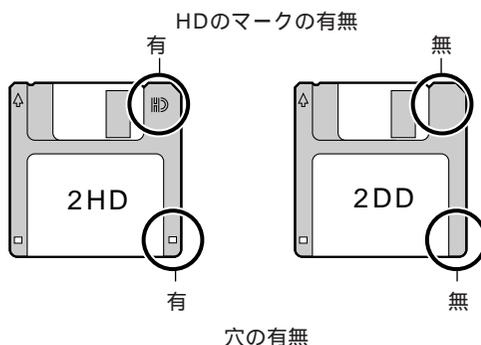
2HD

1.44MB、1.2MBの記憶容量のものです。

2DD

2HD(1.44MB)の半分の、720KBの記憶容量のものです。

上記の2種類のフロッピーディスクの外見は、下図のような違いがあります。



なお、本パソコンでは1.2MBにフォーマットすることはできません。フロッピーディスクのフォーマット方法については、『[わかるがるパソコン入門](#)』をご覧ください。

用語

MB(メガバイト)

バイトとは、パソコンで扱うデータの大きさをあらわす単位のことです。M(メガ)は100万を表します。1MBとは、約100万バイトのデータということです。

パソコンで使われる単位には、他にKB(キロバイト)、GB(ギガバイト)があります。1KBは約1000バイト、1GBは約10億バイトのデータを表します。

アドバイス

データを読み出せないことがあります

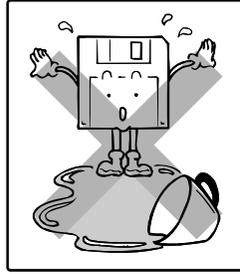
フロッピーディスクをフォーマットした環境(メーカー、機種、ソフトウェア)が違くと、データを読み出せないなど、正しくお使いにならないことがあります。

フロッピーディスクをご購入のときは

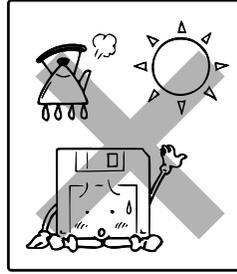
「DOS/V用フォーマット済み」と書かれたものをご購入ください。

気をつけてください~フロッピーディスクを使うとき

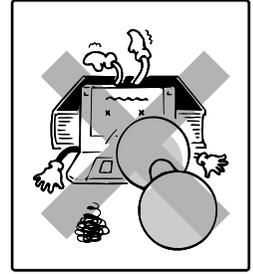
フロッピーディスクをお使いになるときは、次の点にご注意ください。データの読み書きができなくなることがあります。



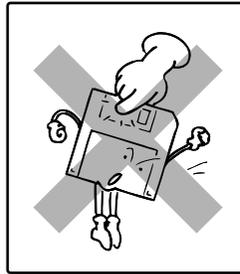
コーヒーなどの液体をかけないでください。



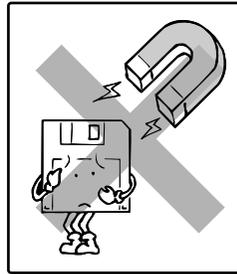
湿度の高い場所や直射日光の当たる場所には置かないでください。



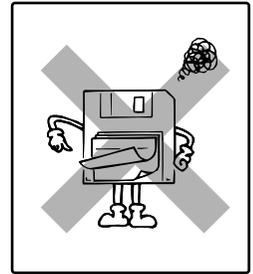
曲げたり、重い物をのせたりしないでください。



シャッターを開いて、中のディスク面に絶対に触れないでください。



磁石など磁気を帯びたものを近づけないでください。



ラベルを重ねて貼らないでください。
ドライブから取り出せなくなる原因となります。

フロッピーディスクをセットする / 取り出す



けが フロッピーディスクをセットまたは取り出すときは、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れないでください。
けがの原因となります。

セットする

- 1 矢印のある面を左にして、フロッピーディスクドライブに差し込みます。

「カシャッ」と音がして、フロッピーディスク取り出しボタンが飛び出すまで差し込んでください。



取り出す



重要

データが壊れる恐れがあります

フロッピーディスクアクセス表示ランプの点灯中に、フロッピーディスクを取り出さないでください。

- 1 フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えていることを確認し、フロッピーディスク取り出しボタンを押します。

フロッピーディスクが出てきます。

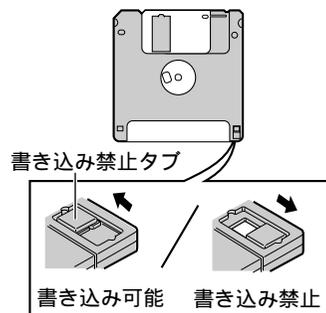


フロッピーディスクのデータを守るには

フロッピーディスクに保存してある情報を誤って消さないようにするには、フロッピーディスクの書き込み禁止タブをスライドさせ、穴があいた状態（書き込み禁止の状態）にします。

再び情報を書きこみたいときは、書き込み禁止タブをスライドさせ、穴が閉じた状態にします。

また、前ページの「気をつけてください～フロッピーディスクを使うとき」の注意事項を守ってお使いください。





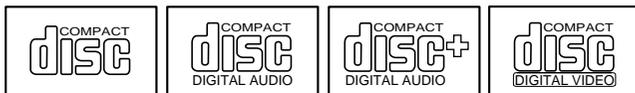
4

CD-ROM を使う

CD-ROM ドライブでは、CD-ROMの映像や音声、音楽CDなどを再生できます。また、パソコンのプログラムやデータの読み込みができます。ここでは、CD-ROMドライブでお使いになれるディスクや、CD-ROMドライブの使いかたを説明します。

使えるCDは？

本パソコンでは、下図のマークがついたCD-ROMや音楽CD(12cm、8cm)がお使いになれます。



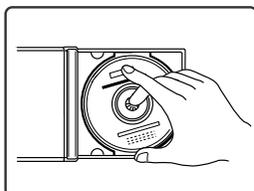
気をつけてください~ CD を使うとき

CD-ROM や音楽CDをお使いになるときは、次の点にご注意ください。

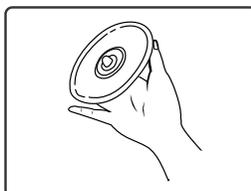
アドバイス

CD-ROM クリーニングディスクは使わないでください

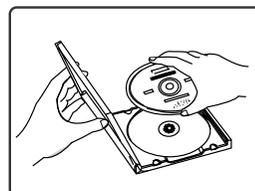
CD-ROM クリーニングディスクをお使いになると、逆にゴミを集めてしまい、CD-ROMドライブのレンズが汚れてしまう場合があります。



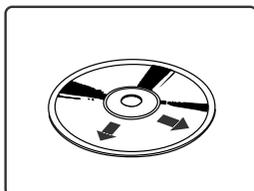
ケースからCD-ROMや音楽CDを取り出すときは、ケースの中央を押しながら取り出してください。



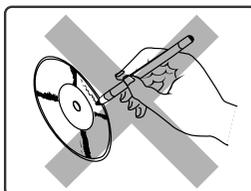
データ面(裏面)に触れないように、CD-ROMや音楽CDのふちを持つようにしてください。



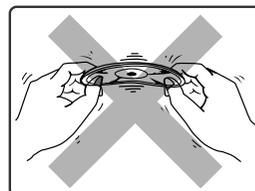
使わないときは、ケースに入れて保管してください。



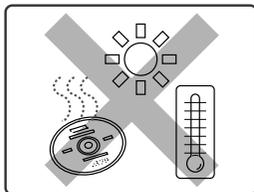
汚れたり水滴がついたりしたときは、乾いた柔らかい布で、中央から外側へ向かって拭いてから、自然乾燥させてください。ヘアードライヤーなどで無理に乾燥させないでください。



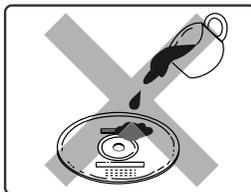
ラベルを貼ったり、ボールペンや鉛筆などで字を書いたりしないでください。また、傷をつけたりしないでください。



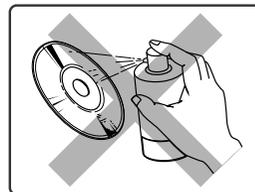
曲げたり、重い物をのせたりしないでください。



高温・低温の場所に保管しないでください。



コーヒーなどの液体をかけないでください。



ベンジン、シンナー、水、レコードスプレー、静電気防止剤、シリコンクロスなどで拭かないでください。

CD をセットする / 取り出す

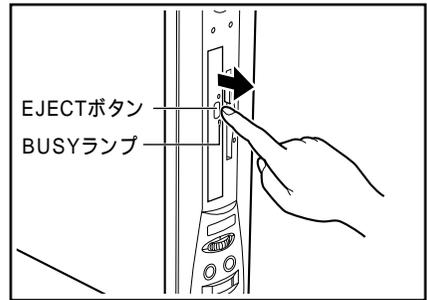
CD-ROM や音楽 CD (以下、まとめて CD と呼びます) は、パソコンの電源が入っている状態のときにセットや取り出しができます。



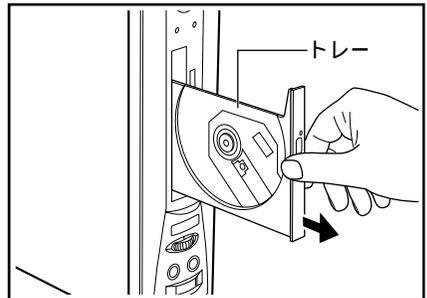
けが CD-ROM をセットまたは取り出すときは、CD-ROM ドライブのトレイに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

セットする

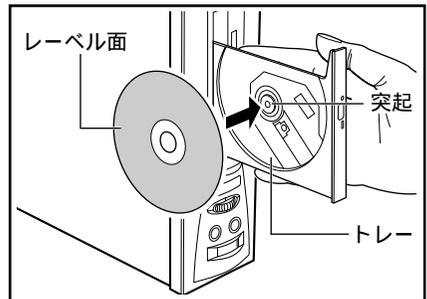
- 1** EJECT ボタンを押します。
CD をセットするトレイが少し出てきます。



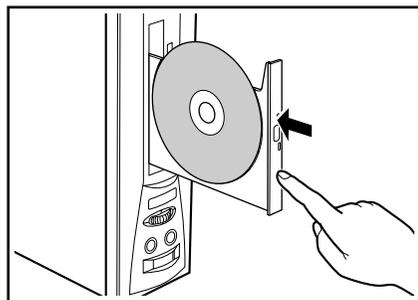
- 2** 出てきたトレイの中央を持って、手で引き出します。



- 3** CD のレーベル面 (印刷面) を左にして、トレイの中央に「カチッ」という音がするまではめ込みます。
このとき、パソコン本体が転倒しないようトレイを手で押さえてください。



- 4** トレーを戻します。
 トレーを「カチッ」という音がするまで手で静かに押し込んでください。
 CD がセットされ、BUSY ランプが点滅します。BUSY ランプが消えたことを確認してから、次の操作に進んでください。



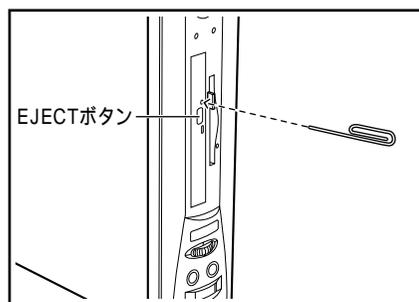
取り出す

- 1** CD を使っているアプリケーションがあれば、終了します。
- 2** BUSY ランプが消えていることを確認し、EJECT ボタンを押します。
 CD がセットされたトレーが少し出てきます。
- 3** 出てきたトレーを手で引き出し、CD を取り出します。
- 4** トレーを戻します。
 トレーを「カチッ」という音がするまで手で静かに押し込んでください。

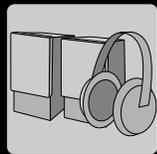
CD が取り出せないときは

曲がりにくい針金(大きなクリップをのばしたものなど)をご用意のうえ、次の手順で CD を取り出してください。

- 1** パソコン本体の電源を切ります。
- 2** 用意した針金を、EJECT ボタン上部にある穴に差し込みます。
 まっすぐに、少し力をこめて差し込んでください。トレーが少し飛び出します。



- 3** トレーを手前に引き出して、CD を取り出します。
- 4** トレーを戻します。
 トレーを「カチッ」という音がするまで手で静かに押し込んでください。



5

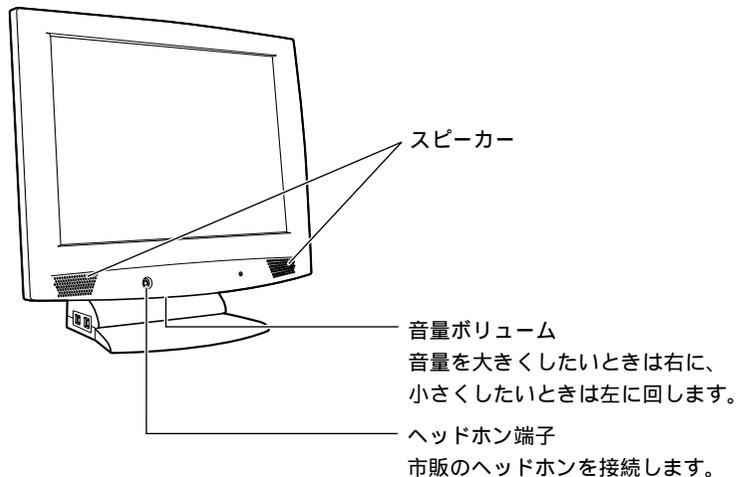
スピーカー / ヘッドホンを使う

ここでは、スピーカーの取り扱い上の注意や、音量を調節する方法、ヘッドホンを使う方法について説明します。

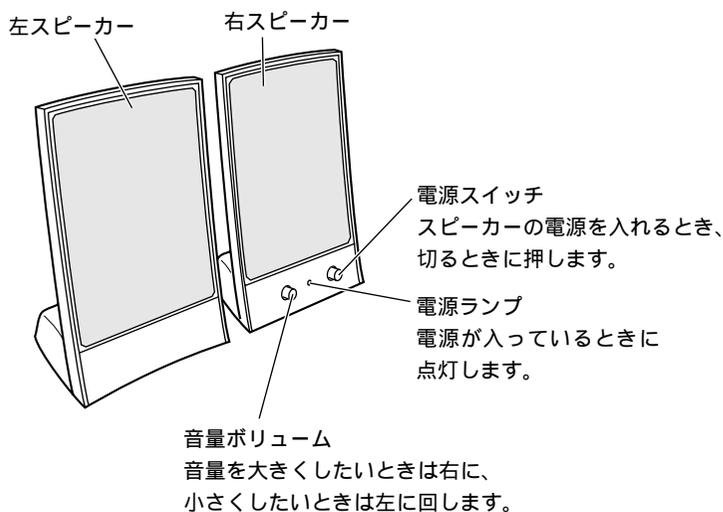
スピーカーの接続方法について詳しくは、『取扱説明書』をご覧ください。

C/50L, C/45L, C/40L をお使いの方は

スピーカーは、ディスプレイに内蔵されています。



C/457, C/407, C/405 をお使いの方は



気をつけてください～スピーカーを使うとき

スピーカーをお使いになるときは、次の点にご注意ください。

- ・スピーカーを使うときは、スピーカーの電源を入れてください。また、使わないときは、電源を切っておいてください。
- ・スピーカーの電源が入っている状態でパソコン本体の電源を切ると、異音があることがありますが、故障ではありません。パソコン本体の電源を切る前に、スピーカーの電源を切ってください。
- ・スピーカー用のACアダプタは、風通しのよいところに、ディスプレイから離して設置してください。
- ・ACアダプタは、必ずスピーカーに接続してからコンセントに接続してください。
- ・スピーカーの前面のパネルは、爪で引っかいたり、硬いものを当てたりしないでください。傷や音質の劣化の原因となります。また、パネルを鋭利なもので突き刺すと穴があくおそれがあります。
- ・スピーカーの前面のパネルにスプレーなどの揮発性のものをかけないでください。また、ゴムやビニール製品などを長時間接触させないでください。変質したり、塗料が剥げる原因となります。

音量を調節する

音量は、次の方法で調節できます。

- ・パソコン本体前面の音量ボリュームを使う
- ・ディスプレイの音量ボリュームを使う（C/50L, C/45L, C/40Lをお使いの方）
- ・スピーカーの音量ボリュームを使う（C/457, C/407, C/405をお使いの方）
- ・キーボードの音量調節ボタンを使う
- ・画面の音量つまみを使う

このうち、キーボードの音量調節ボタンは、画面の音量つまみと連動しています。また、それぞれの音量調節は相互に関係があります。

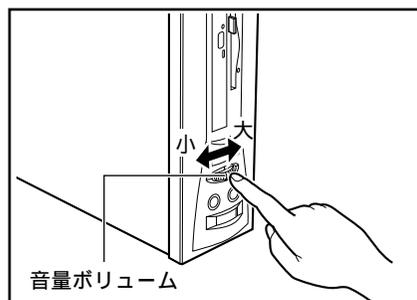
たとえば、上記の音量調節機能のうちどれか1つを最小にすると、他の音量を大きくしてもスピーカーからの音は聞こえません。また、すべての音量を最大にすると、スピーカーからの音量は最大となります。

ここでは、それぞれの音量調節のしかたを説明します。

パソコン本体前面の音量ボリュームを使う

1 音量ボリュームを回し、適切な音量に調節します。

左に回すと小さく、右に回すと大きくなります。

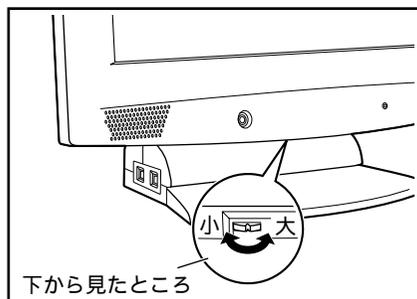


ディスプレイの音量ボリュームを使う(C/50L, C/45L, C/40Lをお使いの方)

- 1** ディスプレイの音量ボリュームを回し、適切な音量に調節します。

音量ボリュームは、ディスプレイの下にあります。2つ並んでいるボリュームの左側です。

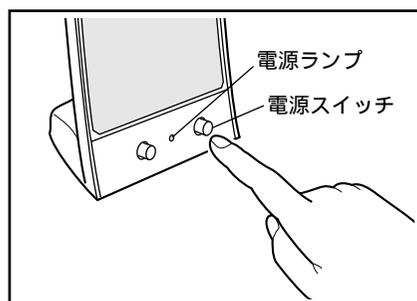
左に回すと小さく、右に回すと大きくなります。



スピーカーの音量ボリュームを使う(C/457, C/407, C/405をお使いの方)

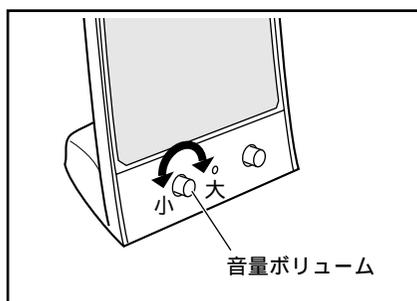
- 1** 右スピーカーの電源スイッチを押して、スピーカーの電源を入れます。

スピーカーの電源ランプが点灯します。



- 2** スピーカーの音量ボリュームを回し、適切な音量に調節します。

左に回すと小さく、右に回すと大きくなります。

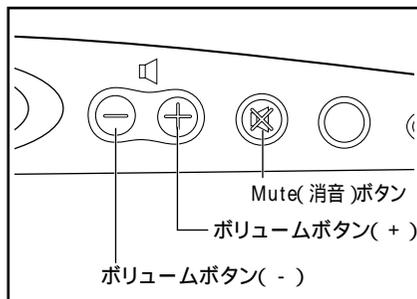


キーボードの音量調節ボタンを使う

1 キーボード上部にある音量調節ボタンを押して、適切な音量に調節します。

ボリュームボタン(-)を押すと小さく、ボリュームボタン(+)を押すと大きくなります。

Mute(消音)ボタンを押すと音が消え、タスクバーの表示がに変わります。もう一度押すと元の音量に戻り、タスクバーの表示もに戻ります。



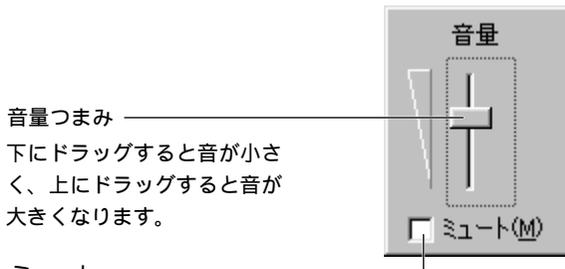
画面の音量つまみを使う

キーボードの音量調節ボタンの操作と同じことが、以下の手順で行えます。

1 タスクバーの (音量) をクリックします。

音量つまみが表示されます。

2 音量つまみを上下にドラッグして、適切な音量に調節します。



音量つまみ
下にドラッグすると音が小さく、上にドラッグすると音が大きくなります。

ミュート
ここをクリックして にすると音が消え、タスクバーの表示がに変わります。もう1度クリックして にすると元の音量に戻り、タスクバーの表示もに戻ります。

3 デスクトップの何もないところをクリックします。

音量つまみが閉じます。

閉じなかったときは、いったん音量つまみをクリックしてからデスクトップの何もないところをクリックしてください。

アドバイス

タスクバーに (音量) が表示されていないとき

『トラブル解決Q&A』の「タスクバーに (音量) が表示されない」をご覧ください。

その他の音量調節のしかた

「出力マスター」ウィンドウの出力マスターのつまみを上下にドラッグしても、音量を調節できます。

「出力マスター」ウィンドウの表示方法は次のとおりです。

- 1 タスクバーの (音量) を右クリックします。
- 2 表示されたメニューの「音量コントロールを開く」をクリックします。

「出力マスター」ウィンドウでは、以下の音量調節ができます。

- ・出力マスター：パソコン全体の音量
- ・Wave：Wave ファイルの音量
- ・シンセサイザ：MIDI の音量
- ・CD：音楽CDの音量
- ・ライン入力：ライン入力の音量

なお、各項目で調節した音量は、パソコン本体の電源を切ると、ご購入時の状態に戻ることがあります。

スピーカーから音が聞こえないときは

次のことを確認してください。

- ・スピーカーが正しく接続されているか
『取扱説明書』をご覧になり、正しく接続されているか確認してください。
- ・適切な音量になっているか
音量調節機能（←P.27）のどれか1つでも音量が最小になっていると、スピーカーからの音は聞こえません。適切な音量に調節してください。
また、画面の音量つまみのミュートが☑になっている（タスクバーに🔇と表示されている）と音は聞こえません。キーボードのMute（消音）ボタンを押すか、☑をクリックして☐にしてください。
- ・ヘッドホンが接続されていないか
ヘッドホンが接続されていると、スピーカーからの音は聞こえません。ヘッドホンを取り外してください。

ヘッドホンを使う

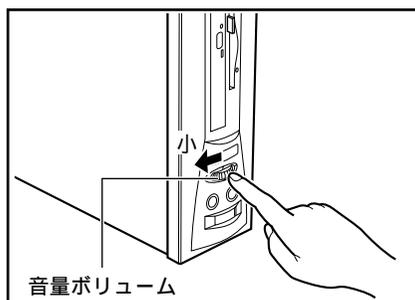
ヘッドホンは、パソコン本体前面のヘッドホン端子に接続します。



聴力障害 ⚠
ヘッドホンをお使いになるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。
耳を刺激するような大きな音量で長時間お使いになると、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

聴力障害 ⚡
ヘッドホンをしたままパソコン本体の電源を入れたり切ったりしないでください。
刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

- 1 パソコン本体前面の音量ボリュームを左に止まるまで回して、音量を最小にします。



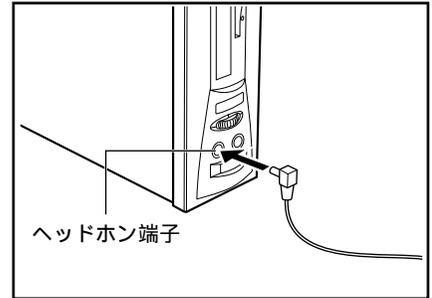
アドバイス

ヘッドホンを接続すると

スピーカーからは音が聞こえなくなります。

2 ヘッドホンのプラグをヘッドホン端子に差し込みます。

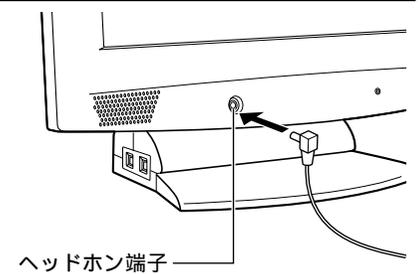
2つ並んでいる差し込み口の左側です。



アドバイス

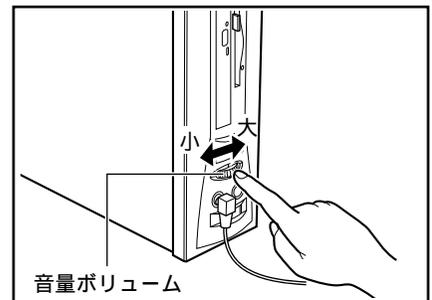
C/50L, C/45L, C/40L をお使いの方は

ディスプレイのヘッドホン端子に接続することもできます。



3 音量ボリュームで適切な音量に調節します。

左に回すと小さく、右に回すと大きくなります。



2

基本的な機能をお使い（スピーカー/ヘッドホンを使う）

ヘッドホンから音が聞こえないとき

次のことを確認してください。

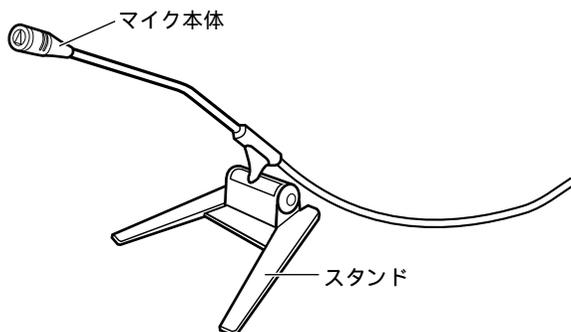
- ・ヘッドホンが正しく接続されているか
「ヘッドホンを使う」(P.30)をご覧ください、正しく接続されているか確認してください。
- ・適切な音量になっているか
音量調節機能 (P.27) のどれか 1 つでも音量が最小になっていると、ヘッドホンからの音は聞こえません。適切な音量に調節してください。
また、画面の音量つまみのミュートが になっている (タスクバーに  と表示されている) と音は聞こえません。キーボードの Mute (消音) ボタンを押すか、 をクリックして にしてください。



6

マイクを使う

本パソコンでは、マイクを使って録音できます。
マイクは、パソコン本体前面のマイク端子(←P.3)に接続します。
ここでは、マイクの取り扱い上の注意や、マイクを使った録音の方法について説明します。



気をつけてください~マイクを使うとき

マイクをお使いになるときは、次の点にご注意ください。

- ・スピーカーから離してお使いください。
ハウリング(キーンと音がすること)を起こす場合があります。
- ・録音するときは、マイクと口との距離が15~30cmの範囲になるようにお使いください。
- ・マイクの先を手で持たないでください。

マイクで録音しよう

マイクを使って音声などを録音するには、Windows98の「サウンドレコーダー」というアプリケーションを使います。

まず準備

- 1** タスクバーの(音量)を右クリックします。
- 2** 表示されたメニューの「音量コントロールを開く」をクリックします。
「出力マスター」ウィンドウが表示されます。
- 3** 「オプション」メニューの「プロパティ」をクリックします。

アドバイス

市販のマイクはお使いになれません

必ず添付のマイクをお使いください。

アドバイス

タスクバーに(音量)が表示されていないときは

『トラブル解決Q&A』の「タスクバーに(音量)が表示されない」をご覧ください。

- 4** 「音量の調整」の「録音」の をクリックして にします。



- 5** 「表示するコントロール」の「マイクロフォン」が になっていることを確認します。
 になっているときは、クリックして にします。

- 6** 「OK」をクリックします。
「録音マスター」ウィンドウが表示されます。

- 7** 「マイクロフォン」の音量つまみをドラッグして、マイク（入力レベル）を調節します。

- 8** 「録音マスター」ウィンドウの右上にある **X** (閉じるボタン) をクリックします。
「録音マスター」ウィンドウが閉じます。

録音しよう

- 1** 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」, 「アクセサリ」, 「エンターテイメント」の順にマウスポインタを合わせ、「サウンドレコーダー」をクリックします。
「サウンドレコーダー」ウィンドウが表示されます。

2 (録音) をクリックします。



3 マイクから音声を録音します。

4 録音が終わったら (停止) をクリックします。

5 (再生) をクリックします。

録音した音声再生されます。

6 「ファイル」メニューの「名前を付けて保存」をクリックします。

7 保存する場所を選択し、ファイル名を入力して、「保存」をクリックします。

録音した音声ファイルに保存されます。



8 「サウンドレコーダー」ウィンドウの右上にある (閉じるボタン) をクリックします。

「サウンドレコーダー」ウィンドウが閉じます。

アドバイス

録音した音声が入らないときは

- 1 「ファイル」メニューの「新規」をクリックします。
- 2 「ファイルサウンドは変更されています。変更を保存しますか？」というメッセージが表示されるので、「いいえ」をクリックします。
- 3 右記の手順 2 から操作し直します。録音をやり直せます。



7

スクロールボタンを使う

スクロールボタンを使うと、マウスでより簡単に画面をスクロールすることができます。

スクロールについて詳しくは、『わかるがるパソコン入門』をご覧ください。

なお、使用するアプリケーションによって、動作が異なったり、お使いになれないことがあります。

例として、ここではスクロールボタンを使って「FM WORLD パソコン便利帳」の情報を見てみます。

スライドして使う

- 1 ウィンドウをアクティブにした状態で、便利帳の情報が表示されている領域にマウスポインタを合わせます。

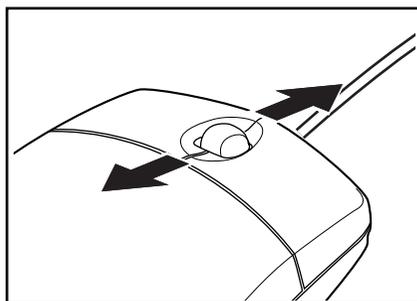


マウスポインタを合わせます

- 2 スクロールボタンを、マウスの後方へスライドさせます。

ウィンドウの中の表示がスクロールしていきます。

スクロールボタンをマウスの前方へスライドさせると、反対方向にスクロールしていきます。



押して使う

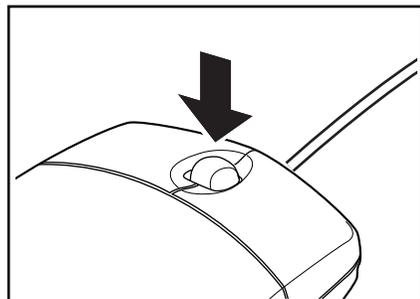
1 ウィンドウの中にマウスポインタを合わせます。



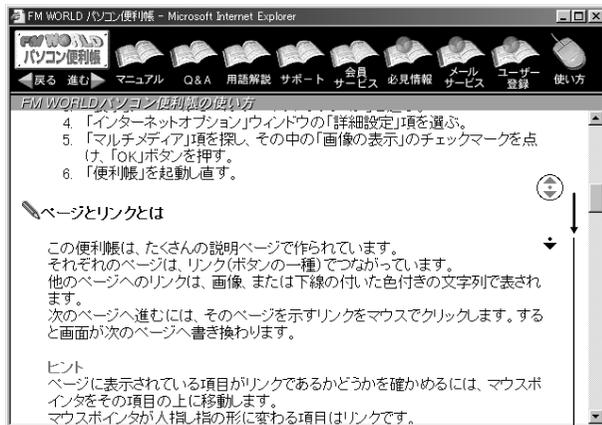
マウスポインタを合わせます

2 スクロールボタンを押します。

マウスポインタの表示が  に変わります。



3 スクロールさせたい方向にマウスを動かします。



マウスを動かします

ウィンドウの中の表示がスクロールしていきます。

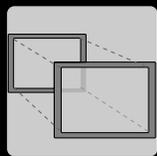
マウスポインタの表示を  に戻すには、もう一度スクロールボタンを押すか、クリックしてください。

アドバイス

スクロールする速さを調整できます

スクロールボタンを押したところからマウスを動かしたところまでの距離によって、スクロールする速さを調整できます。





8

画面の解像度や発色数を変える

用語

解像度
縦横にどれだけの点(ドット)を表示できるかを示すものです。

アドバイス

解像度や発色数が指定されているときはアプリケーションによっては、使用時の解像度や発色数が指定されていることがあります。必要に応じて変更してください。

解像度を高く(大きい数字に)すると画面を広く使えるようになり、多くのウィンドウを表示できます。発色数を増やすと画面に表示できる色数が多くなります。ここでは、画面の解像度や発色数の変更のしかたを説明します。



(画面は機種により若干異なります。)

表示できる解像度と発色数

本パソコンで表示できる解像度や発色数は次のとおりです。

解像度	設定可能な発色数	C/50L, C/45L, C/40L	C/457, C/407	C/405
640×480ドット	16色			
	256色			
	HighColor (16ビット)			
	TrueColor (24ビット)			
800×600ドット	256色			
	HighColor (16ビット)			
	TrueColor (24ビット)			
	TrueColor (32ビット)			
1024×768ドット	256色			
	HighColor (16ビット)			
	TrueColor (24ビット)			
	TrueColor (32ビット)			
1280×1024ドット	256色	×		×
	HighColor (16ビット)	×		×
	TrueColor (24ビット)	×		×
	TrueColor (32ビット)	×		×

- は表示可能、×は表示不可、 はご購入時の設定です。
- HighColor (16ビット)は6万5千色、TrueColor (24ビット)とTrueColor (32ビット)は1677万色です。

重要

上の表に書かれている以外の解像度ではお使いにならないでください
設定できる発色数は、画面の解像度によって異なります。

解像度や発色数を変更する

重要

アプリケーションを終了してください

解像度、発色数を変更すると、再起動しなければならないことがあります。作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了させてから変更してください。

アクティブデスクトップを解除してください

解像度と発色数を変更する前に、次の手順に従ってアクティブデスクトップの設定を解除してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックし、チェックマークを外します。

解像度と発色数を変更した後に、改めてアクティブデスクトップに設定してください。

解像度や発色数を変更するとき

- ・ 解像度、発色数の設定によっては、ディスプレイの調整が必要な場合があります。
- ・ アプリケーションによっては、解像度や発色数の設定により、正常に動作しないことがあります。お使いになるアプリケーションの動作環境を確認し、解像度や発色数を変更してください。
- ・ 解像度を変更するときに、一時的に画面が乱れることがあります。動作には問題ありません。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

- 2  (画面) をクリックします。

- 3 「設定」タブをクリックします。



(これ以降の画面は機種により若干異なります。)

4 解像度や発色数を変更します。

解像度を変更するには、「画面の領域」の  を左右にドラッグしてください。発色数を変更するには、「色」の  をクリックし、一覧から設定したい発色数をクリックしてください。



画面の領域
画面の解像度を指定します。

色
画面の発色数を指定します。

アドバイス

C/50L, C/45L, C/40L をお使いの方は

リフレッシュレートは「最適」でお使いください。
リフレッシュレートの設定は、以下の手順に従って行います。

- 1 「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで、「詳細」をクリックします。
「RAGE LT PRO AGP (日本語)」のプロパティウィンドウが表示されます。
- 2 「アダプタ」タブをクリックします。
- 3 「リフレッシュレート」が「最適」になっていることを確認します。
なっていない場合は、右側の  をクリックし、「最適」をクリックします。
- 4 「OK」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウに戻ります。



アドバイス

「互換性の警告」ウィンドウが表示されたときは

- 1 「新しい色の設定でコンピュータを再起動する」が  になっていることを確認し、「OK」をクリックします。
- 2 「システム設定の変更」ウィンドウで「はい」をクリックします。
本パソコンが再起動します。

5 設定が終了したら「OK」をクリックします。

「OK」をクリックすると、画面にメッセージが表示されます。指示に従って再起動してください。



9

基本的な機能を使おう

お手入れのしかた

ここではパソコンを快適にお使いいただくために、パソコンのお手入れのしかたを説明します。

お手入れのしかたは、ディスプレイ、マウス、フロッピーディスクドライブなど、各部によって異なります。それぞれの部分に合ったお手入れをしてください。

パソコン本体 / ディスプレイ / キーボード / スピーカーのお手入れ



警告 感電 お手入れを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。接続されている機器を、パソコン本体から取り外してください。



重要

シンナーやベンジンなどの揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。アルコール成分を含んだ市販のクリーナーは使用しないでください。

縦置き用フット(←P.3)やパソコン本体の通風孔(←P.5)にほこりが溜まらないように、定期的に清掃してください。

汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。

汚れがひどいときは、水または中性洗剤を含ませた布を固く絞って、拭き取ってください。中性洗剤を使って拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って、中性洗剤を拭き取ってください。また拭き取るときは、パソコン本体やディスプレイ、キーボード、スピーカーに水が入らないよう十分注意してください。

マウスのお手入れ



警告 感電 お手入れを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。接続されている機器を、パソコン本体から取り外してください。



重要

シンナーやベンジンなどの揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。アルコール成分を含んだ市販のクリーナーは使用しないでください。

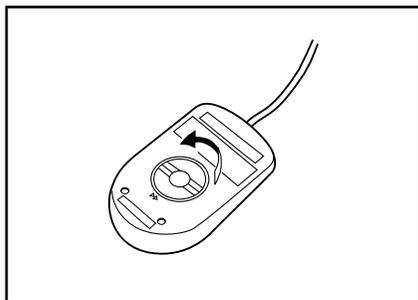
表面の汚れは、乾いた布か、または水か中性洗剤を含ませた布で軽く拭き取ってください。

また、マウスの裏にあるボールが汚れていると、すべりが悪くなります。マウスのボールは、マウスから取り外してクリーニングできます。ボールのクリーニング方法は次のとおりです。

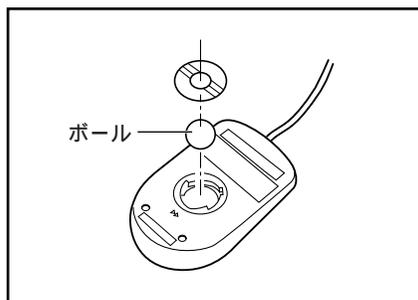
2

基本的な機能を使おう(お手入れのしかた)

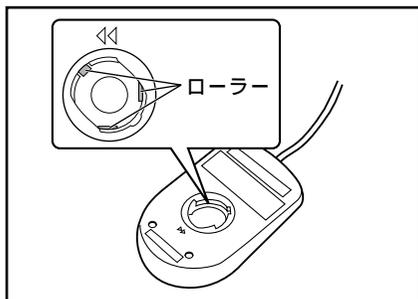
- 1** マウスの裏ボタンを、矢印の方向に回して取り外します。



- 2** ボールを取り出して、水または中性洗剤で洗います。洗ったあと、乾いた布でよく拭いて十分に乾かしてください。



- 3** マウス内部の汚れを拭き取ります。水に浸して固く絞った布で、マウス内部および裏ボタンを拭きます。ローラー部分は水で湿らせた綿棒などで拭いてください。



- 4** ボールをマウスに戻し、裏ボタンを取り付けます。

フロッピーディスクドライブのお手入れ

フロッピーディスクは長い期間使っていると、ヘッド(データを読み書きする部分)が汚れてきます。ヘッドが汚れると、データを正常に読み書きできなくなります。別売りのクリーニングフロッピーをご購入になり、3ヶ月に1回はクリーニングを行ってください。

用意するもの

商品名 : クリーニングフロッピーマイクロ

商品番号 : 0212116

(富士通コワーコ株式会社取り扱い品 お問い合わせ : 03-3342-5375)

アドバイス

ゴミは完全に除去してください

ローラー部分にゴミがたまると、マウスが正常に動かない原因となることがあります。

お手入れのしかた



けが クリーニングフロッピーをセットまたは取り出すときには、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

2

基本的な機能を使う（お手入れのしかた）

- 1** 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」にマウスポインタを合わせ、「MS-DOS プロンプト」をクリックします。
「MS-DOS プロンプト」ウィンドウが表示されます。
- 2** 「C:¥WINDOWS>」に続けて次のように入力し、**[Enter]**を押します。
`c:¥fjuty¥clndsk 0`
「clndsk」と「0（数字のゼロ）」の間は、を1回押してください。
- 3** クリーニングフロッピーをフロッピーディスクドライブにセットし、**[Enter]**を押します。
「クリーニング中です。あとXX秒」と表示され、クリーニングがはじまります。
しばらくすると、「ヘッドクリーニングが終了しました。」と表示されます。
- 4** フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えているのを確認し、クリーニングフロッピーを取り出します。
- 5** 「MS-DOS プロンプト」ウィンドウ右上の **×**（閉じるボタン）をクリックします。
「MS-DOS プロンプト」ウィンドウを全画面表示しているときは、`exit`と入力し、**[Enter]**を押してください。

第 3 章

オプション機器を活用しよう！

パソコンは、さまざまなオプション機器を接続して機能を拡張することができます。

お使いになる目的に応じて、オプション機器を取り付けてください。

本章では、別売りのオプション機器を使うために必要な、接続や設定のしかたについて説明しています。

1. オプション機器を取り付ける前に	46
2. つないで活用！！	50
3. パワーアップするために～本体カバーを取り外す～	59
4. メモリを増やす	62
5. 拡張カードを増設する	69
6. MOドライブを増設する	76
7. その他のオプション機器を使う	81



1

オプション機器を取り付ける前に

ここでは、本パソコンに取り付けられるオプション機器の種類や、オプション機器を取り付ける前に知っておいていただきたいことなどを説明します。

取り付けられるオプション機器

別売りのオプション機器を取り付けると、こんなことができます。

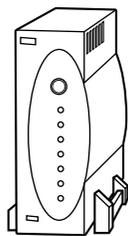
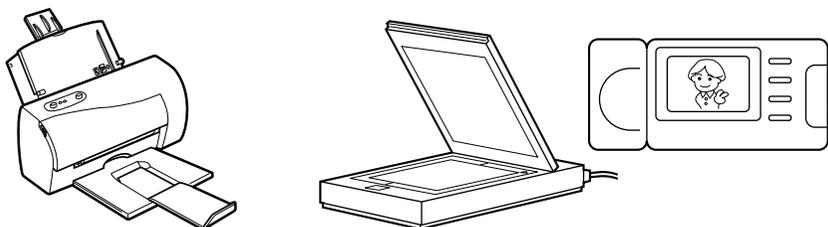
そのままつなごう！～本体カバーを外さないで接続できるもの～

文書や画像を印刷したい！

～プリンタを接続する（☞P.50）～

お気に入りのイラストや写真を取り込みたい！

～スキャナ/デジタルカメラを接続する（☞P.54）～



ISDN回線に接続するには？

～ターミナルアダプタを接続する（☞P.56）～



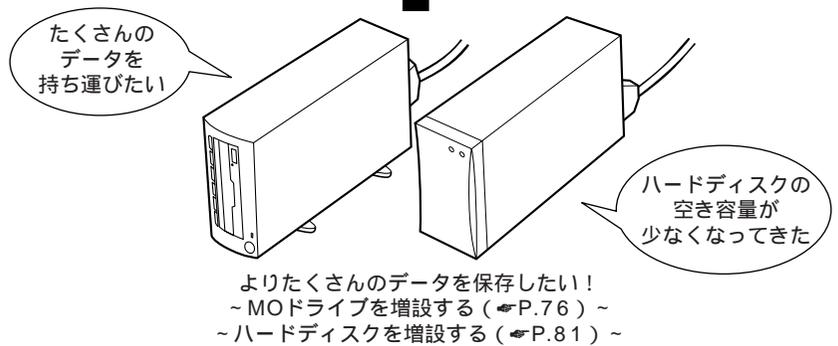
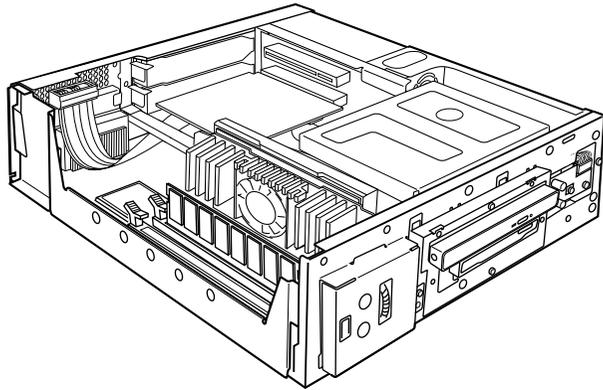
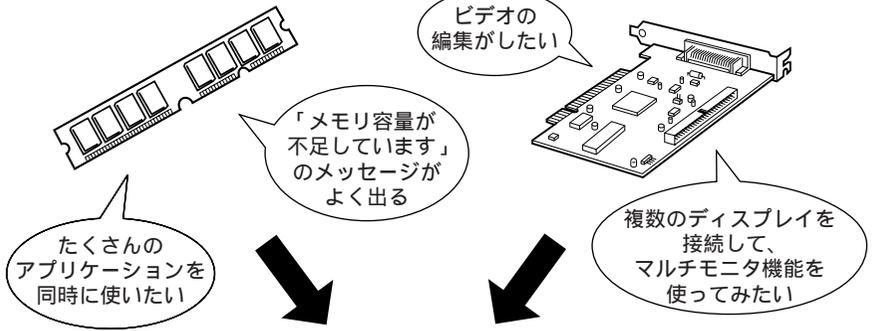
つないでラクラク！

～USB機器を接続する（☞P.57）～

パワーアップ！～本体カバーを外して接続するもの～

パソコンの処理をより快適にしたい！
～メモリを増設する（←P.62）～

パソコンの機能を増やしたい！
～拡張カードを増設する（←P.69）～



オプション機器の接続にあたって

本パソコンで別売りのオプション機器をお使いになるときは、以下の流れにそって行ってください。

アドバイス

純正品をお使いください

接続するオプション機器は、弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします。

他社製品をお使いになる場合は、本パソコンで正しく動作することを製造元のメーカーにご確認ください。

オプション機器が ACPI 機能に対応していない場合

増設するオプション機器が ACPI に対応していないときは、本パソコンの設定を APM 機能に変更する必要があります。

APM 機能への変更のしかたについては「APM について」(P.157)をご覧ください。

用語

ドライバ

ドライバとは、パソコンに取り付けた機器を正しく扱うためのソフトウェアのことです。「デバイスドライバ」とも呼ばれます。

ドライバは、OS とオプション機器との仲立ちをします。パソコンのプログラムが実行しようとする命令を、オプション機器が理解できるように翻訳するのが役目です。

ドライバは、それぞれのオプション機器に対して専用のものがあります。メーカーや機種が違えばドライバも異なります。ほとんどのオプション機器には、ドライバが CD-ROM やフロッピーディスクなどで添付されています。

まずは準備から！必要なものを用意しよう

本パソコンは「PC/AT 互換機」という規格のパソコンです。

接続に使うケーブルも「PC/AT 互換機」と表示されたものを用意しましょう。

また、接続するオプション機器は、弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします。

準備が整ったら、いよいよ接続！

オプション機器によって取り付け方法が異なります。

必ずオプション機器のマニュアルも合わせてご覧ください。

本体カバーを外さないで接続するもの

プリンタ、スキャナ、
デジタルカメラ、USB 機器、
ターミナルアダプタ など

本体カバーを外して接続するもの

メモリ、拡張カード、
MO ドライブ、ハードディスク など

あと一歩！ドライバをインストールしよう

オプション機器には、接続するだけで使えるものと、設定作業が必要なものがあります。

必ずオプション機器のマニュアルも合わせてご覧ください。

完了！オプション機器を使いこなそう！

取り付けるときはここに注意！！

オプション機器を取り付けるときは、次のことに注意してください。

Windows98のセットアップは終了していますか？

Windows98のセットアップを行う前に取り付けると、セットアップが正常に行われないおそれがあります。☞『取扱説明書』をご覧ください、Windows98のセットアップを行ってください。

一度に取り付けるオプション機器はひとつだけ！

一度に複数のオプション機器を取り付けると、ドライバのインストールなどが正常に行われないおそれがあります。

作業前にパソコン本体および接続されている機器の電源はOFFに！

安全のため、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

さらに本体カバーを取り外して作業する場合には、次のことにも注意してください。

電源を切った直後は作業をしない！

電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあと10分ほど待ってから、作業をはじめましょう。

電源ユニットは分解しない！

内部のケーブル類や装置の扱いに注意！

傷つけたり、加工したりしないでください。

一度大きな金属質のものに手をふれて静電気を放電しよう！

内蔵オプション機器は、基板や電子部品がむきだしになっています。これらの部分は、人体にたまる静電気によって損傷を受ける場合があります。

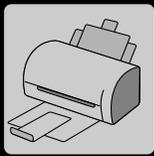
基板表面やはんだ付けの部分、コネクタ部分には触れないで！

金具の部分や基板のふちを持つようにしてください。

工具を用意しましょう！

パソコン本体のスロットカバーや金具などの取り外しには、プラスのドライバーが必要です。ネジの頭をつぶさないように、ネジのサイズに合ったドライバーをお使いください。

なお、本書で説明している以外のオプション機器の取り付けや、分解を行った場合は、保証の対象外となります。



2

つないで活用！！

ここでは、つなぐだけで簡単に使えるプリンタ、スキャナ、デジタルカメラ、ターミナルアダプタ、USB 機器の接続について説明します。



感電 オプション機器の取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電・火災または故障の原因となります。



故障

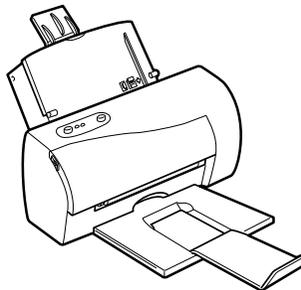
- ・オプション機器ケーブルは正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体およびオプション機器が故障の原因となることがあります。
- ・オプション機器、およびオプション機器ケーブルは、弊社純正品をお使いください。純正品以外のオプション機器、およびオプション機器ケーブルをお使いになると、故障の原因となることがあります。

文書や画面を印刷したい！～プリンタを接続する～

年賀状、カード、企画書・・・作ったものを印刷したい時は、プリンタを接続します。

必要なものを用意する

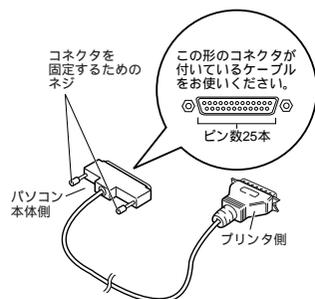
プリンタを接続するには、次のものがが必要です。



プリンタ

パソコン本体背面の平行コネクタ（←P.5）に接続するものや、USB コネクタ（←P.3）に接続するものなどがあります。

Windows 98 で動作可能なものをご購入ください。



プリンタケーブル

プリンタとパソコンを接続するためのケーブルです。

「PC/AT 互換機用」などと記載されていて、コネクタが「D-SUB25ピン」で、ネジで固定する形のものをお使いください。

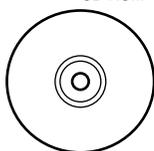
プリンタケーブルは、通常プリンタに添付されていません。別途ご購入ください。

また、USB ケーブルで接続するプリンタもあります。

フロッピーディスク



CD-ROM



プリンタのドライバ
プリンタに添付されています。
プリンタドライバのフロッピーディスクが数枚添付されている場合は、「Windows98対応」「PC/AT互換機用」などと記載されたものをお使いください。



プリンタのマニュアル
CD-ROMで見るマニュアルもあります。

**重要**

弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

純正品以外のプリンタ、およびプリンタケーブルを取り付けて正常に動かなかったり、本パソコンが故障しても、保証の対象外となります。

プリンタを接続する

ここでは、プリンタをパソコン本体の平行コネクタに接続する方法について説明します。

USB コネクタに接続するプリンタについては、「つないでらくらく！～USB 機器を接続する～」(←P.57)をご覧ください。

**重要**

プリンタは、Windows98のセットアップ終了後に取り付けてください

Windows98のセットアップ(←『取扱説明書』)を行う前に取り付けると、Windows98のセットアップが正常に行われずおそれがあります。

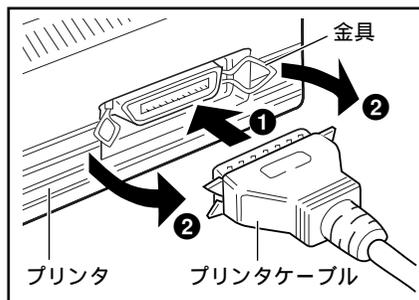
プリンタのマニュアルもご覧ください

接続方法は、プリンタによって異なります。プリンタのマニュアルもあわせてご覧ください。

- 1** パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。

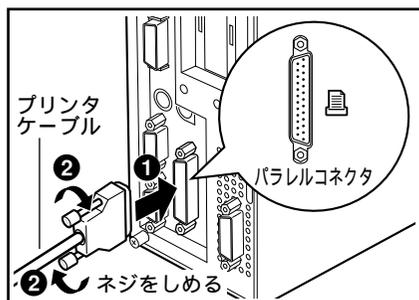
2 プリンタ側のコネクタの形に合わせて、プリンタケーブルのネジが付いていないコネクタを接続します。

プリンタ側のコネクタの左右に金具が付いている場合は、金具でプリンタケーブルを固定してください。



3 パソコン本体背面の平行コネクタ (㊦) の形に合わせて、プリンタケーブルのネジの付いているコネクタを接続します。

プリンタケーブルのコネクタの上下のネジをしめて、プリンタケーブルを固定してください。



4 プリンタに電源ケーブルを接続します。

プリンタに電源ケーブルがつながっている場合もあります。詳しくは、プリンタのマニュアルをご覧ください。

5 本パソコンおよび接続されている機器と、プリンタの電源プラグを、コンセントに差し込みます。

6 初めて接続するプリンタの場合は、続いてプリンタのマニュアルをご覧ください。ドライバをインストールします。

ここに注意してください

プリンタドライバのインストール時の注意

プリンタのマニュアルに「接続して電源を入れると自動的にドライバのインストールが始まります。」と記載されていても、お使いの環境によっては、プリンタのマニュアルに記載されている手順どおりに設定が進まないことがあります。そのときは、以下の手順でドライバをインストールしてください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「プリンタ」をクリックします。
- 2 「プリンタの追加」をクリックします。
「プリンタの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 3 画面の指示に従って、ドライバをインストールしてください。

用語

プラグアンドプレイ (Plug&Play/PnP)

プラグアンドプレイとは、パソコン本体に接続される機器の設定を自動化するためのしくみのことです。特別な設定をしなくても、プリンタやその他の機器を接続しただけで使えるようにします。Windows98はプラグアンドプレイに対応しています。

Windows98のCD-ROMを要求するメッセージが表示されたときは「OK」をクリックしてください。「ファイルのコピー」ウィンドウが表示されず。

「ファイルのコピー元」に `c:\windows\options\cabs` と入力し、「OK」をクリックしてください。

ご購入時のCD-ROMドライブはEです

CD-ROMからプリンタドライバをインストールする場合に、CD-ROMドライブ名を指定するときは `e:\` と入力してください。

通常使うプリンタに設定してください

接続したプリンタは、通常使うプリンタに設定してください。

弊社製プリンタ「XJ-350/XJ-550」をお使いのとき

- ・ 本パソコンには、以下のプリンタドライバがあらかじめ用意されています。そのため、これらのプリンタをお使いになる場合は、プラグアンドプレイでプリンタが認識されたあとに、自動的にドライバのインストールが始まります。
XJ-350 : V1.0L10 XJ-550 : V1.0L10 (1999年7月現在)
- ・ プリンタドライバは、バージョンアップされることがあります。弊社純正品の最新版のドライバは、パソコン通信やインターネットなどのオンライン情報サービスにてご案内します。
 - NIFTY SERVE 富士通FMシリーズ情報「FM INFO」
(GO FMINFOでアクセスできます)
 - インターネット富士通パソコン情報ページ「FM WORLD」
(<http://www.fmworld.ne.jp>)
- ・ 最新版のドライバのインストールは、次の流れにそって行ってください。
 - 1 プリンタの電源を切ります。
 - 2 古いバージョンのドライバを削除します。
削除のしかたについては、プリンタのマニュアルをご覧ください。
 - 3 本パソコンを再起動します。
 - 4 Windows98が起動したら、プリンタの電源を入れます。
 - 5 ダウンロードした最新版のドライバを、「プリンタの追加」でインストールします。

本パソコンを再起動するときにプリンタの電源が入っていると、プラグアンドプレイが行われ、古いドライバが自動的にインストールされてしまいます。必ず、プリンタの電源を切ってから、本パソコンを再起動してください。

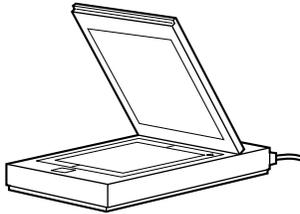
インストール方法などについて詳しくは、プリンタのマニュアルをご覧ください。

お気に入りのイラストや写真を取り込みたい! ~スキャナ/デジタルカメラを使う~

お気に入りのイラストや写真を取り込んで、オリジナルの画像を作りたい・・・
そんなときはスキャナやデジタルカメラを接続します。

必要なものを用意する(スキャナ)

スキャナを使うには、次のものがが必要です。



スキャナ

スキャナは、コピー機のような形のフラットベッド型が一般的ですが、ほかにもハンディスキャナや、フィルムから直接写真を取り込めるフィルムスキャナなどもあります。パソコン本体背面の平行コネクタ(☛P.5)に接続するものやUSBコネクタ(☛P.3)に接続するもの、SCSIカードという拡張カードを使うもの(SCSI規格)などがあります。スキャナにはTWAINという規格があり、フォトタッチソフトのほとんどがこの規格に対応しています。TWAIN対応のスキャナをお使いになることをお勧めします。

アドバイス

SCSI規格のスキャナをお使いになるときは

スキャナの他に、SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗(ターミネータ)が必要になります。SCSI規格のコネクタは数種類あります。対応するケーブルと終端抵抗も異なりますので、よくご確認ください。SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗(ターミネータ)について詳しくは、「MOドライブを増設する」の「必要なものを用意する」(☛P.77)をご覧ください。

フォトタッチソフト(画像を加工するソフトウェア)

取り込んだ画像の色を調整したり、画像を合成したり、自分の好きなファイル形式に変換したりするためのソフトウェアです。

本パソコンには、「らくらく写真館」というフォトタッチソフトが添付されています。

また、スキャナに添付されているフォトタッチソフトもあります。さらに多くの機能を使いたいときには市販のソフトウェアをご購入ください。

スキャナのドライバ

スキャナのマニュアル

用語

SCSI(スカジー)

機器の接続に関する規格のひとつです。SCSI規格の機器には、スキャナのほかに、MOドライブやハードディスクなどがあります。

TWAIN(トゥウエイン)

画像データをコンピュータに取り込むための統一規格です。

スキャナを使うには

ご購入されたスキャナによって、接続方法が異なります。詳しくは、スキャナのマニュアルをご覧ください。

パソコン本体背面の平行コネクタに接続するもの

ケーブルで、スキャナとパソコン本体（平行コネクタ ←P.5）をつなぎます。本パソコンでは、コネクタをネジで固定する形のケーブルをお使いください。接続したあと、スキャナのドライバをインストールします。

USB コネクタに接続するもの

「つないでらくらく！～USB 機器を接続する～」（←P.57）をご覧ください。

SCSI カードに接続するもの

SCSIカードという拡張カードをパソコン本体内部に取り付けます。取り付けかたなどについては「拡張カードを増設する」（←P.69）をご覧ください。

SCSIカードを取り付けたあとに、SCSIケーブルでSCSIカードとスキャナをつなぎます。スキャナには、終端抵抗（ターミネータ）という器具を取り付けます。また、終端抵抗が内蔵されているスキャナもあり、ディップスイッチなどで設定する必要があるものもあります。

接続したあと、スキャナのドライバをインストールします。

必要なものを用意する（デジタルカメラ）

デジタルカメラを使うには、次のものがが必要です。



デジタルカメラ

デジタルカメラは、画像をデジタル情報として記録するカメラで、各社から発売されています。

デジタルカメラからパソコンに画像データを取り込む方法は、お使いのデジタルカメラによって異なります。パソコン本体のシリアルコネクタやUSBコネクタに接続して画像データを取り込むもの、PCカードやフロッピーディスクを使って画像データを取り込むものなどがあります。

デジタルカメラのマニュアルをご覧になり、必要なものをご用意ください。

専用ケーブル

パソコン本体に接続するタイプのデジタルカメラには、専用ケーブルが必要です。ケーブルはデジタルカメラに添付されている場合もあります。

ソフトウェア

撮影した写真をパソコンに取り込むためのソフトウェアや、撮影した写真を見たり、文字やイラストを入れて編集したりするためのソフトウェアが必要です。これらのソフトウェアは、デジタルカメラに添付されている場合もあります。

本パソコンには、「らくらく写真館」や「ぷりんとフェア」など、写真をいろいろ活用できるソフトウェアが添付されています。

デジタルカメラのマニュアル

デジタルカメラを使うには

ご購入されたデジタルカメラによって、接続方法が異なります。

パソコン本体背面のシリアルコネクタに接続するもの

ケーブルで、デジタルカメラとパソコン本体（シリアルコネクタ ←P.5）をつなぎます。つないだあと、ケーブルのコネクタのネジをしめて固定してください。

USB コネクタに接続するもの

「つないでらくらく！～USB 機器を接続する～」（←P.57）をご覧ください。

なお、デジタルカメラの活用のしかたについては、『使いこなす本ソフト編』をご覧ください。

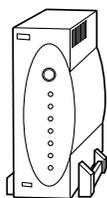
ISDN回線に接続したい！～ターミナルアダプタを接続する～

ISDN 回線に接続して、もっと快適にネットワークを楽しみたい・・・そんなときはターミナルアダプタを接続します。

ISDN 回線に接続する方法について詳しくは、ターミナルアダプタのマニュアルをご覧ください。NTTにお問い合わせください。

必要なものを用意する

ターミナルアダプタを使うには、次のものがが必要です。



ターミナルアダプタ

ISDN 回線に接続するために必要な機器です。パソコン本体背面のシリアルコネクタ（←P.5）に接続するものや、USB コネクタ（←P.3）に接続するものなどがあります。

専用ケーブル

ターミナルアダプタと本パソコンをつなぐケーブルです。通常、ターミナルアダプタに添付されています。添付されていない場合は、お使いになるターミナルアダプタに合ったケーブルをご購入ください。

ターミナルアダプタのマニュアル

ターミナルアダプタを接続するには

ご購入されたターミナルアダプタによって、接続方法が異なります。

パソコン本体背面のシリアルコネクタに接続するもの

専用のケーブルでターミナルアダプタとパソコン本体（シリアルコネクタ ← P.5）をつなぎます。つないだあと、ケーブルのコネクタのネジをしめて固定してください。

USB コネクタに接続するもの

次の「つないでらくらく！～USB 機器を接続する～」をご覧ください。

ターミナルアダプタをISDN回線に接続するには、DSU（ディーエスユー）という機器が別に必要な場合もあります。また、パソコンでFAXを送受信するには、パソコン本体のモデムとターミナルアダプタをモジュラーケーブルでつなぐ必要があります。詳しくは、ターミナルアダプタのマニュアルをご覧ください。NTTにお問い合わせください。

つないでらくらく！～USB 機器を接続する～

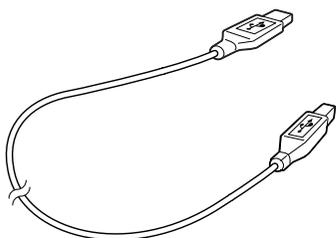
USB 機器を接続して、自分の思い通りのパソコンにしましょう。

必要なものを用意する

USB 機器を使うには、次のものがが必要です。

USB 機器

本パソコンに添付されているマウス、キーボードの他に、プリンタ、ターミナルアダプタ、スピーカーなどがあります。お使いになる目的に応じてご用意ください。



USB ケーブル

USB機器と本パソコンをつなぐケーブルです。USB機器に添付されている場合もあります。マウスなどのようにケーブルが不要なものもあります。

USB 機器のドライバ

通常は USB 機器に添付されています。

USB 機器のマニュアル

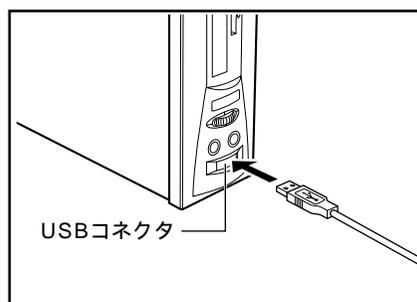
USB 機器を使うには

取り付けかたは、次のとおりです。

アドバイス
お使いにならないときは
カバーを閉じておいてください。

- 1** パソコン本体前面の USB コネクタのカバーを左にスライドさせ、USB 機器のケーブルを接続します。

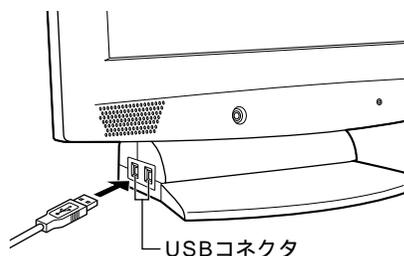
USB 機器のケーブルのコネクタの  マークを上にして差し込んでください。



アドバイス

C/50L, C/45L, C/40L をお使いの方は

ディスプレイの USB コネクタに接続することもできます。



- 2** ドライバをインストールします。

ドライバをインストールしなくても、接続するだけで使える USB 機器もあります。詳しくは、USB 機器のマニュアルをご覧ください。



3

パワーアップするために～本体カバーを取り外す～

パソコンの内部にいろいろなオプション機器を取り付けて、パソコンをパワーアップすることができます。

本体カバーは、次の作業を行うときに取り外します。

- ・メモリを取り付けるとき
- ・拡張カードを取り付けるとき
- ・BIOS セットアップでパスワードを設定するとき



感電 本体カバーを取り外すときまたは取り付けるときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電・火災または故障の原因となります。



誤飲 取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が悪く飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。
万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。



けが 本体カバーを取り外すときまたは取り付けるときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



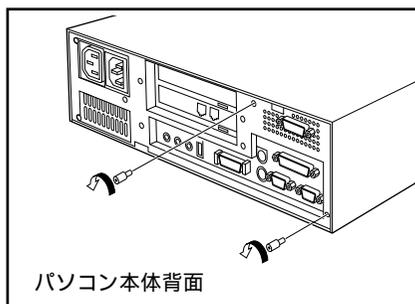
けが 基板表面上の突起物には手を触れないでください。
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

本体カバーを取り外す

- 1** パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。
電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあと 10 分ほど待ってください。
- 2** 電源ケーブルをパソコン本体から取り外します。
- 3** 本パソコンを縦置きでお使いの場合は、縦置き用フットを取り外し、横置きにします。

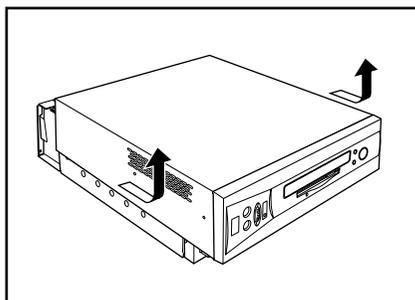
4 パソコン本体背面のツマミネジ (2カ所) を手で回して外します。

手で回せない場合は、ドライバーをお使いください。



5 本体カバーを矢印の方向に取り外します。

パソコン本体前面に向けてスライドさせたあと、持ち上げてください。

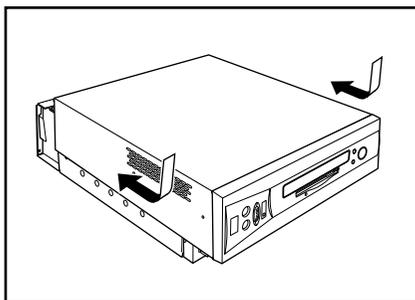


- ▶ メモリを取り付ける場合 ← P.66 手順 2 へ
- ▶ メモリを交換する場合 ← P.68 手順 2 へ
- ▶ 拡張カードを取り付ける場合 ← P.73 手順 2 へ
- ▶ パスワードを設定する場合 ← P.105 手順 2 へ
(C/50L, C/45L, C/457)
- ▶ パスワードを設定する場合 ← P.124 手順 2 へ
(C/40L, C/407, C/405)

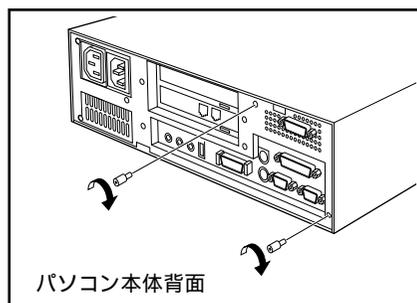
本体カバーを取り付ける

1 本体カバーを取り付けます。

パソコン本体背面に向けてスライドさせます。

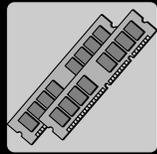


- 2** パソコン本体背面のツマミネジ (2カ所) を手で回して取り付けます。



- 3** 本パソコンを縦置きでお使いになる場合は、縦置き用フットを取り付けます。
- 4** 電源ケーブルをパソコン本体に接続します。
- 5** パソコン本体および接続されている機器の電源プラグを、コンセントに差し込みます。

- | | |
|------------------------|---|
| ▶ <u>メモリを取り付けた場合</u> | ←P.66 「メモリ容量を確認してください」へ |
| ▶ <u>拡張カードを取り付けた場合</u> | ←P.74 手順 9 へ |
| ▶ <u>パスワードを設定した場合</u> | ←P.106 「パスワード設定後のパソコンの起動」へ
(C/50L, C/45L, C/457) |
| ▶ <u>パスワードを設定した場合</u> | ←P.125 「パスワード設定後のパソコンの起動」へ
(C/40L, C/407, C/405) |



4

メモリを増やす

「複数のアプリケーションを起動したら、パソコンの動作が遅くなった」「大きなファイルを使おうとするとメモリ不足と表示されてしまう」
 そういった場合に本パソコンのメモリを増やすと、パソコンの処理がより速く快適になります。

メモリを増やすとは？

メモリとはどんなもの？

メモリは、CPUが処理するデータやプログラムを一時的にためておく装置です。データやプログラムは本パソコンに内蔵されているハードディスク(←P.81)に保存されていますが、CPUが処理するたびにハードディスクから読み込んでくると時間がかかります。

CPUがメモリからデータを読み込む速度はハードディスクからデータを読み込む速度よりも早いため、必要なデータやプログラムをメモリにためておけば処理が早くなります。

メモリは、よく「机」にたとえられます。勉強や仕事をするときに引き出しから本や書類を取り出して机の上に広げるように、ハードディスクに保存されているデータやプログラムが、メモリという「机の上」に上げられているのです。

メモリを増やすとパソコンの動作が速くなる

複数のソフトウェアを同時に動かしたり、データを一度にたくさん読み込むと、メモリはどんどん使われてしまいます。

机の上に本やノートを広げると空いた場所がなくなるのと同じです。

机が大きければ本やノートをたくさん広げられますが、机が小さいと少ししか広げることができません。

同じように、メモリも大きければ大きいほど、たくさんのアプリケーションやデータを読み込むことができるようになり、快適に操作できます。

メモリの大きさは「容量」と呼ばれ、32MB、64MBというように表されます。別売りのメモリを本パソコンに増設してメモリの容量を増やすと、「机」が広がったことになりパソコンの動作が速くなります。

用語

CPU(シーピーユー)

Central Processing Unitの略で、パソコンの中核頭脳部分ともいわれる、中央処理装置のことです。

用語

MB(メガバイト)

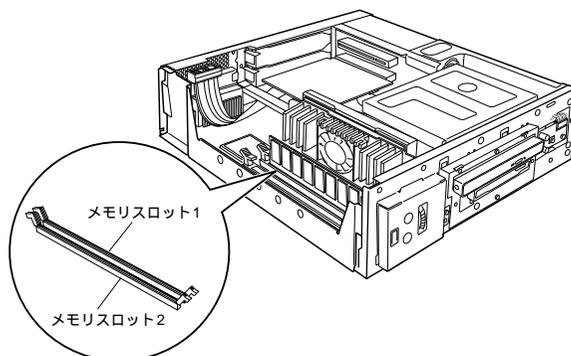
バイトとは、パソコンで扱うデータの大きさをあらわす単位のことです。M(メガ)は100万を表します。1MBとは、約100万バイトのデータということになります。

パソコンで使われる単位には、他にKB(キロバイト)、GB(ギガバイト)があります。1KBは約1000バイト、1GBは約10億バイトのデータを表します。

メモリはどこにある？

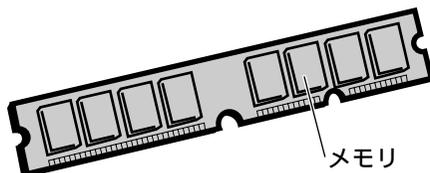
メモリは、パソコン本体内部のメモリスロットに取り付けます。
本パソコンのご購入時は、メモリスロット1に64MBのメモリが1枚取り付けられています。

メモリ容量を増やすには、メモリスロット2に、新たにメモリを取り付けます。
メモリは、最大256MB(128MB×2枚)まで増やせます。



取り付けられるメモリ

お使いになれるメモリは次のようなものです。



- ・種類 SDRAM(エスディーラム) DIMM(ディム) (SPD付き)
- ・システムバスクロック 100MHz(C/50L, C/45L, C/457)
66MHz(C/40L, C/407, C/405)
- ・ピン数 168ピン
- ・容量 32MB、64MB、128MB
- ・ECC なし

用語

SPD(エスピーディー)

Serial Presence Detectの略で、メモリの機能のひとつです。

必ずSPD付きのメモリをご購入ください。なお、弊社製のSDRAMは、SPD付きです。

ECC(イーシーシー)

Error Correcting Codeの略で、データの中の誤りを検出し、訂正する機能のことです。

本パソコンでは、この機能は使いません。

重要

弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

純正品以外のメモリを取り付けて正常に動かなかったり、本パソコンが故障しても、保証の対象外となります。

メモリのシステムバスクロックにご注意ください

本パソコンに取り付けるメモリのシステムバスクロックは、機種により異なります。必ずシステムバスクロックが適合しているものをお使いください。

メモリの組み合わせ表

次の表で、メモリの容量とメモリスロットの組み合わせを確認してください。メモリを増やす容量によっては、あらかじめ取り付けられているメモリ(メモリスロット1)を取り外して大容量のメモリに交換します。下表以外の組み合わせにすると、本パソコンが正常に動作しない場合があります。

総容量	メモリスロット1 (DIMM1)	メモリスロット2 (DIMM2)
64MB(ご購入時)	64MB	なし
96MB	64MB	32MB
128MB	64MB	64MB
192MB	64MB	128MB
256MB(最大)	128MB	128MB

あらかじめ取り付けられているメモリを交換します。

メモリを取り付ける

ここでは、メモリを取り付ける方法を説明します。あらかじめ取り付けられているメモリを、大容量のメモリに交換するときは、「メモリを交換する」(←P.67)をご覧ください。



警告



感電 メモリの取り付けまたは交換を行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電・火災または故障の原因となります。



注意



けが メモリの取り付けまたは交換を行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



けが 基板表面上の突起物には手を触れないでください。けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



故障

- ・メモリは、弊社純正品をお使いください。
- ・純正品以外のメモリをお使いになると、故障の原因となることがあります。
- ・メモリを取り付けるときは、メモリの差し込み方向をお確かめのうえ、確実に差し込んでください。誤ってメモリを逆方向に差したり、差し込みが不完全だったりすると、故障の原因となることがあります。

重要

メモリは、Windows98のセットアップ終了後に取り付けてください

Windows98のセットアップ(☞『取扱説明書』)を行う前に取り付けると、Windows98のセットアップが正常に行われずおそれがあります。

電源を切ってから10分ほど待ってください

電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。

メモリを取り付けるときは、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあと10分ほど待ってから、作業を始めてください。

放電してから作業してください

メモリは人体にたまる静電気によって悪影響を受けます。

取り扱う前に、一度大きな金属質のものに手を触れて静電気を放電してください。

メモリのシステムバスクロックにご注意ください

本パソコンに取り付けるメモリのシステムバスクロックは、機種により異なります。「取り付けられるメモリ」(☞P.63)をご覧ください、必ずシステムバスクロックが適合しているものをお使いください。

メモリは何度も抜き差ししないでください

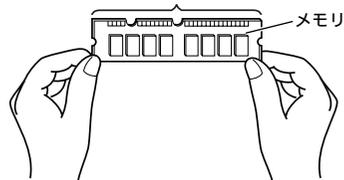
故障の原因となることがあります。

**アドバイス**

メモリの持ちかた

メモリは右図のようにふちを持ってください。金色の線が入っている部分(端子)には、絶対に手を触れないでください。

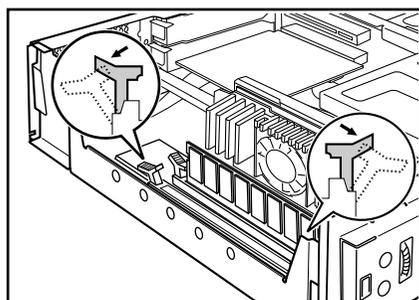
この部分には手を触れないでください。



- 1 「本体カバーを取り外す」(☞P.59)をご覧ください、本体カバーを取り外します。**

2 メモリを取り付けるメモリスロットの両側のレバーを外側に開きます。

メモリの取り付け場所については、「メモリはどこにある？」(←P.63)と「メモリの組み合わせ表」(←P.64)をご覧ください。

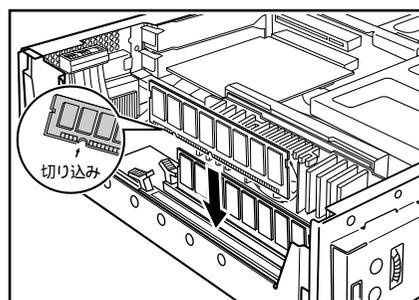


3 メモリをメモリスロットに差し込みます。

端子に切り込みが入っている方をパソコン本体背面側に向けて、メモリスロットの上からまっすぐ下に差し込んでください。

メモリがメモリスロットに差し込まれると、スロット両側のレバーが自動的に閉じて、メモリがロックされます。

必ず、メモリがロックされたことを確認してください。



重要

メモリの方向をよく確認して正しく差し込んでください

無理に差し込むと故障の原因となります。

4 「本体カバーを取り付ける」(←P.60)をご覧ください、本体カバーを取り付けます。

メモリ容量を確認してください

メモリを取り付けたあと、増やしたメモリが本パソコンで使える状態になっているかを確認してください。

必ず、本体カバーを取り付けてから確認作業を行ってください。

1 パソコン本体の電源を入れます。

2 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。

アドバイス

電源を入れても何も表示されないときは

メモリが正しく取り付けられていないと、本パソコンの電源を入れたとき画面に何も表示されない場合があります。

その場合は、電源スイッチを4秒以上押し続けて本パソコンの電源を切り、メモリを取り付け直してください。

メモリの取り外しかたについては、次ページの「メモリを交換する」をご覧ください。

3 (システム) をクリックします。

「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

4 で囲んだ部分の数値が、増やしたメモリの分だけ増えているかを確認します。



(画面は機種により異なります)

画面は、32MBのメモリを増設して、96MBに増やした例です。

お使いのシステム構成によっては1MB少なく表示される場合があります。

5 「OK」をクリックします。

6 「コントロールパネル」ウィンドウ右上の (閉じるボタン) をクリックします。

メモリ容量の数値が増えていなかった場合は、次のことを確認してください。

- ・増やしたメモリが本パソコンで使える種類のものが  「取り付けられるメモリ」(P.63)
- ・メモリがメモリスロットにきちんと差し込まれているか  「メモリを取り付ける」(P.64)
- ・正しいスロットに取り付けられているか  「メモリはどこにある？」(P.63)
- ・メモリを正しく組み合わせているか  「メモリの組み合わせ表」(P.64)

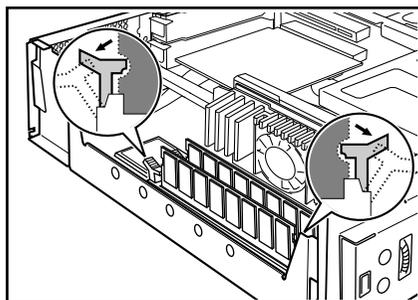
メモリを交換する

本パソコンに取り付けられているメモリを取り外し、より大容量のメモリに交換することができます。

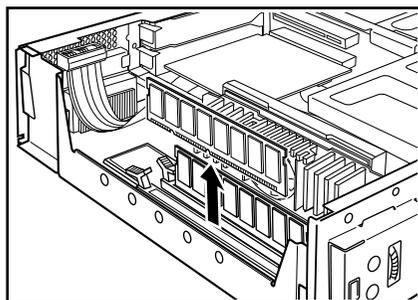
1 「本体カバーを取り外す」(P.59) をご覧になり、本体カバーを取り外します。

2 取り外したいメモリのメモリスロットの両側のレバーを外側に開きます。

メモリが外れます。



3 メモリを上引き抜きます。

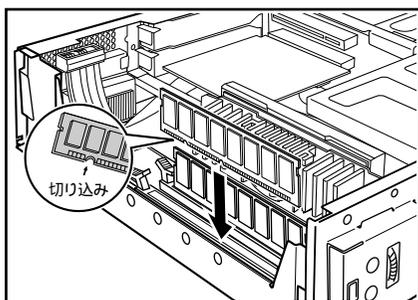


4 新しいメモリをメモリスロットに差し込みます。

端子に切り込みが入っている方をパソコン本体背面側に向けて、メモリスロットの上からまっすぐ下に差し込んでください。

メモリがメモリスロットに差し込まれると、スロット両側のレバーが自動的に閉じて、メモリがロックされます。

必ず、メモリがロックされたことを確認してください。



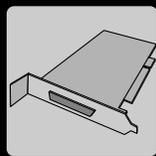
重要

メモリの方向をよく確認して正しく差し込んでください

無理に差し込むと故障の原因となります。

5 「本体カバーを取り付ける」(←P.60)をご覧になり、本体カバーを取り付けます。

このあと、「メモリ容量を確認してください」(←P.66)をご覧になり、交換したメモリが使える状態になっているかを確認してください。



5

オプション機器を活用しよう！

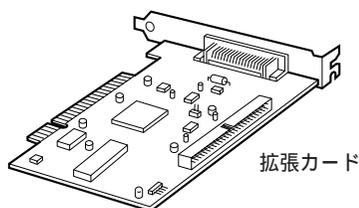
拡張カードを増設する

本パソコンにさまざまな機能を追加したいときは、拡張カードを取り付けます。ここでは、本パソコンに取り付けられる拡張カードにはどのようなものがあるか、拡張カードを取り付けるのに必要なものや、必要な作業について説明します。

拡張カードとは？

「拡張カード」は、パソコン本体内部に取り付けて、いろいろな機能を追加するためのものです。

たとえば、パソコンにビデオの画面を取り込んで編集したいとか、複数台のパソコン同士でネットワークを組んで使いたいといったときに拡張カードを増設して、それらの機能をパソコンに追加します。



代表的な拡張カードの種類

代表的な拡張カードには、以下のものがあります。

- ・ SCSI カード

SCSI 規格の MO (光磁気ディスク) ドライブやハードディスクなどを接続するときに必要な拡張カードです。SCSI 規格の MO ドライブについて詳しくは「MO ドライブを増設する」(P.76)をご覧ください。

- ・ モデムカード

パソコン通信、インターネット、FAX 送受信などを行うときに必要な拡張カードです。また、ボイス機能を備えているモデムカードは、留守番電話として使うこともできます (専用のソフトウェアが必要です)。

本パソコンには、ご購入時にあらかじめ FAX / ボイスモデムカードが取り付けられています。

- ・ LAN カード

複数台のパソコンやプリンタなどを接続し、データを転送したり共有したりするときに必要な拡張カードです。LAN カードでパソコンやプリンタを接続するには、LAN ケーブルなどの LAN 機材も必要となります。

- ・ ビデオキャプチャカード

ビデオの画像をパソコンのディスプレイに表示したり、ビデオの画像をパソコンにデータとして取り込んで加工できるようにしたりする拡張カードです。カードによって、静止画だけを扱えるものと、静止画と動画の両方を扱えるものがあります。

3

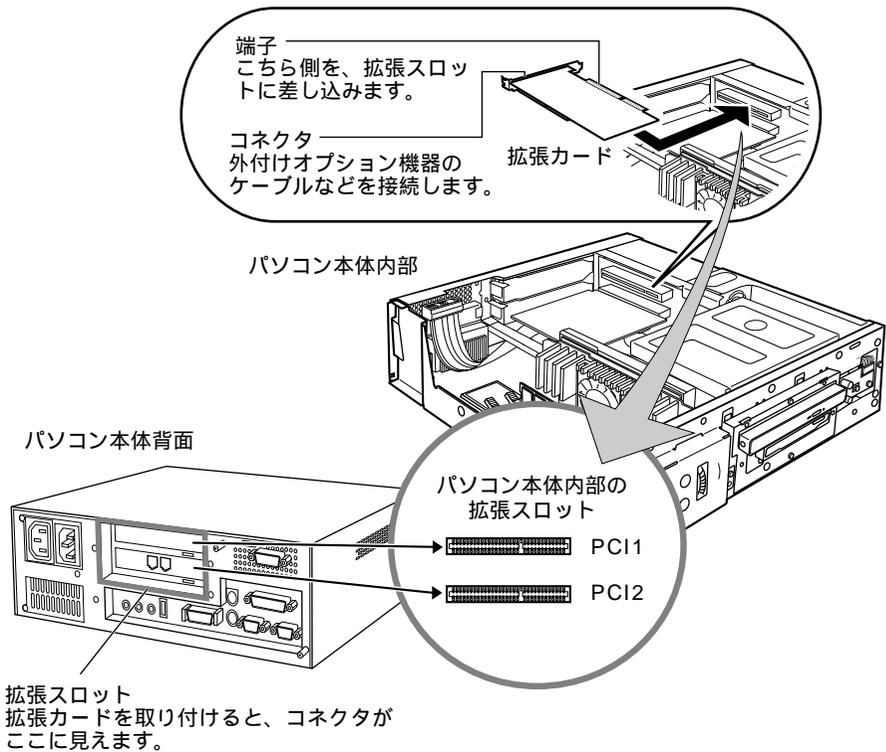
オプション機器を活用しよう！ (拡張カードを増設する)

お使いになれる拡張カード

拡張カードには、いくつかの規格があります。本パソコンでは、「PCI(ピーシーアイ)」という規格に対応した拡張カードが使えます。

拡張カードは、パソコン本体内部の空いている「拡張スロット」に取り付けます。

また、拡張カードの大きさには、大きく分けて「フルサイズ」と「ハーフサイズ」の2つがあります。本パソコンでは、ハーフサイズの拡張カードのみ増設できます。



拡張スロットは、上から順にPCI1、PCI2となっています。

拡張スロット	空き状況	取り付け可能なサイズ
PCI1	空き	ハーフサイズ(176mmまで)
PCI2	FAX / ボイスモデムカードを搭載済み	ハーフサイズ(150mmまで)

用語

プラグアンドプレイ (Plug&Play/PnP)

プラグアンドプレイとは、パソコン本体に接続される機器の設定を自動化するためのしくみのことです。特別な設定をしなくても、拡張カードやその他の機器を接続しただけで使えるようにします。Windows98はプラグアンドプレイに対応しています。

アドバイス

お使いになる拡張カードによっては

お使いになる拡張カードが必要とするリソースが、本パソコンの空いているリソースに設定できない場合や、空きリソースがない場合は、拡張カードを取り付ける前に設定が必要です。詳しくは、「リソースを解放する」(P.143)をご覧ください。

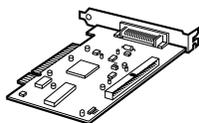
拡張カードを増設するには

拡張カードには、「プラグアンドプレイ」というしくみに対応しているものと、対応していないものがあります。本パソコンで使えるPCI規格の拡張カードはプラグアンドプレイに対応しています。

プラグアンドプレイに対応しているPCI規格の拡張カードを増設するときは、拡張カードを取り付けて、ドライバをインストールするだけで使えるようになります。

必要なものを用意する

拡張カードを増設するには、次のものがが必要です。

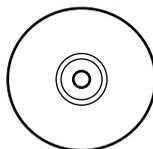


PCI規格の拡張カード

フロッピーディスク



CD-ROM



拡張カードのドライバ
拡張カードによっては、添付されていないこともあります。



拡張カードのマニュアル



プラスのドライバー

重要

弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

純正品以外の拡張カードを取り付けて正常に動かなかったり、本パソコンが故障しても、保証の対象外となります。

3

オプション機器を活用しよう！(拡張カードを増設する)

拡張カードを取り付ける

ここでは、拡張カードを取り付ける方法について説明します。



拡張カードの取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電・火災または故障の原因となります。



取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が悪く飲んで飲み込む原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。
万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。



拡張カードの取り付けや取り外しを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



基板表面上の突起物、および指定されたスイッチ以外には手を触れないでください。
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



拡張カードは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外の拡張カードをお使いになると、故障の原因となることがあります。

アドバイス

SCSI カードを取り付けるときは

SCSIカードのSCSI IDは7番に設定してください(通常、SCSIカードはあらかじめ7番に設定されています)。詳しくは、SCSIカードのマニュアルでご確認ください。

グラフィックスカードを取り付けるときは

取り付ける前に、「アドバイス」(P.75)をご覧ください。なり設定してください。

重要

拡張カードは、Windows 98のセットアップ終了後に取り付けてください

Windows 98のセットアップ(『取扱説明書』)を行う前に取り付けると、Windows 98のセットアップが正常に行われずおそれがあります。

電源を切ったあと10分ほど待ってください

電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。

拡張カードを取り付けるときは、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあと10分ほど待ってから、作業を始めてください。

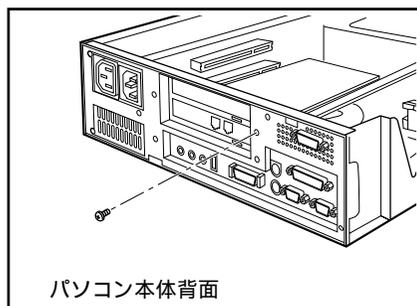
拡張カードはしっかりと差し込んでください

拡張カードを取り付けるときは、拡張カードが拡張スロットに完全に差し込まれていることを確認してください。

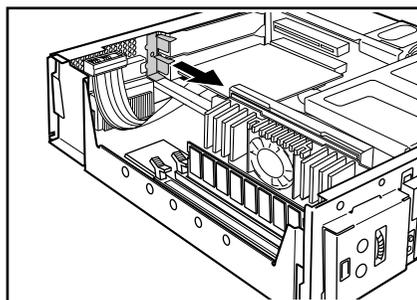
完全に差し込まれていないと、拡張カードのドライバのインストールが正常に行われなかったり、故障の原因となることがあります。

1 「本体カバーを取り外す」(P.59)をご覧ください。なり、本体カバーを取り外します。

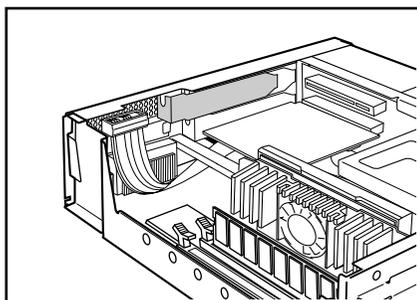
- 2** パソコン本体背面のネジ(1カ所)を外します。



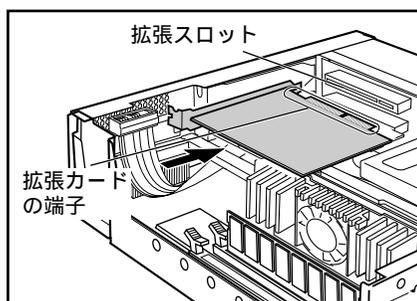
- 3** 金具を取り外します。
矢印の方向に取り外します。



- 4** スロットカバーを取り外します。



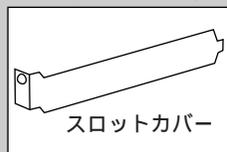
- 5** 拡張スロットに、拡張カードを差し込みます。
拡張カードの端子を、拡張スロットの奥まで完全に差し込んでください。



アドバイス

スロットカバーは保管してください

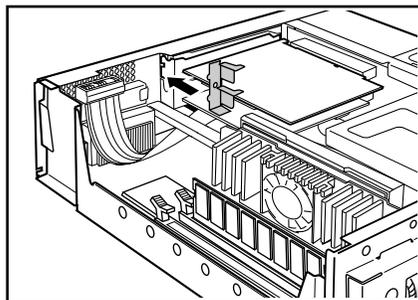
取り外したスロットカバーは捨てずに保管してください。拡張カードを取り外した場合は、スロットカバーを取り付けてください。



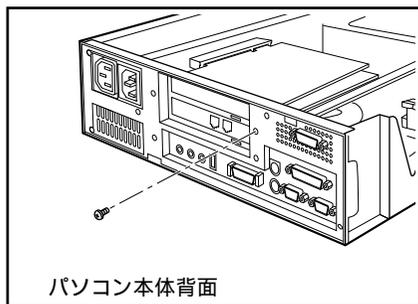
3

オプション機器を活用しよう！(拡張カードを増設する)

- 6** 手順 3 で外した金具で、拡張カードを固定します。



- 7** 金具を固定します。
本体背面のネジ(1カ所)で固定します。



- 8** 「本体カバーを取り付ける」(←P.60)をご覧になり、本体カバーを取り付けます。

- 9** パソコン本体の電源を入れ、拡張カードのマニュアルをご覧になり、画面の指示に従ってドライバをインストールしてください。自動的にドライバがインストールされる場合もあります。

拡張カードにフロッピーディスクやCD-ROMが添付されている場合、パソコン本体の電源を入れると、「フロッピーディスクやCD-ROMをセットしてください」というメッセージが表示されることがあります。画面の指示に従ってフロッピーディスクまたはCD-ROMをセットし、ドライバをインストールしてください。

アドバイス

グラフィックスカードを取り付けるときは

PCI規格のグラフィックスカードを取り付ける場合は、取り付ける前に、以下の手順に従って「ATI ディスプレイドライバ」の削除を行ってください。

ただし、マルチモニタ機能をお使いになる場合は、「複数のディスプレイを使う」(←P.88)をご覧ください。

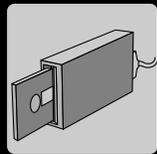
- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (アプリケーションの追加と削除) をクリックします。
「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 一覧中の「ATI mach64 ディスプレイドライバ」をクリックします。
- 4 「追加と削除」をクリックし、「ATI Uninstall」ウィンドウが表示されたら「はい」をクリックします。
- 5 さらにメッセージが表示されたら「はい」をクリックします。
本パソコンが再起動します。

続いて BIOS セットアップの設定を変更します。以下の手順に従って設定してください。

- ▶ C/50L, C/45L, C/457 をお使いの方は
 - 6 BIOS セットアップを起動します。
詳しくは、「BIOS セットアップを起動する」(←P.93) をご覧ください。
 - 7 「詳細」メニューの「ディスプレイ設定」内にある「プライマリディスプレイ」の設定を「AGP」から「PCI」に変更します。
 - 8 設定を保存して、BIOS セットアップを終了します。
詳しくは、「BIOS セットアップを終了する」(←P.96) をご覧ください。
- ▶ C/40L, C/407, C/405 をお使いの方は
 - 6 BIOS セットアップを起動します。
詳しくは、「BIOS セットアップを起動する」(←P.113) をご覧ください。
 - 7 「起動」メニューの「プライマリディスプレイ」の設定を「AGP」から「PCI」に変更します。
 - 8 設定を保存して、BIOS セットアップを終了します。
詳しくは、「BIOS セットアップを終了する」(←P.116) をご覧ください。

グラフィックスカードを取り外したときは

本パソコンにあらかじめ接続されていたディスプレイの画面が正しく表示されない場合があります。その場合は、「ディスプレイドライバをインストールする」(←P.146) をご覧になり、ディスプレイドライバを再インストールしてください。



6

MOドライブを増設する

MO（光磁気ディスク）ドライブを増設すると、本パソコンでMOがお使いになります。MOを使うとフロッピーディスクと比べて大量のデータを保存できます。

MOとは？

MO（エムオー）ドライブとは、レーザーと磁気でMO（光磁気ディスク）にデータを書き込み、レーザーで読み出しを行う記憶装置です。

MOは、フロッピーディスクと比べて、大量のデータを保存できます。128MB、230MB、540MB、640MBの容量のものが市販されています。フロッピーディスクと同じように、フォーマットしてからお使いください。

お使いになるMOドライブによって、対応している容量が異なります。お使いになる目的に応じた容量のMOドライブをご購入ください。

お使いになれるMOドライブ

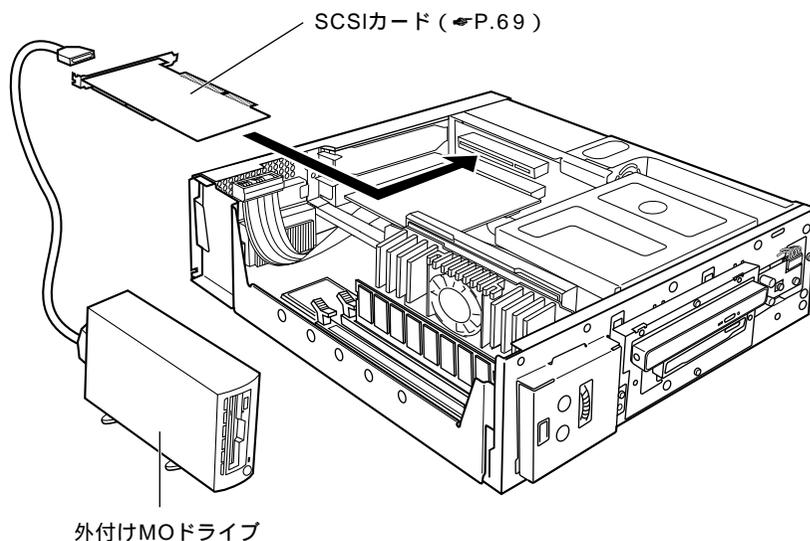
MOドライブには、パソコン本体に内蔵のものと、外付けのものがあります。本パソコンでは、SCSI規格の外付けMOドライブを増設できます。内蔵MOドライブはお使いになれません。

SCSI規格のMOドライブを使うには、SCSIカードという拡張カードが必要です。

用語

SCSI（スカジー）

機器の接続に関する規格のひとつです。SCSI規格の機器には、MOドライブのほかに、スキャナやハードディスクなどがあります。



必要なものを用意する

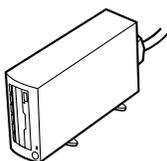
外付け MO ドライブを取り付けるときには、次のものがが必要です。



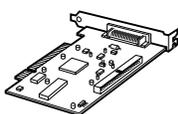
重要

弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

純正品以外の外付け MO ドライブ、SCSI カード、SCSI ケーブル、終端抵抗を取り付けて正常に動かなかったり、本パソコンが故障しても、保証の対象外となります。

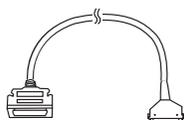


SCSI 規格の外付け MO ドライブ



SCSI カード (←P.69)

SCSI 規格の外付け MO ドライブを取り付けるときに必要な拡張カードです。



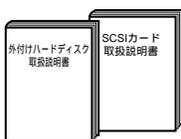
SCSI ケーブル

SCSI カードと外付け MO ドライブを取り付けるときに必要なケーブルです。SCSI 規格のコネクタには数種類あります。ご使用になる SCSI カードと外付け MO ドライブに合ったものをよくご確認のうえご購入ください。



終端抵抗 (ターミネータ)

電気信号が、SCSI ケーブルを正しく伝わるようにするためのものです。外付け MO ドライブには、別売りの終端抵抗を取り付けます。SCSI 規格のコネクタは数種類あります。コネクタの形状をご確認のうえご購入ください。詳しくは次ページの「コラム」をご覧ください。



外付け MO ドライブと SCSI カードのマニュアル

3

オプション機器を活用しよう！(MOドライブを増設する)



終端抵抗（ターミネータ）とは

コラム

SCSI規格のオプション機器は数珠つなぎに接続できます。その際、両端となる機器にそれぞれ終端抵抗を取り付ける必要があります。

たとえば、SCSI規格の外付けMOドライブを1台増設した場合は、SCSIカードと外付けMOドライブが両端となります。

SCSIカードには、通常、終端抵抗が内蔵されていますので、終端抵抗を新たに取り付ける必要はありません。ただし、SCSIカード上のジャンプスイッチなどで、終端抵抗を有効、または無効に設定する必要のあるものもあります。

外付けMOドライブを取り付ける



警告



感電

外付けMOドライブの取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。感電の原因となります。



誤飲

取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が悪く飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。



注意



故障

- ・ケーブルは正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体が故障する原因になることがあります。
- ・外付けMOドライブは、弊社純正品をお使いください。純正品以外のMOドライブをお使いになると、故障の原因となる場合があります。



けが

外付けMOドライブの取り付けを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。指定された場所以外のネジを外すと、けがをすのおそれがあります。また、故障の原因となる場合があります。



重要

SCSIカードと外付けMOドライブは、Windows98のセットアップ終了後に取り付けてください。Windows98のセットアップ(←『取扱説明書』)を行う前に取り付けると、Windows98のセットアップが正常に行われずおそれがあります。

1 外付けMOドライブとSCSIカードのSCSI IDを設定します。

SCSI規格では複数の機器を接続できます。それらの機器を区別するために付ける番号が「SCSI ID」です。SCSI IDは0から7番までの番号があります。

SCSIカードには、通常7番が設定されています。SCSI IDが設定されていないSCSIカードをお使いになるときは、SCSI IDを7番に設定してください。

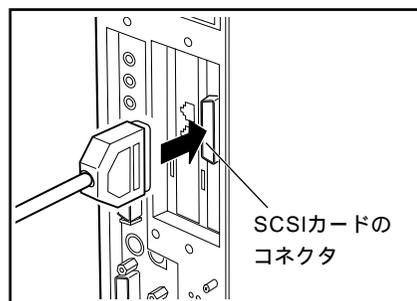
外付けMOドライブは、それ以外の番号(0～6番)を設定してください。設定のしかたについては、SCSIカードと外付けMOドライブのマニュアルをご覧ください。

2 SCSIカードを取り付けます。

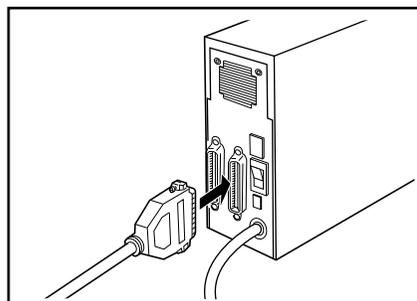
取り付けかたなどについては、「拡張カードを増設する」(←P.69)をご覧ください。

3 SCSIカードのコネクタに、SCSIケーブルを接続します。

SCSIケーブルの片方のコネクタを、パソコン本体背面にあるSCSIカードのコネクタに接続します。

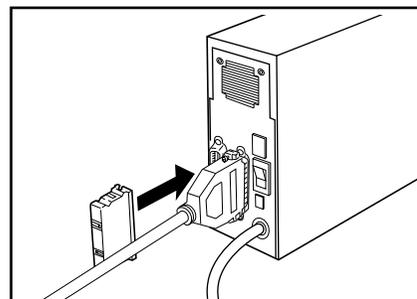


4 外付けMOドライブのINコネクタに、SCSIケーブルのもう片方のコネクタを接続します。



5 外付けMOドライブに終端抵抗を取り付けます。

外付けMOドライブのOUTコネクタに終端抵抗を取り付けます。



💡 アドバイス

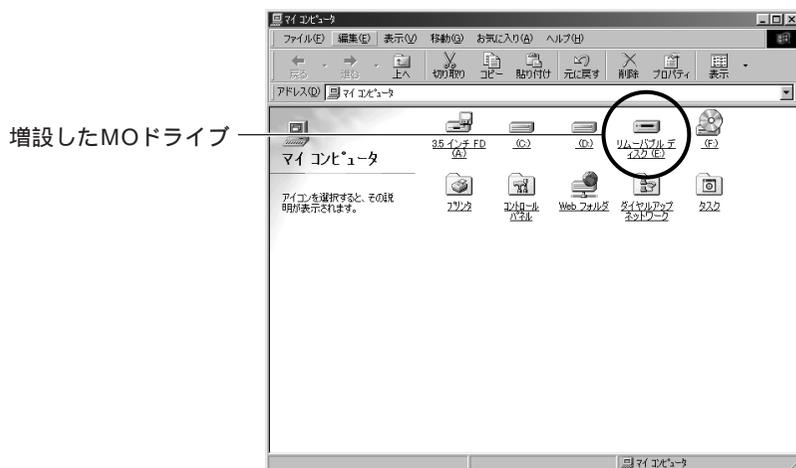
コネクタにIN/OUTの指定がないときは

外付けMOドライブによってはコネクタにIN/OUTの指定がないものもあります。そのときは、どちら側に接続してもかまいません。

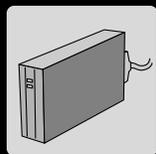
- 6** 外付け MO ドライブに電源ケーブルを接続します。
外付け MO ドライブに電源ケーブルがつながっている場合もあります。詳しくは、外付け MO ドライブのマニュアルをご覧ください。
- 7** 本パソコンと、接続されている機器、接続した外付け MO ドライブの電源プラグをコンセントに差し込みます。

MO ドライブを増設すると

MO ドライブを増設すると、ドライブ名が変更されます。CD-ROM ドライブのドライブ名も変更されます。



ドライブ名はお使いの状況によって異なります。
上の画面は、MO ドライブを 1 台増設した場合です。



7

その他のオプション機器を使う

ハードディスクを増設する

パソコンを使い込んでいくうちに、アプリケーションをたくさんインストールしたり、容量の大きな画像データなどをたくさん保存したりして、あらかじめ取り付けられているハードディスクの空き容量が少なくなることがあります。そのようなときには、ファイルやデータを整理して空き容量を増やすのも一つの方法ですが、さらに別売りのハードディスクを増設して、保存できる容量を増やすという方法もあります。

本パソコンにはあらかじめIDE規格のハードディスクが1台内蔵されています。さらに、SCSIカードを取り付けることにより、SCSI規格の外付けハードディスクを増設できます。

必要なものを用意する

ハードディスクを使うには、次のものがが必要です。

SCSI規格の外付けハードディスク

ハードディスクには、パソコン本体に内蔵のものと、外付けのがあります。本パソコンでは、外付けハードディスクが取り付けられます。内蔵ハードディスクはお使いになれません。

SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗（ターミネータ）

外付けハードディスクを使うために必要なものです。

終端抵抗（ターミネータ）は、内蔵されている場合もあります。

SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗（ターミネータ）について詳しくは、「MOドライブを増設する」の「必要なものを用意する」(←P.77)をご覧ください。

ハードディスクを使うには

SCSI規格の外付けハードディスクを使うには、SCSIカードという拡張カードをパソコン本体内部に取り付けます。取り付けかたについては、「拡張カードを取り付ける」(←P.72)をご覧ください。

SCSIカードを取り付けたあと、SCSIケーブルでSCSIカードと外付けハードディスクをつなぎます。外付けハードディスクには、終端抵抗（ターミネータ）という器具を取り付けます。接続方法などについては、「MOドライブを増設する」(←P.76)を参考にしてください。また、外付けハードディスクのマニュアルもあわせてご覧ください。

取り付けた外付けハードディスクを使えるようにするためには、「領域を設定する」と「フォーマットする」作業が必要になります。

用語

IDE(アイディーイー)

ハードディスクやCD-ROMドライブなどの内蔵ドライブの規格のひとつです。

SCSI(スカジー)

機器の接続に関する規格のひとつです。SCSI規格の機器には、ハードディスクのほかに、スキャナやMOドライブなどがあります。

領域を設定する

アドバイス

領域を分けると

それぞれの領域が1つ1つのドライブになります。たとえば、増設したハードディスクを2つの領域に分けると、2つのドライブができ、1台のハードディスクが2台のハードディスクであるかのように扱えます。

初めてハードディスクを取り付けたときは、取り付けたあとにハードディスクの領域を設定します。領域の設定は、増設したハードディスクを使えるようにするための作業です。

また、この作業では、増設したハードディスクをいくつかの領域に分けることもできます。

増設したハードディスクの領域を分けるか分けないかは、使いやすいほうを選んでください。

ここでは、ハードディスクを1台増設した場合の領域の設定のしかたを説明します。

重要

ドライブ名が変更されます

ハードディスクを増設して本書の手順に従って領域の設定を行うと、Eドライブ以降(基本MS-DOS領域を作成する場合はDドライブ以降)のドライブ名が変更されます。CD-ROMドライブのドライブ名も変更されます。

保存されていたデータが失われます

領域を設定し直すと、そのハードディスクに保存されていたデータは失われてしまいます。使っていたハードディスクの領域を設定し直すときは、フロッピーディスクや他のハードディスクなどにバックアップをとるなどしてから、領域を設定してください。

- 1** 外付けハードディスクと、パソコン本体の電源を入れます。
パソコン本体の電源を入れる前に、外付けハードディスクの電源を入れてください。
- 2** アプリケーションやスクリーンセーバーを終了します。
タスクバーにアイコン表示されている「FM便利ツール」などの常駐しているアプリケーションも終了させてください。
- 3** 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」にマウスポインタを合わせ、「MS-DOS プロンプト」をクリックします。
- 4** C:¥WINDOWS> に続けて `fdisk` と入力して、**[Enter]** を押します。
- 5** 「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか?」というメッセージが表示されたら、**[Y]** を押して、**[Enter]** を押します。
- 6** **[5]** を押して「5. 現在のハードディスクドライブを変更」を選び、**[Enter]** を押します。

💡 アドバイス

領域の設定を中断するには

- 1 **[Esc]** を押します。
- 2 「C:¥WINDOWS>」と表示されたら、「MS-DOS プロンプト」ウィンドウ右上の **[X]** (閉じるボタン) をクリックします。

💡 アドバイス

「5. 現在のハードディスクドライブを変更」が表示されていないときは

領域の設定を中断し、次のことを確認してください。

- ・外付けハードディスクが正しく接続されているか
- ・外付けハードディスクの場合は、電源が入っているか

それでも、「5. 現在のハードディスクドライブを変更」が表示されていないときは

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (システム) をクリックし、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 3 「ディスクドライブ」の **[+]** をクリックし、増設したハードディスクをクリックします。「ディスクドライブ」内の「GENERIC IDE DISK TYPEXX」と「GENERIC XXX FLOPPY DISK」と表示されている以外のものが増設したハードディスクです。
- 4 「プロパティ」をクリックし、「設定」タブをクリックします。
- 5 「オプション」欄の「Int13 ユニット」が になっていることを確認し、「OK」をクリックします。
 になっているときは、 をクリックして にし、「OK」をクリックしてください。
- 6 「OK」または「閉じる」をクリックします。「システム設定の変更」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックして本パソコンを再起動してください。

7 「ハードディスクドライブの番号を入力してください」というメッセージが表示されたら、**[2]** を押して増設したハードディスクを選び、**[Enter]** を押します。

ディスク 1 は、ご購入時に本パソコンに内蔵されているハードディスクです。

ディスク 2 が増設したハードディスクです。

8 「現在のハードディスク」が「2」になっていることを確認し、**[1]** を押して「1. MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成」を選び、**[Enter]** を押します。

9 **[2]** を押して「2. 拡張 MS-DOS 領域を作成」を選び、**[Enter]** を押します。

10 「ディスクの総容量は ... 拡張 MS-DOS 領域を作ります。」というメッセージが表示されたら、そのまま **[Enter]** を押します。

増設したハードディスクによっては、「領域に割り当て可能な最大領域」が「ディスクの総容量」より少なく表示される場合があります。

11 「拡張 MS-DOS 領域を作成しました。」というメッセージが表示されたら、**[Esc]** を押します。

3

オプション機器を活用しよう！(その他のオプション機器を使う)

12 ここからは、増設したハードディスクの領域を分けるか分けないかによって、進む手順が異なります。

- ▶ 領域を分けない場合 ← 手順 13 へ進みます。
- ▶ 領域を分ける場合 ← 手順 14 へ進みます。

領域を分けない場合

13 そのまま **[Enter]** を押して、手順 16 へ進みます。

領域を分ける場合

14 1つ目の領域に設定したい容量を数字キーで入力し、**[Enter]** を押します。

15 「論理 MS-DOS ドライブを作成しました。ドライブ名は変更または追加されました。」というメッセージが表示されたら、2つ目の領域に設定したい容量を数字キーで入力し、**[Enter]** を押します。

この手順を繰り返すと、さらに領域を分けることができます。

表示されている数値を確認し、そのまま **[Enter]** を押してもかまいません。表示されている数値が、分けた領域の容量となります。

16 「拡張MS-DOS領域の使用可能な領域はすべて論理ドライブに割り当てられています。」というメッセージが表示されたら、**[Esc]** を押します。

17 **[Esc]** を押します。

18 「変更を有効にするには、コンピュータを再起動してください。」というメッセージが表示されたら、**[Esc]** を押します。

19 「C:¥WINDOWS>」と表示されたら、「MS-DOS プロンプト」ウィンドウ右上の **X** (閉じるボタン) をクリックします。

「MS-DOS プロンプト」ウィンドウを全画面表示しているときは、**exit** と入力し、**[Enter]** を押してください。

20 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。

21 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。
本パソコンが再起動します。

続いて、増設したハードディスクをフォーマットします。

 **アドバイス**

容量を入力するときに単位は「MB」または「%」で入力してください。「MB」で指定する場合は「XXXX」と数字のみを入力します。「%」で指定する場合は、「XX%」と単位を付けて入力します。画面に表示されている「割り当て可能な最大領域」の数値を目安に、それ以下の数値を入力してください。「MB」で指定した場合は、入力した値と画面に表示される値が若干異なることがあります。

アドバイス

アプリケーションやスクリーンセーバーを終了してください

ハードディスクのフォーマットを行う前に、常駐しているアプリケーション(「FM便利ツール」など、タスクバーにアイコン表示されているアプリケーション)やスクリーンセーバーを終了させてください。

アドバイス

どのドライブが増設したハードディスクのものか調べてください

フォーマットされていないハードディスクのドライブ(≡)を反転表示させたとき、「マイコンピュータ」ウィンドウの左端のローカルディスクの欄は何も表示されません。

あらかじめ取り付けられていたハードディスクのドライブ(≡)を反転表示させると、ローカルディスクの欄に円グラフが表示されます。

「アクセスできません。」と表示されたときは

増設したハードディスクのドライブのアイコンをクリックしてしまうと、「アクセスできません。」というメッセージが表示されます。メッセージが表示されたら「キャンセル」をクリックしてください。

フォーマットする

領域の設定を行ったあとに、フォーマットする必要があります。フォーマットすると、増設したハードディスクにデータを読み書きできるようになります。

また、フォーマット済みのものを増設した場合も、領域を設定し直すとフォーマットが無効になります。あらためてフォーマットし直してください。

重要

フォーマットするとデータは失われます

ハードディスクのフォーマットを行うと、そのハードディスクの内容はすべて失われます。あらかじめ取り付けられていたハードディスクを誤ってフォーマットしないようご注意ください。

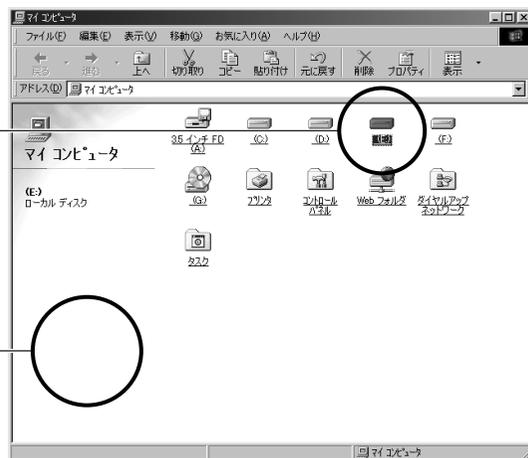
1 デスクトップの  (マイコンピュータ) をクリックします。

2 増設したハードディスクのドライブ(≡)にマウスポインタを合わせます。

マウスポインタが  から  に変わり、選んだドライブのアイコンが反転表示されます。

増設したハードディスクのドライブ

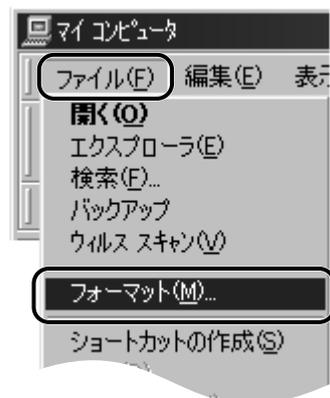
ここに何も表示されていないことを確認してください。



増設したハードディスクのドライブ名は、領域の設定でハードディスクの領域をいくつに分けたかによって異なります。

上の画面は、ハードディスクを1台増設し、本書の手順に従って、増設したハードディスクの領域(拡張MS-DOS領域)を2つに分けた場合です。

3 「ファイル」メニューの「フォーマット」をクリックします。



4 「フォーマットの種類」の「通常のフォーマット」の をクリックして にし、「開始」をクリックします。

増設したハードディスクのドライブ名であることを確認してください。



5 「OK」をクリックします。

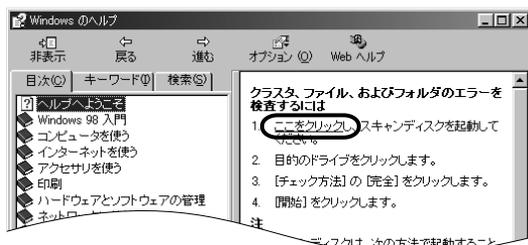
フォーマットが始まります。

6 フォーマット結果を確認したあと、「閉じる」をクリックします。

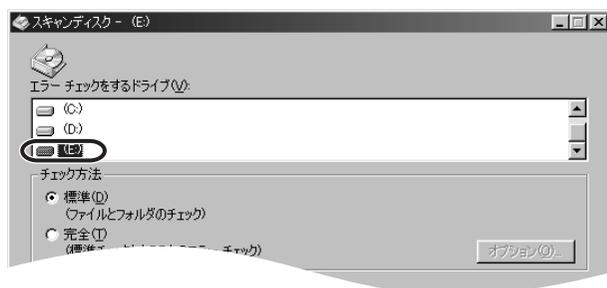
7 「OK」をクリックします。

8 増設したハードディスクに、スキャンディスクを実行します。

スキャンディスクは、ディスクの表面にエラーがないかを調べます。ヘルプ画面の「ここをクリック」をクリックしてください。



- 9** 「エラーチェックをするドライブ」でチェックするドライブを選びます。



- 10** 「チェック方法」で「完全」を選びます。
- 11** 「開始」をクリックします。
- 12** スキャンディスクが終了したら、「結果レポート」ウィンドウの内容を確認し、「閉じる」をクリックします。
- 13** 「スキャンディスク」ウィンドウの「閉じる」をクリックします。
- 14** 「Windows のヘルプ」ウィンドウの右上の **X** (閉じるボタン) をクリックします。
- 15** 「フォーマット」ウィンドウの「閉じる」をクリックします。
- 16** 「マイコンピュータ」ウィンドウの右上の **X** (閉じるボタン) をクリックします。

アドバイス

エラーが検出されたときは

スキャンディスクの途中で、ハードディスクにエラーが検出された場合は、画面の指示に従ってエラーを修復してください。

アドバイス

領域を 2 つ以上に分けたときは

手順 2 ~ 15 (P.85) を繰り返し、増設したハードディスクのすべての領域をフォーマットしてください。

複数のディスプレイを使う

Windows 98 には、1 台のパソコンに複数のグラフィックスカードとディスプレイを接続して、複数台のディスプレイで 1 つのデスクトップを表示できる「マルチモニタ機能」があります。

ここでは、例として、2 台のディスプレイでマルチモニタ機能を使うために必要なものを行う作業について説明します。

必要なものを用意する

マルチモニタ機能を使うには、本パソコンのほかに次のものが必要です。

- ・マルチモニタ機能に対応している PCI 規格のグラフィックスカード
- ・用意したグラフィックスカード用のディスプレイドライバ
(マルチモニタ機能対応のもの)
- ・ディスプレイ

重要

グラフィックスカードを選ぶときの注意

- ・ AGP 規格、ISA 規格のグラフィックスカードは、本パソコンには拡張スロットが無い
ため、お使いになれません。
- ・ Windows 98 に対応しているグラフィックスカードであっても、添付されている
ディスプレイドライバがマルチモニタ機能には対応していない場合があります。
マルチモニタ機能に対応しているか製造元のメーカーにご確認ください。

BIOS セットアップの設定を確認してください

マルチモニタ機能は、ご購入時の状態でお使いになれます。

必ず、以下の手順に従って BIOS セットアップの設定を確認してください。

- 1 BIOS セットアップを起動します。
- 2  C/50L, C/45L, C/457 をお使いの方は
  「詳細」メニューの「ディスプレイ設定」内にある「プライマリディスプレイ」の設定が
 「AGP」になっていることを確認します。
 C/40L, C/407, C/405 をお使いの方は
  「起動」メニューの「プライマリディスプレイ」の設定が「AGP」になっていることを
 確認します。
- 3 BIOS セットアップを終了します。
 設定を「AGP」に変更した場合は、設定を保存して BIOS セットアップを終了してください。
「プライマリディスプレイ」が「PCI」に設定されている場合は、マルチモニタ機能はお使
いになれません。

グラフィックスカードとディスプレイを接続する

グラフィックスカードを取り付けてディスプレイを接続し、ディスプレイドライバをインストールします。

- 1** 「拡張カードを取り付ける」(☞P.72)をご覧になり、グラフィックスカードを本パソコンに取り付けます。
- 2** 取り付けたグラフィックスカードに、ディスプレイを接続します。接続方法については、ディスプレイとグラフィックスカードのマニュアルをご覧ください。
- 3** ディスプレイの電源ケーブルを接続します。接続方法については、ディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- 4** 接続したディスプレイと、パソコン本体の電源を入れます。
- 5** ディスプレイドライバをインストールします。グラフィックスカードのマニュアルをご覧になり、新たに取り付けたグラフィックスカードのディスプレイドライバをインストールしてください。ドライバをインストールしたあと、本パソコンを再起動してください。

マルチモニタ機能を設定する

ディスプレイドライバをインストールし、本パソコンを再起動したあと、次の操作を行ってください。

- 1** 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2**  (画面) をクリックします。「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3** 「設定」タブをクリックします。

アドバイス

画面が正しく表示されないときは

お使いのグラフィックスカードによっては、本パソコンにあらかじめ接続されているディスプレイの画面が正しく表示されない場合があります。その場合は、「ディスプレイドライバをインストールする」(☞P.146)をご覧になり、ディスプレイドライバを再インストールしてください。

3

オプション機器を活用しよう！(その他のオプション機器を使う)

アドバイス

プライマリディスプレイとセカンダリディスプレイ

パソコン本体の電源を入れると、起動画面はプライマリディスプレイに表示されます。

プライマリディスプレイは、「設定」タブで「1」と表示され、セカンダリディスプレイは「2」と表示されます。

本パソコンでは、あらかじめ接続されているディスプレイがプライマリディスプレイとなり、増設したグラフィックスカードに接続したディスプレイがセカンダリディスプレイになります。

4 「2」と書かれたディスプレイをクリックして選びます。



5 「このモニタを使用可能にしますか?」というメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。

6 接続したディスプレイの解像度と発色数を設定します。

解像度と発色数の設定のしかたについては、「画面の解像度や発色数を変える」(←P.38)をご覧ください。

アドバイス

接続したディスプレイによっては

ディスプレイの設定作業が必要な場合があります。詳しくは、『トラブル解決 Q&A』の「画面が乱れる」をご覧ください。

第 4 章

BIOS セットアップ

～ C/50L, C/45L, C/457 をお使いの方～

C/40L, C/407, C/405 をお使いの方は ←「第 5 章 BIOS セットアップ～ C/40L, C/407, C/405 をお使いの方～」(←P.111)をご覧ください。

BIOS セットアップの設定方法や、パスワードの設定方法などについて説明しています。

BIOS セットアップは、本パソコンのハードウェアとしての状態を設定するためのソフトウェアです。

日常にお使いになる範囲では、BIOS セットアップを操作する必要はありません。また、正しく設定しないと本パソコンが正常に動作しなくなることもあります。

設定が必要な場合のみ、お読みください。

また、BIOS セットアップの画面、項目名、仕様は、改善のため予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

1. BIOS セットアップとは 92
2. BIOS セットアップの操作のしかた 93
3. ご購入時の設定に戻す 97
4. BIOS のパスワード機能を使う 102
5. BIOS が表示するメッセージ一覧 108

1

BIOS セットアップとは

BIOS (バイオス) セットアップはメモリやハードディスク、フロッピーディスクドライブなどのハードウェアの環境を設定するためのソフトウェアです。本パソコンでは、あらかじめ最適な状態に設定されています。次のような場合にのみ設定を行ってください。

- ・ 特定の人だけが本パソコンを利用できるように、本パソコンにパスワード (暗証番号) を設定するとき
- ・ メモリやシリアルポートなどの働きを設定するとき
- ・ 省電力モード (電源を入れた状態で一定時間使わなかったときに、消費する電力を減らして待機している状態) を変更するとき
- ・ 電源を入れたとき、または再起動したときに、BIOS セットアップに関するメッセージが表示されたとき
- ・ 他の OS をお使いになるとき

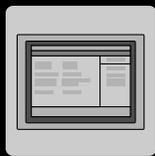


アドバイス

バッテリーの交換について

BIOS セットアップで設定した内容は、パソコン本体内部の CMOS RAM (シーモス ラム) と呼ばれるメモリに記録されます。この CMOS RAM は、記録した内容をバッテリーによって保存しています。BIOS セットアップを正しく行っても、電源を入れたとき、または再起動したときに、BIOS セットアップに関するメッセージが表示される場合は、この CMOS RAM に設定内容が保存されていないおそれがあります。バッテリーが消耗していることが考えられますので、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。

パーソナルエコーセンターのご利用については、『富士通パソコンポート ご案内』をご覧ください。



2

BIOS セットアップの操作のしかた

ここでは、BIOS セットアップの始めかた、終わりかた、設定の変更のしかたについて説明します。

BIOS セットアップを起動する

- 1** それまで本パソコンで行っていた作業を終了します。
必要に応じてデータを保存し、アプリケーションを終了してください。
- 2** 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
- 3** 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。
本パソコンが再起動します。
- 4** 画面下に「<Esc>キー：自己診断画面 起動メニュー / <F2>キー：BIOS セットアップ」と表示されている間に、**[F2]** を押します。
BIOS セットアップの「メイン」メニューが表示されます。

アドバイス

BIOS セットアップを始められなかったら

Windows 98 が起動してしまうと、BIOS セットアップを始められません。Windows 98 が完全に起動するのを待ってから、再度手順 2 ~ 4 の操作を行なってください。

[Esc] を押したときは

手順 4 で [Esc] を押したときは、自己診断画面が表示されます。自己診断テストが完了したら、[Esc] を押してください。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ

メイン	詳細	セキュリティ	省電力	起動	情報	終了
システム時刻: [02:34:56]						項目ヘルプ
システム日付: [1999/06/01]						現在の時刻を、時：分：秒で設定します。(24時間制) <Tab>キー、<Enter>キーで右の項目に移動します。
フロッピーディスクA: [1.44/1.2 MB 3.5"]						
▶ IDEプライマリマスター [13020MB]						<Shift-Tab>キーで左の項目に移動します。
▶ IDEプライマリスレーブ [なし]						
▶ IDEセカンダリマスター [CD-ROM]						
▶ IDEセカンダリスレーブ [なし]						
言語 (Language): [日本語 (JP)]						
F1 ヘルプ 項目選択 /-/Space 値の変更 F9 標準設定 Esc 終了 メニュー選択 Enter ▶サブメニュー選択 F10 保存して終了						

メニューバー: メニューの名称が表示されます。

ヘルプフィールド: カーソルを合わせた項目の説明が表示されます。

カーソル: 設定する項目に合わせます。

設定フィールド: 各メニューで設定する項目名と設定値が表示されます。

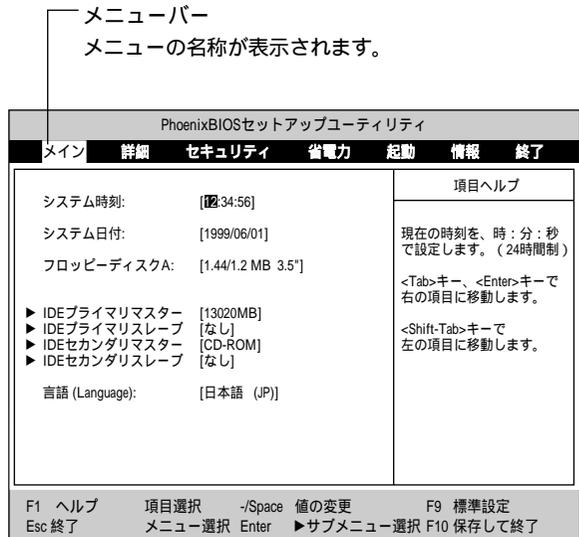
キー一覧: 設定時に使うキーの一覧です。

(画面は機種やモデルにより異なります。)

設定を変更する

- 1** を押して、設定を変更したいメニューにカーソルを合わせます。

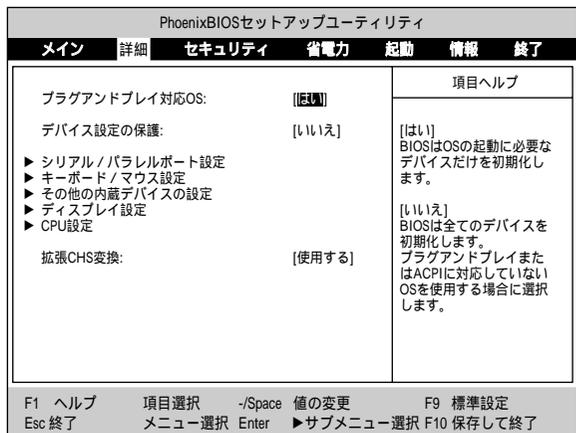
選択したメニュー画面が表示されます。



- 2** を押して、設定を変更したい項目にカーソルを合わせます。

▶ の付いている項目はサブメニューがあることを表します。

▶ の付いている項目にカーソルを合わせて **[Enter]** を押すと、サブメニューが表示されます。



3 を押して、設定を変更します。

画面の右に、各設定値の説明が表示されます。参考にしてください。

さらに他のメニューの設定を変更したいときは、手順 1 から繰り返します。

BIOS セットアップを終了するときは、「BIOS セットアップを終了する」(←P.96) をご覧ください。

設定時に使う各キーの役割

- ・  : 「一般ヘルプ」画面を表示します。「一般ヘルプ」画面は、BIOS セットアップの操作で使用するキーについて説明しています。「一般ヘルプ」画面を閉じるには  を押します。
- ・   : メニューを切り替えます。
- ・   : 設定する項目にカーソルを移動します。
- ・  : ▶ が付いている項目のサブメニューを表示します。
- ・  : 「終了」メニューを表示します。
サブメニューが表示されているときは、1 つ前の画面に戻ります。
- ・  : 設定を変更します。
- ・  : すべての設定を、本パソコンのご購入時の状態(標準設定値)に戻します。
- ・  : 設定した内容を保存して、BIOS セットアップを終了します。

変更内容を取り消す

前回保存したときの設定に戻すことができます。ただし、変更した設定をいったん保存した場合は、保存した設定に戻ります。

1 を押します。

「終了」メニューが表示されます。

2 「変更前の値を読み込む」を選び、 を押します。

「変更前の値を読み込みますか?」というメッセージが表示されます。

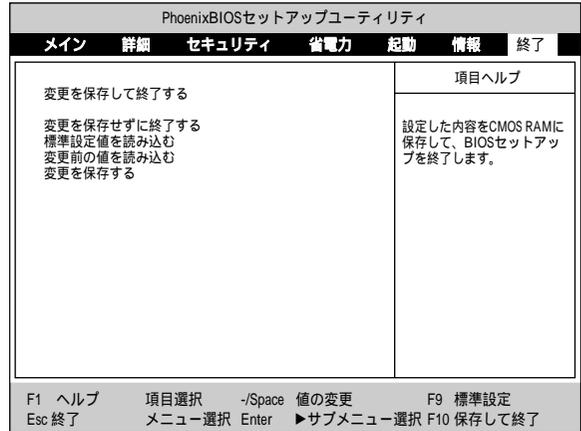
3 「はい」を選び、 を押します。

設定が前回保存したときの値に戻ります。

保存した設定をご購入時の状態に戻すには、「ご購入時の設定に戻す」(←P.97) をご覧ください。

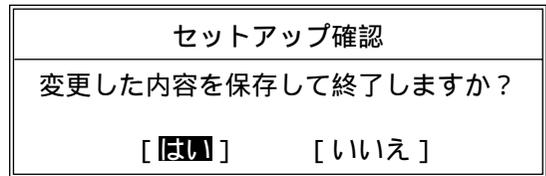
BIOS セットアップを終了する

- 1** 各メニューの設定を終了し、 を押して「終了」メニューを表示します。



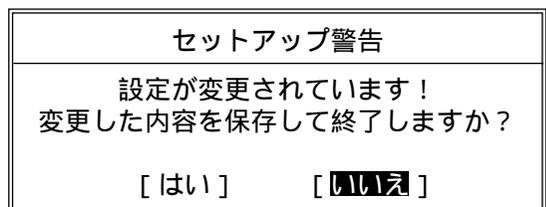
- 2** ▶ 設定を保存してBIOSセットアップを終了し、Windows 98を起動する場合

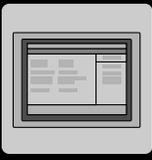
- ← を押して、「変更を保存して終了する」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。
メッセージが表示されたら、 を押して「はい」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。



- ▶ 設定を保存しないでBIOSセットアップを終了し、Windows 98を起動する場合

- ← を押して、「変更を保存せずに終了する」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。
メッセージが表示されたら、 を押して「いいえ」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。





3

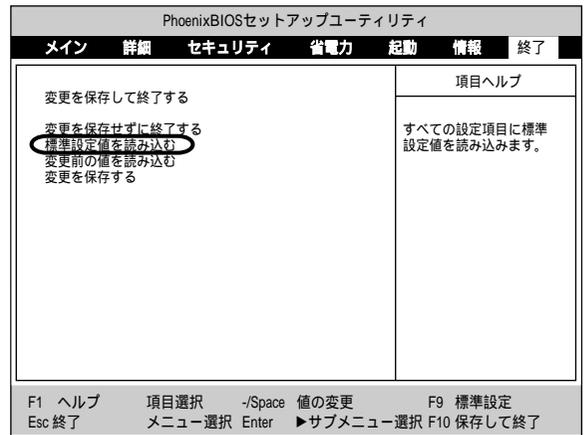
ご購入時の設定に戻す

BIOS セットアップの設定をご購入時の状態（標準設定値）に戻す方法は次のとおりです。

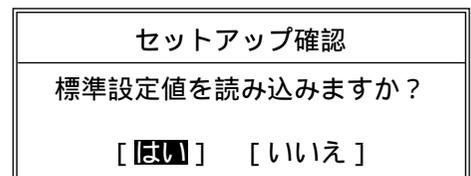
- 1** 各メニューの設定を終了し、 を押して「終了」メニューを表示します。

BIOSセットアップを起動していない場合は、「BIOSセットアップを起動する」(←P.93)をご覧ください。

- 2** を押して「標準設定値を読み込む」にカーソルを合わせ、 を押します。



- 3** を押して「はい」にカーソルを合わせ、 を押します。

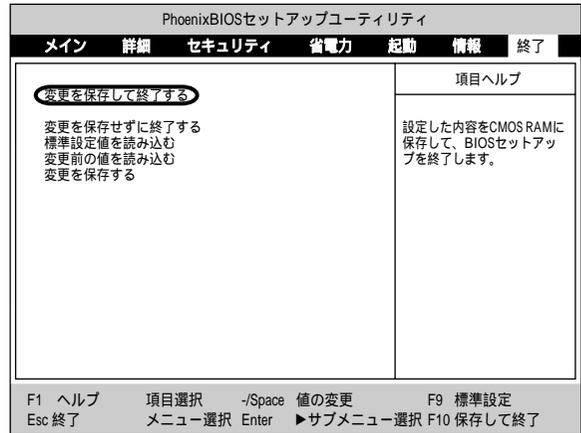


設定をご購入時の状態に戻ります。

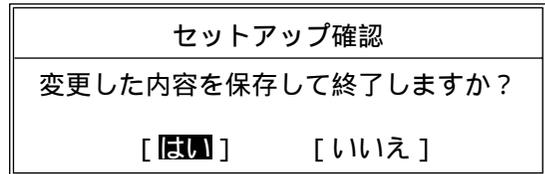
4

BIOSセットアップ（ご購入時の設定に戻す）

- 4** を押して「変更を保存して終了する」にカーソルを合わせ、
 を押します。



- 5** を押して「はい」にカーソルを合わせ、 を押します。



BIOS セットアップが終了し、Windows98 が起動します。

標準設定値一覧

ご購入時に設定されている値は、以下の通りです。

「ご購入時の設定に戻す」(P.97) の操作を行うと、以下の値に設定されます。

メインメニュー

項目	標準設定値	備考
システム時刻	-	現在の時刻が表示
システム日付	-	現在の日付が表示
フロッピーディスクA	1.44/1.2 MB 3.5"	
IDEプライマリマスター	13020MB	お使いの機種、モデルによっては8455MBと表示されます
タイプ	自動	
シリンダ数	-	表示のみ(設定変更不可)
ヘッド数	-	表示のみ(設定変更不可)
セクタ数	-	表示のみ(設定変更不可)
最大容量	-	表示のみ(設定変更不可)
マルチセクタ転送	16セクタ	表示のみ(設定変更不可)
LBAモード制御	使用する	表示のみ(設定変更不可)
転送モード	高速PIO 4	表示のみ(設定変更不可)
DMAモード	ウルトラDMA2	表示のみ(設定変更不可)
IDEプライマリスレーブ	なし	サブメニュー項目はIDEプライマリマスターを参照
IDEセカンダリマスター	CD-ROM	サブメニュー項目はIDEプライマリマスターを参照
IDEセカンダリスレーブ	なし	サブメニュー項目はIDEプライマリマスターを参照
言語(Language)	日本語(JP)	

詳細メニュー

項目	標準設定値	備考
プラグアンドプレイ対応OS	はい	
デバイス設定の保護	いいえ	
シリアル/パラレルポート設定	-	
シリアルポート1	使用する	
I/Oアドレス	3F8-3FF	IRQ10と3F8, 3E8/IRQ11と2F8, 2E8に設定しないでください
割り込み要求	IRQ 4	
パラレルポート	使用する	
モード	双方向	
I/Oアドレス	378-37F	
割り込み要求	IRQ 7	
キーボード/マウス設定	-	
起動時のNumlock設定	オン	
PS/2マウス	使用する	
USBキーボード/マウス	自動	
その他の内蔵デバイスの設定	-	
フロッピーディスクコントローラ	使用する	
IDE コントローラ	両方使用する	
サウンドコントローラ	使用する	
ディスプレイ設定	-	
プライマリディスプレイ	AGP	
AGPアパーチャサイズ	64MB	
CPU設定	-	
プロセッサシリアルナンバ	使用する	
拡張CHS変換	使用する	

セキュリティメニュー

項目	標準設定値	備考
管理者用パスワード	使用不可	パスワード設定状況によって、表示は異なります
ユーザー用パスワード	使用不可	パスワード設定状況によって、表示は異なります
管理者用パスワード設定	-	
ユーザー用パスワード設定	-	
ユーザー用パスワード文字数設定	16	
起動時のパスワード	使用しない	
自動ウェイクアップ時のパスワード	使用しない	
ハードディスク以外からの起動	常に可能	
フロッピーディスクアクセス	常に可能	
ハードディスク起動セクタ	通常動作	

省電力メニュー

項目	標準設定値	備考
省電力モード	使用しない	
ハードディスク省電力	使用しない	
ディスプレイ省電力	使用しない	
電源スイッチ	スタンバイ	
自動ウェイクアップ	-	
モデム着信によるウェイクアップ	使用しない	
PCI PMEによるウェイクアップ	使用しない	
時刻によるウェイクアップ	使用しない	
ウェイクアップ時刻	00:00:00	
ウェイクアップ日付	毎日	
APMによる電源管理	使用する	
ACPI設定	-	
スタンバイモード	標準	

起動メニュー

項目	標準設定値	備考
高速起動	使用する	
起動時の自己診断画面	表示しない	
ATA/ATAPIドライブの待ち時間	3秒	
起動デバイスの優先順位	-	
1. フロッピーディスクドライブ		
2. ハードディスクドライブ		
3. ATAPI CD-ROM ドライブ		
ハードディスク		ハードディスクの種類を選べます

BIOS のパスワード機能を使う

本パソコンでは、特定の人だけが起動やBIOS セットアップを行えるように、パスワードを設定することができます。

ここでは、パスワードの設定方法や変更方法などについて説明します。

パスワードの種類

設定できるパスワード

本パソコンで設定できるパスワードは次の2つです。

- ・ 管理者用パスワード
特定の人だけが、BIOS セットアップを行えるようにするためのパスワードです。
パスワード機能を使うときは、必ず設定してください。
- ・ ユーザー用パスワード
「管理者」以外の方がお使いになるパスワードです。
このパスワードでBIOS セットアップを起動した場合は、設定できる項目が制限されます。

パスワードで制限 / 保護できる機能

- ・ BIOS セットアップの起動
パスワードを入力しないとBIOS セットアップが起動しないように制限します。
「管理者用パスワード」を設定すると、自動的に働きます。
- ・ 起動時のパスワード
パスワードを入力しないとOS が起動しないように制限します。
- ・ 自動ウェイクアップ時のパスワード
自動ウェイクアップ時にパスワードの入力を要求されます。
この機能は、通常は本パソコンではお使いになれません。
- ・ ハードディスク以外からの起動
起動をハードディスクのみに制限します。
- ・ フロッピーディスクアクセス
フロッピーディスクを使えないようにします。
- ・ ハードディスク起動セクタ
ウィルスから保護するため、ハードディスクの起動セクタへの書き込みを禁止します。

パスワードを設定する

管理者用パスワード、ユーザー用パスワードを設定する方法を説明します。

重要

ユーザー用パスワードを設定するときは管理者用パスワードを設定してください
ユーザー用パスワードは、管理者用パスワードが設定されているときのみ設定できます。

- 1 BIOS セットアップを起動します。
起動のしかたについては「BIOS セットアップを起動する」(P.93)をご覧ください。
- 2 を押して、「セキュリティ」メニューを表示します。
- 3 を押して、「管理者用パスワード設定」または「ユーザー用パスワード設定」にカーソルを合わせます。
- 4 を押します。
パスワードを入力するウィンドウが表示されます。

管理者用パスワード設定	
新しいパスワードを入力して下さい。	[<input type="password"/>]
新しいパスワードを確認して下さい。	[<input type="password"/>]

または

ユーザー用パスワード設定	
新しいパスワードを入力して下さい。	[<input type="password"/>]
新しいパスワードを確認して下さい。	[<input type="password"/>]

- 5 パスワードを入力します。
入力できる文字はアルファベットと数字です。管理者用パスワードは、最大16文字までです。
入力した文字は表示されず、代わりに「■」が表示されます。
- 6 を押します。
カーソルが「新しいパスワードを確認して下さい。」の項目に移ります。

アドバイス

ユーザー用パスワードを設定するときは「ユーザー用パスワード文字数設定」で、入力しなければならない最低の文字数を設定することができます。なお、本設定はユーザー用パスワードでBIOSセットアップを起動した場合にのみ有効です。

アドバイス

パスワードを間違えると

メッセージが表示されず、**[Enter]**を押して、前ページの手順5から操作し直してください。

7 手順5で入力したパスワードをもう一度入力し、**[Enter]**を押します。
「変更が保存されました。」というメッセージが表示されます。

8 **[Enter]**を押します。
これでパスワードが設定されました。

9 続いてユーザー用パスワードを設定する場合は、手順3～8を繰り返します。

10 を押して、「起動時のパスワード」にカーソルを合わせます。

11 を押して、設定を「毎回」に変更します。

12 を押して「終了」メニューを表示します。

13 を押して、「変更を保存する」にカーソルを合わせ、**[Enter]**を押します。

重要

必ず「変更を保存する」を選択してください

誤って「変更を保存して終了する」を実行すると、パスワードは設定されません。

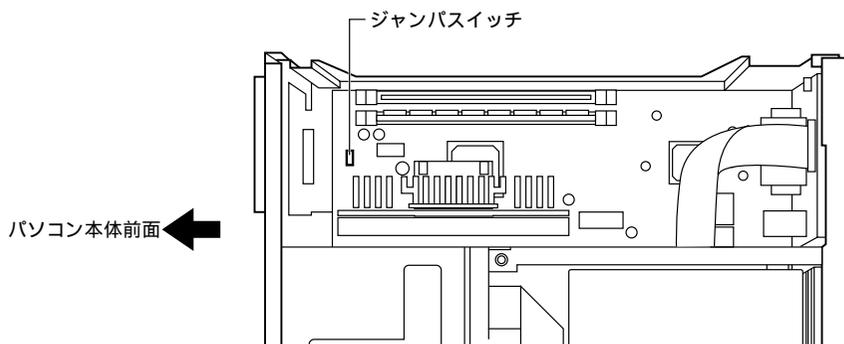
14 メッセージが表示されたら、 を押して「はい」にカーソルを合わせ、**[Enter]**を押します。
設定が保存されます。

15 電源スイッチを4秒以上押し続けて、本パソコンの電源を切ります。
必ず本パソコンの電源ランプが消えていることを確認してください。
電源ランプがオレンジ色に点灯しているときは、もう一度電源スイッチを4秒以上押し続けて、本パソコンの電源を切ってください。

16 次ページの「ジャンプスイッチを設定する」をご覧ください、ジャンプスイッチを変更します。

ジャンプスイッチを設定する

BIOS セットアップで、パスワードを設定した場合に、そのパスワードを有効にするためにパソコン本体内部のジャンプスイッチを変更する必要があります。

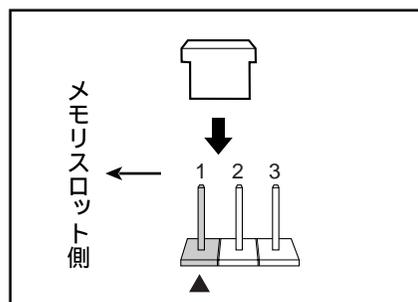


感電 ジャンプスイッチを変更するときは、パソコン本体と接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。感電の原因となります。



けが 基板表面上の突起物には手を触れないでください。けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

- 1** 「本体カバーを取り外す」(☞P.59)をご覧になり、本体カバーを取り外します。
- 2** ジャンプスイッチを「2-3番」から「1-2番」に変更します。本パソコンのご購入時は、「2-3番」に設定されています。



- 3** 「本体カバーを取り付ける」(☞P.60)をご覧になり、本体カバーを取り付けます。

パスワード設定後のパソコンの起動

パスワードを設定すると、設定の状態によって次の場合にパスワードの入力を要求されます。

- ・本パソコンを起動するとき
- ・BIOS セットアップを起動するとき

「パスワードを入力して下さい。」というメッセージが表示されます。設定してあるパスワードを入力して、**[Enter]**を押してください。

パスワードを入力して下さい。 [XXXXXXXXXX]

重要

誤ったパスワードを 3 回入力すると

「システムは使用できません。」というメッセージが表示されて、パソコンが停止します。その場合は、電源スイッチを押してパソコン本体の電源を切ってから 10 秒ほど待って、もう一度電源を入れます。そのあと、正しいパスワードを入力してください。

パスワードを忘れてしまったら

設定したパスワードを忘れてしまい、BIOS セットアップや起動ができなくなった場合は、パソコン本体内部のジャンプスイッチを元に戻してください。パスワードチェックが解除され、BIOS セットアップや起動ができるようになります。ジャンプスイッチの変更方法については、「ジャンプスイッチを設定する」(P.105)を参考にしてください。

パスワードを変更 / 削除する

- 1** BIOS セットアップを起動します。
- 2** を押して、「セキュリティ」にカーソルを合わせます。「セキュリティ」メニューが表示されます。

- 3** を押して、「管理者用パスワード設定」または「ユーザー用パスワード設定」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。
パスワードを入力するウィンドウが表示されます。

管理者用パスワード設定	
現在のパスワードを入力して下さい。	[<input type="password"/>]
新しいパスワードを入力して下さい。	[<input type="password"/>]
新しいパスワードを確認して下さい。	[<input type="password"/>]

または

ユーザー用パスワード設定	
現在のパスワードを入力して下さい。	[<input type="password"/>]
新しいパスワードを入力して下さい。	[<input type="password"/>]
新しいパスワードを確認して下さい。	[<input type="password"/>]

- 4** 設定してあるパスワードを入力し、**[Enter]** を押します。
カーソルが「新しいパスワードを入力して下さい。」の項目に移ります。

- 5**
- ▶ **パスワードを変更する場合**
 - ☛ 新しく設定したいパスワードを入力し、**[Enter]** を押します。
 - ▶ **パスワードを削除する場合**
 - ☛ 何も入力せずに、**[Enter]** を押します。
- カーソルが「新しいパスワードを確認して下さい。」の項目に移ります。

- 6**
- ▶ **パスワードを変更する場合**
 - ☛ 手順5で入力した新しいパスワードをもう一度入力し、**[Enter]** を押します。
 - ▶ **パスワードを削除する場合**
 - ☛ 何も入力せずに、**[Enter]** を押します。
- 「変更が保存されました。」というメッセージが表示されます。

- 7** **[Enter]** を押します。

- 8** 設定内容を保存して、BIOS セットアップを終了します。

アドバイス

ユーザー用パスワードで BIOS セットアップを起動した場合は

「ユーザー用パスワード文字数設定」が 0 に設定されている場合のみ、パスワードを削除できます。

アドバイス

再入力したパスワードが間違っているときは

メッセージが表示されません。**[Enter]** を押して、正しいパスワードを入力し直してください。

BIOS が表示するメッセージ一覧

ここでは、本パソコンが表示するメッセージ (BIOS メッセージ) について説明しています。必要に応じてお読みください。

メッセージが表示されたときは

「メッセージ一覧」をご覧になり、次のいずれかの方法でエラーを解消してください。

- BIOS セットアップの設定を変更する
指示に従って BIOS セットアップを起動して、設定をご購入時の状態 (標準設定値) に戻してください。詳しくは、「ご購入時の設定に戻す」(←P.97) をご覧ください。
- オプション機器の取り付けを確認する
オプション機器の拡張カードやメモリなどを取り付けているときは、それらが正しく取り付けられているかを確認してください。また、IRQ (割り込み要求) (←P.141) が正しく設定されているかも確認してください。このとき、オプション機器のマニュアルもあわせてご覧ください。

上記の方法で対処してもメッセージが表示される場合、または次の「メッセージ一覧」に当てはまるメッセージがない場合は、本パソコンが故障している可能性があります。弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。

メッセージ一覧

次のメッセージが表示されると、本パソコンが停止します。指示に従って対処してください。

1. システムメモリエラー。オフセットアドレス:xxxx
System Memory Failed at offset:xxxx
システムメモリのテスト中に、エラーが発見されました。
本パソコンの電源を切り、メモリが正しく取り付けられているか確認してください。正しく取り付けられているときは、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
2. 拡張メモリエラー。オフセットアドレス:xxxx
Extended RAM Failed at offset:xxxx
拡張メモリのテスト中に、エラーが発見されました。
本パソコンの電源を切り、メモリが正しく取り付けられているか確認してください。正しく取り付けられているときは、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
3. メモリキャッシュのエラーです。- キャッシュは使用できません。
System cache error - Cache disabled
キャッシュメモリのテスト中に、エラーが発見されました。
本パソコンの電源を切り、メモリが正しく取り付けられているか確認してください。正しく取り付けられているときは、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。

アドバイス

電源を切るときは

電源スイッチを 4 秒以上押し続けて、本パソコンの電源を切ってください。電源ランプがオレンジ色に点灯しているときは、もう一度電源スイッチを 4 秒以上押し続けて、本パソコンの電源を切ってください。その後、必ず本パソコンの電源ランプが消えていることを確認してください。

4. キーボードコントローラのエラーです。
Keyboard controller error
キーボードコントローラのテスト中に、エラーが発見されました。
本パソコンの電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示される
ときは、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
5. キーボードエラーです。
Keyboard error
キーボードのテスト中に、エラーが発見されました。
本パソコンの電源を切り、キーボードが正しく接続されているかを確認して
ください。正しく接続されているときは、弊社パーソナルエコーセンター、また
はご購入元にご相談ください。
6. フロッピーディスク A のエラーです。
Diskette drive A error
フロッピーディスクドライブのテスト中に、エラーが発見されました。
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
7. ディスクエラーです。:ハードディスク n
Failure Fixed Disk
ハードディスクドライブの設定にエラーが発見されました。
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
8. システムタイマーのエラーです。
System timer error
システムタイマーのテスト中に、エラーが発見されました。
本パソコンの電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示される
ときは、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
9. リアルタイムクロックのエラーです。
Real time clock error
リアルタイムクロックのテスト中に、エラーが発見されました。
本パソコンの電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示される
ときは、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
10. システム CMOS のチェックサムが正しくありません。 - 標準設定値が設定
されました。
System CMOS checksum bad - Default configuration used
CMOS RAM のテスト中に、エラーが発見されたため、いったん標準設定値
に設定されました。
BIOS セットアップを起動し、「ご購入時の設定に戻す」(←P.97) の操作を
行ってください。
それでも本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、
またはご購入元にご相談ください。

11. 前回の起動が正常に完了しませんでした。 - 標準設定値が設定されました。
Previous boot incomplete - Default configuration used
前回の起動時に正しく起動されなかったため、一部の設定項目が標準設定値に設定されました。
このメッセージは、起動途中で電源を切ってしまったとき、BIOSセットアップで誤った値を設定して起動できなかったとき、3回以上同じ操作で起動し直したときに表示されます。
そのまま起動する場合は、**[F1]**を押してください。BIOSセットアップを起動する場合は、**[F2]**を押してください。
12. <F1> キーを押すと継続、<F2> キーを押すとセットアップを起動します。
Press <F1> to resume, <F2> to Setup
起動時の自己診断テストでエラーが発生しました。
[F1]を押すと発生しているエラーを無視して起動します。**[F2]**を押すとBIOSセットアップが起動します。
13. 日付と時刻の設定を確認してください。
Check date and time Settings
BIOSセットアップを起動し、「メイン」メニューの「システム時刻」と「システム日付」を正しく設定してください。
14. Invalid system disk
Replace the disk, and then press any key
フロッピーディスクドライブに、システム以外のフロッピーディスクをセットしたまま電源を入れる则表示されます。
フロッピーディスクを取り出して、何かキーを押してください。
15. Non-System disk or disk error
Replace and press any key when ready
フロッピーディスクドライブに、システム以外のフロッピーディスクをセットしたまま電源を入れる则表示されます。
フロッピーディスクを取り出して、何かキーを押してください。
16. Operating system not found
OSが見つかりませんでした。BIOSセットアップでドライブが正しく設定されているか、指定したドライブにOSが入っているかを確認してください。
17. メモリがシステムバスクロックに適合していません。
WRONG MEMORY : Serial Presence Detected (SPD) indicates 66MHz Memory
This processor requires 100MHz memory. Shut system down.
取り付けられたメモリは66MHzのメモリで、システムバスクロックが適合していません。
本パソコンの電源を切り、システムバスクロックが100MHzのメモリに交換してください。
18. メモリのスピードが不明です。
SERIAL PRESENCE DETECT (SPD) Unavailable - memory speed unknown
This processor requires 100MHz memory. Shut system down.
スピードが不明なメモリが取り付けられています。
本パソコンの電源を切り、システムバスクロックが100MHzのメモリに交換してください。

第 5 章

BIOS セットアップ

～ C/40L, C/407, C/405 をお使いの方～

C/50L, C/45L, C/457 をお使いの方は ← 「第 4 章 BIOS セットアップ～ C/50L, C/45L, C/457 をお使いの方～」(←P.91) をご覧ください。

BIOS セットアップの設定方法や、パスワードの設定方法などについて説明しています。

BIOS セットアップは、本パソコンのハードウェアとしての状態を設定するためのソフトウェアです。

日常にお使いになる範囲では、BIOS セットアップを操作する必要はありません。また、正しく設定しないと本パソコンが正常に動作しなくなることもあります。

設定が必要な場合のみ、お読みください。

また、BIOS セットアップの画面、項目名、仕様は、改善のため予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

1. BIOS セットアップとは 112
2. BIOS セットアップの操作のしかた 113
3. ご購入時の設定に戻す 118
4. BIOS のパスワード機能を使う 122
5. BIOS が表示するメッセージ一覧 128

BIOS セットアップとは

BIOS (バイオス) セットアップはメモリやハードディスク、フロッピーディスクドライブなどのハードウェアの環境を設定するためのソフトウェアです。本パソコンでは、あらかじめ最適な状態に設定されています。次のような場合にのみ設定を行ってください。

- ・ 特定の人だけが本パソコンを利用できるように、本パソコンにパスワード (暗証番号) を設定するとき
- ・ メモリやシリアルポートなどの働きを設定するとき
- ・ 省電力モード (電源を入れた状態で一定時間使わなかったときに、消費する電力を減らして待機している状態) を変更するとき
- ・ 電源を入れたとき、または再起動したときに、BIOS セットアップに関するメッセージが表示されたとき
- ・ 他の OS をお使いになるとき



アドバイス

バッテリーの交換について

BIOS セットアップで設定した内容は、パソコン本体内部の CMOS RAM (シーモス ラム) と呼ばれるメモリに記録されます。この CMOS RAM は、記録した内容をバッテリーによって保存しています。BIOS セットアップを正しく行っても、電源を入れたとき、または再起動したときに、BIOS セットアップに関するメッセージが表示される場合は、この CMOS RAM に設定内容が保存されていないおそれがあります。バッテリーが消耗していることが考えられますので、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。

パーソナルエコーセンターのご利用については、『富士通パソコンサポート ご案内』をご覧ください。



2

BIOS セットアップの操作のしかた

ここでは、BIOS セットアップの始めかた、終わりかた、設定の変更のしかたについて説明します。

BIOS セットアップを起動する

- 1** それまで本パソコンで行っていた作業を終了します。
必要に応じてデータを保存し、アプリケーションを終了してください。
- 2** 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
- 3** 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。
本パソコンが再起動します。
- 4** 画面下に「<F2>キーを押すと、BIOS セットアップを起動します。」と表示されている間に、**[F2]** を押します。
BIOS セットアップのメインメニュー画面が表示されます。

アドバイス

BIOS セットアップを始められなかったら

Windows98 が起動してしまうと、BIOS セットアップを始められません。Windows98 が完全に起動するのを待ってから、再度手順 2 ~ 4 の操作を行ってください。

BIOS セットアップ
の各メニューです。



キー一覧
設定時に使うキーの
一覧です。

5

BIOS セットアップ (BIOS セットアップの操作のしかた)

設定を変更する

- 1 を押して、設定を変更したいメニューにカーソルを合わせます。



- 2 設定を変更したいメニューが黄色で表示されていることを確認し、**[Enter]** を押します。

詳細設定項目を表示するときは、**[F8]** を押してから **[Enter]** を押します。

- 3 を押して、設定を変更したい項目にカーソルを合わせます。

▶ の付いている項目はサブメニューがあることを表します。

▶ の付いている項目にカーソルを合わせて **[Enter]** を押すと、サブメニューが表示されます。



ヘルプフィールド
カーソルを合
わせた項目の説明
が表示されます。

(画面は一例です)

アドバイス

詳細設定項目について

本章の画面の中で、斜体表示されている項目は詳細設定項目です。通常は表示されません。

通常は、詳細設定項目の設定を変更する必要はありません。

アドバイス

数値を入力する項目もあります

項目の中には、数値を入力するものもあります。詳しくは BIOS 画面のヘルプをご覧ください。

4 □□を押して、設定を変更します。

さらに他のメニューの設定を変更したいときは、**[Esc]** を押してメインメニュー画面に戻り、手順 1 から繰り返します。

サブメニューを表示していた場合は、**[Esc]** を押すと1つ前の画面に戻ります。

BIOS セットアップを終了するときには、「BIOS セットアップを終了する」(←P.116) をご覧ください。

設定時に使う各キーの役割

- **[Esc]** : 前画面に戻ります。各メニューが表示されているときは、メインメニュー画面に戻ります。サブメニューやヘルプが表示されているときは、各メニューに戻ります。
メインメニュー画面が表示されているときは、BIOS セットアップを終了するメッセージが表示されます。
- **[Enter]** : ▶ が付いている項目のサブメニューを表示します。または、設定を選択します。
- **□□** : 設定するメニューや項目、設定にカーソルを移動します。
- **□□** : 設定を変更します。
- **[F5]** : BIOS セットアップ画面の表示を英語に切り替えます。
もう一度押すと日本語に戻ります。
- **[F8]** : メインメニュー画面で押すと、詳細設定項目が表示されます。詳細設定項目の表示を消すには、メインメニュー画面で再度 **[F8]** を押します。
- **[Alt]+[H]** : このキーを押したときの画面上で使えるキーと、そのキーの役割について表示されます。
もう一度押すと表示は消えます。

5

BIOS セットアップ (BIOS セットアップの操作のしかた)

変更内容を取り消す

前回保存したときの設定に戻すことができます。ただし、変更した設定をいったん保存した場合は、保存した設定に戻ります。

1 「終了」メニューを表示します。

2 「変更前の値を読み込む」を選び、**[Enter]** を押します。

「変更前の値を読み込みますか?」というメッセージが表示されます。

3 「はい」を選び、**[Enter]** を押します。

設定が前回保存したときの値に戻ります。

保存した設定をご購入時の状態に戻すには、「ご購入時の設定に戻す」(←P.118) をご覧ください。

BIOS セットアップを終了する

- 1 各メニューの設定を終了し、**[Esc]** を押してメインメニュー画面を表示します。
- 2 **[] []** を押して、「終了」にカーソルを合わせます。



- 3 **[Enter]** を押します。



3

ご購入時の設定に戻す

BIOS セットアップの設定をご購入時の状態（標準設定値）に戻す方法は次のとおりです。

- 1** メインメニュー画面が表示されていないときは、**[Esc]** を押してメインメニュー画面を表示します。

BIOSセットアップを起動していない場合は、「BIOSセットアップを起動する」(←P.113)をご覧ください。

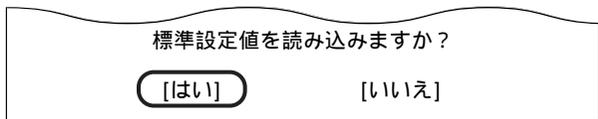
- 2** **[F5]** を押して、「終了」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。



- 3** **[F5]** を押して「標準設定値を読み込む」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。

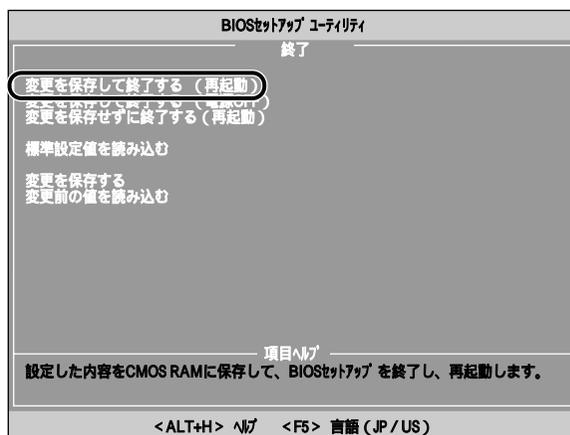


- 4** を押して「はい」にカーソルを合わせ（白字で表示されている状態） を押します。



設定がご購入時の状態に戻ります。

- 5** を押して「変更を保存して終了する（再起動）」にカーソルを合わせ、 を押します。



5

BIOSセットアップ（ご購入時の設定に戻す）

- 6** を押して「はい」にカーソルを合わせ（白字で表示されている状態） を押します。



BIOS セットアップが終了し、Windows98 が起動します。

標準設定値一覧

ご購入時に設定されている値は、以下の通りです。

「ご購入時の設定に戻す」(☞P.118)の操作を行うと、以下の値に設定されます。

下表の備考欄に が付いている項目は、詳細設定項目(☞P.114)です。

日付と時刻メニュー

項目	標準設定値	備考
システム日付	-	現在の日付が表示
システム時刻	-	現在の時刻が表示

起動メニュー

項目	標準設定値	備考
起動デバイスの優先順位	-	
1. [フロッピーディスク A:]		
2. [ハードディスク C:]		
3. [IDE CD-ROM]		
プライマリディスプレイ	AGP	
高速起動	使用する	
起動時の自己診断画面	表示しない	
起動時のNumLock設定	使用する	
メモリ診断	使用しない	
BIOS書き換えモード	使用しない	
言語 (Language)	日本語 (JP)	

ディスクドライブメニュー

項目	標準設定値	備考
フロッピーディスクコントローラ	使用する	
フロッピーディスク A	1.44MB 3.5インチ	
フロッピーディスク B	なし	
書き込み禁止機能	使用しない	
IDEコントローラ	両方使用する	
IDEプライマリマスター	-	
デバイスの検出	自動	
タイプ	ハードディスク	
シリンダ数	-	
ヘッド数	-	
セクタ数	-	
最大容量	-	
LBAモード制御	自動	
マルチセクタ転送	自動	
32ビットアクセス	使用する	
PIO転送モード	自動	
DMA転送モード	自動	
IDEプライマリスレーブ	なし	サブメニュー項目はプライマリマスターを参照
IDEセカンダリマスター	IDE CD-ROM	サブメニュー項目はプライマリマスターを参照 / タイプはIDE CD-ROMと表示される
IDEセカンダリスレーブ	なし	サブメニュー項目はプライマリマスターを参照
書き込み禁止機能	使用しない	

内蔵デバイスメニュー

項目	標準設定値	備考
シリアルポート	使用する	
I/Oアドレス	3F8h	
割り込み要求 (IRQ)	4	
パラレルポート	使用する	
I/Oアドレス	378h	
割り込み要求 (IRQ)	7	
モード	双方向	
DMAチャンネル	-	
PS/2マウス	使用する	
サウンドコントローラ	使用する	
USBキーボード/マウス	使用する	

PnP/PCIメニュー

項目	標準設定値	備考
プラグアンドプレイ対応OS	はい	
割り込み要求 (IRQ) の共有	はい	
割り込み要求 (IRQ) 設定	自動	
INTA#	-	PCIスロット1のIRQを表示
INTB#	-	PCIスロット2のIRQを表示
INTC#	-	サウンドコントローラのIRQを表示
INTD#	-	USBのIRQを表示
AGPアパーチャサイズ	64	
リソース (ESCD) の初期化	いいえ	

省電力メニュー

項目	標準設定値	備考
省電力モード	使用する	
電源スイッチ	スタンバイ	
ハードディスク省電力	使用しない	
スタンバイ移行時間	使用しない	
自動ウェイクアップ	-	
モデム着信によるウェイクアップ	使用しない	
PCI PMEによるウェイクアップ	使用しない	
時刻によるウェイクアップ	使用しない	
ウェイクアップ日付	-	
ウェイクアップ時刻	-	

システム管理メニュー

項目	標準設定値	備考
セキュリティ	-	
管理者用パスワード	-	パスワード設定状況によって、表示は異なります
ユーザー用パスワード	-	パスワード設定状況によって、表示は異なります

4

BIOS のパスワード機能を使う

本パソコンでは、特定の人だけが起動やBIOS セットアップを行えるように、パスワードを設定することができます。

ここでは、パスワードの設定方法や変更方法などについて説明します。

パスワードの種類

本パソコンで設定できるパスワードは次の 2 つです。

・ 管理者用パスワード

特定の人だけが、BIOS セットアップを行えるようにするためのパスワードです。設定したパスワードを入力しないと、BIOS セットアップおよび OS が起動しないようにします。

・ ユーザー用パスワード

特定の人だけが、本パソコンを使えるようにするためのパスワードです。設定したパスワードを入力しないと、BIOS セットアップおよび OS が起動しないようにします。

このパスワードで BIOS セットアップを起動した場合は、設定の変更はできません（システム日付、システム時刻を除く）。

パスワードを設定する

管理者用パスワード、ユーザー用パスワードを設定する方法を説明します。



重要

ユーザー用パスワードを設定するときは管理者用パスワードを設定してください

ユーザー用パスワードは、管理者用パスワードが設定されているときにのみ設定できます。

1

BIOS セットアップを起動します。

起動のしかたについては「BIOS セットアップを起動する」(P.113)をご覧ください。

2

を押して、「システム管理」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。

3

を押して、「管理者用パスワード」または「ユーザー用パスワード」にカーソルを合わせます。

初めてパスワードを設定するときは、必ず「管理者用パスワード」を選んでください。

4   を押します。

パスワードを入力するウィンドウが表示されます。

管理者用パスワード	
パスワードを2度入力して下さい。最高7文字のパスワードを設定できます。	
新しいパスワードを入力して下さい -----[]
新しいパスワードを確認して下さい -----[]
パスワードの設定	

 **アドバイス**

テンキーで入力するには

テンキーで数字を入力するには  を押し、数字を入力できる (NumLock インジケータが点灯している) 状態にしてください。

5 パスワードを入力します。

入力できる文字はアルファベットと数字です。最大7文字までなら何文字でもかまいません。

入力した文字は表示されず、代わりに「*」が表示されます。

6  を押します。

カーソルが「新しいパスワードを確認して下さい。」の項目に移ります。

7 手順5で入力したパスワードをもう一度入力し、 を押します。**8**  を押します。

設定値が「設定済」になります。

再入力したパスワードが、手順5で入力したものと違っていた場合は、メッセージが表示されます。 を押して、手順5から操作し直してください。

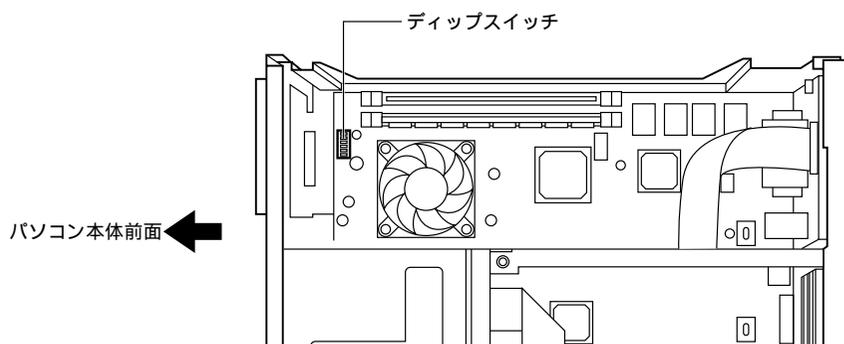
9 続いてユーザー用パスワードを設定する場合は、手順3～8を繰り返します。**10** 設定内容を保存して、BIOS セットアップを終了します。

終了のしかたについては「BIOS セットアップを終了する」(P.116)をご覧ください。

11 次ページの「ディップスイッチを設定する」をご覧ください、ディップスイッチを変更します。**5**

ディップスイッチを設定する

BIOS セットアップで、パスワードを設定した場合に、そのパスワードを有効にするためにパソコン本体内部のディップスイッチを変更する必要があります。



警告



感電 ディップスイッチを変更するときは、パソコン本体と接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。感電の原因となります。



注意

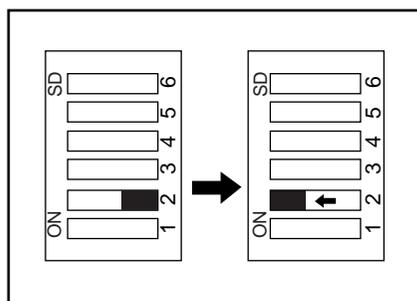


けが 基板表面上の突起物には手を触れないでください。けがをすおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

1 「本体カバーを取り外す」(←P.59)をご覧ください、本体カバーを取り外します。

2 ディップスイッチの2番をONに変更します。

ディップスイッチの「2」と書かれたスイッチを、OFF(2の数字側)からONにスライドさせます。ピンセットなどの先の細いものを使ってください。



3 「本体カバーを取り付ける」(←P.60)をご覧ください、本体カバーを取り付けます。

パスワード設定後のパソコンの起動

パスワードを設定すると、次に電源を入れたとき、またはBIOSセットアップを始めるときに、次の画面が表示されます。



設定したパスワードを入力し、**[Enter]**を押してください。

重要

誤ったパスワードを3回入力すると

「不正確なパスワードが入力されました。システムは使用できません。」というメッセージが表示されて、パソコンが停止します。その場合は、電源スイッチを4秒以上押し続けてパソコンの電源を切ってから10秒ほど待って、もう一度電源を入れます。そのあと、正しいパスワードを入力してください。

パスワードを忘れてしまったら

設定したパスワードを忘れてしまい、BIOSセットアップや起動ができなくなった場合は、パソコン本体内部のディップスイッチの2番を、ONからOFF(2の数字側)に切りかえてください。

パスワードチェックが解除され、BIOSセットアップや起動ができるようになります。

ディップスイッチの変更方法については、「ディップスイッチを設定する」(←P.124)を参考にしてください。

パスワードを変更 / 削除する

重要

管理者用パスワードで BIOS セットアップを起動してください

ユーザー用パスワードで BIOS セットアップを起動しても、パスワードを変更 / 削除することはできません。

パスワードを変更する

アドバイス

ユーザー用パスワードを変更する別の方法

- 1 パソコン本体の電源を入れます。パスワードの入力画面が表示されます。
- 2 パスワードを入力します。
- 3 続けて を押して、新しいパスワードを入力します。
- 4 を押します。パスワードを確認するメッセージが表示されます。
- 5 新しいパスワードをもう一度入力し、 を押します。パスワードが新しくなります。

- 1 BIOS セットアップを起動します。
起動のしかたについては「BIOS セットアップを起動する」(←P.113)をご覧ください。
- 2 を押して、「システム管理」にカーソルを合わせ、 を押します。
- 3 を押して、「管理者用パスワード」または「ユーザー用パスワード」にカーソルを合わせます。
- 4 を押して、設定を「未設定」に戻します。
- 5 もう一度 を押して、パスワード入力用のウィンドウを表示させます。
- 6 新しいパスワードを入力します。
パスワードが新しくなります。
- 7 設定内容を保存して BIOS セットアップを終了します。
終了のしかたについては「BIOS セットアップを終了する」(←P.116)をご覧ください。

パスワードを削除する

重要

管理者用パスワードを削除すると

ユーザー用パスワードも一緒に削除されますので、ご注意ください。

ユーザー用パスワードを削除すると

管理者用パスワードでしか、BIOS セットアップおよび OS が起動できなくなります。

アドバイス

ユーザー用パスワードを削除する別の方法

- 1 パソコン本体の電源を入れます。
パスワードの入力画面が表示されます。
- 2 パスワードを入力します。
- 3 続けて  を押して、 を押します。
パスワードが削除されます。

- 1 **BIOS セットアップを起動します。**
起動のしかたについては「BIOS セットアップを起動する」(←P.113) をご覧ください。
- 2   を押して、「システム管理」にカーソルを合わせ、 を押します。
- 3   を押して、「管理者用パスワード」または「ユーザー用パスワード」にカーソルを合わせます。
- 4   を押して、設定を「未設定」に戻します。
- 5 **設定内容を保存して BIOS セットアップを終了します。**
終了のしかたについては「BIOS セットアップを終了する」(←P.116) をご覧ください。
- 6 **管理者用パスワードを削除したときは、ディップスイッチを変更します。**
「ディップスイッチを設定する」(←P.124) をご覧になり、ディップスイッチの 2 番を OFF に変更します。

5

BIOS セットアップ (BIOS のパスワード機能を使う)

5

BIOS が表示するメッセージ一覧

ここでは、本パソコンが表示するメッセージ (BIOS メッセージ) について説明しています。必要に応じてお読みください。

メッセージが表示されたときは

「メッセージ一覧」をご覧になり、次のいずれかの方法でエラーを解消してください。

- ・ BIOS セットアップの設定を変更する
指示に従って BIOS セットアップを起動して、設定をご購入時の状態 (標準設定値) に戻してください。詳しくは、「ご購入時の設定に戻す」(P.118) をご覧ください。
- ・ オプション機器の取り付けを確認する
オプション機器の拡張カードやメモリなどを取り付けているときは、それらが正しく取り付けられているかを確認してください。また、IRQ (割り込み要求) (P.141) が正しく設定されているかも確認してください。このとき、オプション機器のマニュアルもあわせてご覧ください。

上記の方法で対処してもメッセージが表示される場合、または次の「メッセージ一覧」に当てはまるメッセージがない場合は、本パソコンが故障している可能性があります。弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。

メッセージ一覧

次のメッセージが表示されると、本パソコンが停止します。指示に従って対処してください。

1. メモリーエラーです。XXXX:YYYY:ZZZzh(R:xxxxh,W:yyyyh)
Memory Error at XXXX:YYYY:ZZZzh(R:xxxxh,W:yyyyh)
本パソコンの電源を切り、メモリが正しく取り付けられているか確認してください。正しく取り付けられているときは、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
2. キーボードエラーです。または、キーボードが接続されていません。
Keyboard Error or Not Connected
本パソコンの電源を切り、キーボードが正しく接続されているか確認してください。正しく取り付けられているときは、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
3. 装置の設定エラーです。
Equipment Configuration Error
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
4. フロッピーディスクコントローラのエラーです。
Floppy Disk Controller Error
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
5. フロッピーディスク A のエラーです。
Floppy Drive A Error
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
6. IDE プライマリマスターのエラーです。
IDE Primary Channel Master Drive Error
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。

アドバイス

電源を切るときは

電源スイッチを 4 秒以上押し続けて、本パソコンの電源を切ってください。電源ランプがオレンジ色に点灯しているときは、もう一度電源スイッチを 4 秒以上押し続けて、本パソコンの電源を切ってください。

その後、必ず本パソコンの電源ランプが消えていることを確認してください。

7. IDE セカンダリマスターのエラーです。
IDE Secondary Channel Master Drive Error
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
8. CPU BIOS 更新コードが不一致です。
CPU BIOS Update Code Mismatch
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
9. CPU クロックが不一致です。
CPU Clock Mismatch
[F2] を押して BIOS セットアップを起動し、「ご購入時の設定に戻す」(←P.118) の操作を行ってください。
それでも本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
10. リアルタイムクロックのエラーです。
Real Time Clock Error
[F2] を押して BIOS セットアップを起動し、「ご購入時の設定に戻す」(←P.118) の操作を行ってください。
それでも本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
11. CMOS バッテリーが損傷しています。
システム CMOS のチェックサムが正しくありません。
CMOS Battery Bad
CMOS Checksum Error
[F2] を押して BIOS セットアップを起動し、「ご購入時の設定に戻す」(←P.118) の操作を行ってください。
それでも本メッセージが表示される場合は、バッテリーの交換が必要です。弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
12. I/O アドレスが競合しています。
I/O Resource Conflict(s)
[F2] を押して BIOS セットアップを起動し、「PnP/PCI」メニューで「リソース (ESCD) の初期化」を「はい」に設定して、本パソコンを再起動してください。
それでも本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
13. メモリのリソースが競合しています。
Memory Resource Conflict(s)
[F2] を押して BIOS セットアップを起動し、「PnP/PCI」メニューで「リソース (ESCD) の初期化」を「はい」に設定して、本パソコンを再起動してください。
それでも本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
14. IRQ 設定のエラーです。
IRQ Setting Error
[F2] を押して BIOS セットアップを起動し、「PnP/PCI」メニューで「リソース (ESCD) の初期化」を「はい」に設定して、本パソコンを再起動してください。
それでも本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。

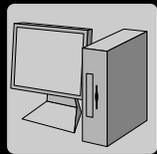
15. 拡張 ROM の割り当てに失敗しました。
Expansion ROM Allocation Failed
本パソコンの電源を切り、増設した拡張カードが正しく取り付けられているか確認し、もう一度本パソコンの電源を入れてください。
それでも本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
16. シリアルポート 1 のリソースが競合しています。
Onboard Serial Port 1 Conflict(s)
増設した拡張カードと本パソコンのシリアルポート1のリソースが競合しています。
増設した拡張カードのリソースを変更するか、**[F2]**を押して BIOS セットアップを起動し、「内蔵デバイス」メニューで「シリアルポート」のリソースを変更してください。
17. パラレルポートのリソースが競合しています。
Onboard Parallel Port Conflict(s)
増設した拡張カードと本パソコンのパラレルポートのリソースが競合しています。
増設した拡張カードのリソースを変更するか、**[F2]**を押して BIOS セットアップを起動し、「内蔵デバイス」メニューで「パラレルポート」のリソースを変更してください。
18. システムディスクをセットし、<Enter> キーを押してください。
Insert system diskette and press Enter key to reboot
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
19. PS/2 キーボードのエラーです。
PS/2 Keyboard Interface Error
本パソコンの電源を切り、PS/2キーボードが正しく接続されているか確認してください。
正しく取り付けられているときは、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
20. PS/2 マウスのエラーです。
PS/2 Pointing Device Error
本パソコンの電源を切り、PS/2マウスが正しく接続されているか確認してください。
正しく取り付けられているときは、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
21. PS/2 マウスのエラーです。
PS/2 Pointing Device Interface Error
本パソコンの電源を切り、PS/2マウスが正しく接続されているか確認してください。
正しく取り付けられているときは、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
22. Invalid system disk
Replace the disk, and then press any key
フロッピーディスクドライブに、システム以外のフロッピーディスクをセットしたまま電源を入れる则表示されます。
フロッピーディスクを取り出して、何かキーを押してください。

第 6 章

技術情報

本パソコンの仕様や、ドライバのインストール、注意事項などについて説明しています。

1. 仕様一覧	132
2. 本パソコンのリソースについて	141
3. ドライバのインストール	145
4. その他の注意事項	154



1

仕様一覧

パソコン本体

アドバイス

C/50L, C/45L, C/457 をお使いの方は

お使いのモデルによって、ハードディスク容量が異なります。(1)

Office 2000 Personalモデル : 13GB

Wordモデル, OASYSモデル : 8.4GB

一太郎モデル (型名末尾が 4) : 13GB

一太郎モデル (型名末尾が 1) : 8.4GB

型名は保証書でご確認ください。

製品名称	FMV DESKPOWER C/50L	FMV DESKPOWER C/45L, C/457	FMV DESKPOWER C/40L, C/407, C/405
CPU	Pentium® processor 500MHz	Pentium® processor 450MHz	Celeron™ processor 400MHz
キャッシュメモリ	L1 32KB + L2 512KB		L1 32KB + L2 128KB
BIOS ROM	512KB (フラッシュROM)		256KB (フラッシュROM)
システムRAM	標準 64MB (SDRAM) ECCなし		
	最大 256MB		
システムバスクロック	100MHz		66MHz
フロッピーディスク	3.5 インチ × 1 (3モード対応) スリムタイプ		
ハードディスク	8.4GB (Cドライブ3.5GB、Dドライブ4.9GB) または 13GB (Cドライブ3.5GB、Dドライブ9.5GB) 1		8.4GB (Cドライブ3.5GB、Dドライブ4.9GB)
CD-ROM	最大 24 倍速スリムタイプ		
グラフィック	ATI社製 RAGE™ LT PRO (SDRAM : 8MB)		
ディスプレイ	C/50L, C/45L, C/40L : 15 インチ LCD (DDC対応、USBハブ/スピーカー内蔵) C/457, C/407 : 17 インチフラットCRT (DDC対応) C/405 : 15 インチCRT (DDC対応)		
オーディオ機能	Crystal社製 CS4614 + CS4297 (AC97)		
I/F	ディスプレイ	アナログ : D-SUB 15pin デジタル : デジタルディスプレイ (DFP準拠) 20pin	
	PS/2ポート	Mini-DIN 6pin (キーボード用 × 1、マウス用 × 1)	
	シリアルポート	非同期 RS-232C × 1 D-SUB 9pin	
	パラレルポート	セントロニクス準拠/ECP/EPP対応 D-SUB 25pin	
	USB	USBコネクタ 4pin × 2 (前面 × 1、背面 × 1)	
	サウンド	マイク入力 (専用マイク用) × 1、LINE入力 × 1、ヘッドホン端子 × 1、LINE出力 × 1、スピーカー出力 × 1、MIDI/JOYSTICK端子 × 1	
	FAX / ボイスモデム	モジュラージャック × 2 (LINE × 1、PHONE × 1) DATA56Kbps (受信) 33.6Kbps (送信) / FAX 14.4Kbps	
拡張スロット数	PCI × 2 (ハーフ、うち1つにFAX / ボイスモデムカードを標準搭載)		
電源 / 周波数	AC100V 50/60Hz		
消費電力	約 34W (最大 75W)		
重量	約 7Kg (フット除く)		
外形寸法	88mm × 333mm × 309mm (W × D × H)(フット除く)		
使用環境	温度 10 ~ 35 湿度 20 ~ 80% (RH)		
省エネ法に基づくエネルギー消費効率	約 22W	約 22W	約 25W
対応OS	Windows98、WindowsNT4.0 SP4 2		

本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

2 WindowsNT4.0 をお使いになるときは、インターネット富士通パソコン情報ページ「FM WORLD」(<http://www.fmworld.ne.jp/support/hikken/index.html>)をご覧ください。

FAX / ボイスモデムカード

C/50L, C/45L, C/457 標準搭載

品名	FAX / ボイスモデムカード-56000 (全二重)
型名	FMV-FX53Z6
通信方式	2 線式 全二重 (FAX モードでは 2 線式 半二重)
通信規格	K56flex™, ITU-T V.90/V.34/V.32bis/V.32/V.22bis/V.22/V.21/Bell212A,103 (データモード) ITU-T V.17/V.29/V.27ter (FAX モード)
通信速度	データモード : 56000,54667,54000,53333, (受信時) 52000,50667,50000,49333, 48000,46667,46000,45333, 44000,42667,42000,41333, 40000,38667,38000,37333, 36000,34667,34000,33333, 32000,30667,29333,28000bps データモード : 33600,31200,28800,26400, (送受信) 24000,21600,19200,16800, 14400,12000,9600,7200,4800, 2400,1200bps FAX モード : 14000,12000,9600,7200,4800, 2400bps
同期方式	調歩同期
データ転送 プロトコル	MNP class 4/5 ITU-T V.42/V.42bis
コマンド	V.25 ter (AT コマンド)
バスインターフェース	PCI
FAXインターフェース	TIA/EIA578 (class1)
音声蓄積機能	AD PCM
寸法	長さ 165 mm × 幅 120 mm × 高さ 22 mm
直流抵抗値	256
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自動速度検出 ・ 発信音、呼び出し音、話し中音、無音、ダイヤル音、音声などの回線接続の進行状況を示す応答音の検出 ・ 記憶した電話番号による自動ダイヤルおよび再ダイヤル ・ トーン式 / パルス式ダイヤルの選択

- ・ K56flex は Rockwell International 社、Lucent Technologies 社が提唱している通信規格です。
- ・ V.90 および K56flex での接続においては、接続先のプロバイダなどが同規格に対応している必要があります。
- ・ 56000bps は V.90 および K56flex の理論上の最高速度であり、実際の通信速度は回線状況により変化します。V.90 による 33600bps (K56flex は 31200bps) を超える通信速度は受信時のみで、V.90 送信時は 33600bps (K56flex は 31200bps) が最高速度になります。
日本国内の一般公衆回線、あるいは構内交換機経由での通信においては、同規格での通信が行えない場合があります。
- ・ MS-DOS モードおよび Windows98 の MS-DOS プロンプトではお使いになれません。
- ・ 本モデムはヘッドセットをサポートしていません。
- ・ 300bps での通信は行えません。

C/40L, C/407, C/405 標準搭載

品名	FAX / ボイスモデムカード -56000 (全二重)
型名	FMV-FX52Z1
通信方式	2線式 全二重 (FAX モードでは2線式 半二重)
通信規格	K56flex™.ITU-T V.90/V.34/V.32bis/V.32/V.22bis/V.22/V.21/Bell212A,103 (データモード) ITU-T V.17/V.29/V.27ter (FAX モード)
通信速度	データモード : 56000,54667,54000,53333, (受信時) 52000,50667,50000,49333, 48000,46667,46000,45333, 44000,42667,42000,41333, 40000,38667,38000,37333, 36000,34667,34000,33333, 32000,30667,29333,28000bps データモード : 33600,31200,28800,26400, (送受信) 24000,21600,19200,16800, 14400,12000,9600,7200,4800, 2400,1200bps FAX モード : 14000,12000,9600,7200,4800, 2400bps
同期方式	調歩同期
データ転送 プロトコル	MNP class 4/5 ITU-T V.42/V.42bis
バスインターフェース	PCI
FAXインターフェース	TIA/EIA578 (class1)
音声蓄積機能	PCM
寸法	長さ 135 mm × 幅 120 mm × 高さ 22 mm
直流抵抗値	262
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自動速度検出 ・ 発信音、呼び出し音、話し中音、無音、ダイヤル音、音声などの回線接続の進行状況を示す応答音の検出 ・ スピーカーフォン機能は未対応

- ・ K56flex は Rockwell International 社、Lucent Technologies 社が提唱している通信規格です。
- ・ V.90 および K56flex での接続においては、接続先のプロバイダなどが同規格に対応していることが必要です。
- ・ 56000bps は V.90 および K56flex の理論上の最高速度であり、実際の通信速度は回線状況により変化します。V.90 による 33600bps (K56flex は 31200bps) を超える通信速度は受信時のみで、V.90 送信時は 33600bps (K56flex は 31200bps) が最高速度になります。
日本国内の一般公衆回線、あるいは構内交換機経由での通信においては、同規格での通信が行えない場合があります。
- ・ MS-DOS モードおよび Windows98 の MS-DOS プロンプトではお使いになれません。
- ・ 本モデムはヘッドセットをサポートしておりません。
- ・ 本モデムに搭載されておりますスピーカーでは、ダイヤルパルス音を聞くことができません。
- ・ 300bps での通信は行えません。

サウンド機能

チップセット	Crystal 社製 CS4614 + CS4297 (AC97)
録音再生機能	サンプリング周波数 5kHz ~ 48kHz 16bit Stereo 最大 96 個同時再生可能 同時録音再生動作可能
MIDI 機能	Wavetable Synthesizer (最大 64 音) GM 音源
その他	サウンドアクセラレーション機能
ゲームポート	MPU-401 互換 MIDI I/F Game Port I/F
リソース	IRQ : 1つ使用

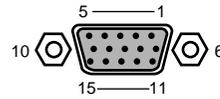
スピーカー (C/457, C/407, C/405 添付)

方式	開放平面型分布振動方式スピーカー
機能	VOLUME (音量調整)
スピーカーユニット	パネルスピーカーユニット
アンプ回路	1.1W/ch インピーダンス : 10k
再生周波数	200Hz ~ 18kHz
外形寸法	100 × 78.7 × 185 (mm)
重量	約 0.8Kg (AC アダプタを含む)

コネクタのピン配列と信号名

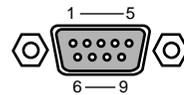
各コネクタのピンの配列および信号名は次のとおりです。

ディスプレイコネクタ



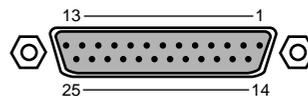
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	-	未接続
5~8	GND	-	グランド
9	+5V	-	電源
10	GND	-	グランド
11	NC	-	未接続
12	SDA	入出力	データ
13	HSYNC	出力	水平同期信号
14	VSYNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	データクロック

シリアルコネクタ



ピンNo.	信号名	方向	内容
1	CD	入力	キャリア検出
2	RD	入力	受信データ
3	TD	出力	送信データ
4	DTR	出力	データ端末レディ
5	GND	-	グランド
6	DSR	入力	データセットレディ
7	RTS	出力	送信要求
8	CTS	入力	送信可
9	RI	入力	リングインジケート

パラレルコネクタ



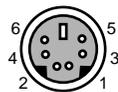
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	STROBE	入出力	ストローブ
2	DATA0	入出力	データ0
3	DATA1	入出力	データ1
4	DATA2	入出力	データ2
5	DATA3	入出力	データ3
6	DATA4	入出力	データ4
7	DATA5	入出力	データ5
8	DATA6	入出力	データ6
9	DATA7	入出力	データ7
10	ACK	入力	アクノリッジ
11	BUSY	入力	ビジー
12	PE	入力	用紙切れ
13	SELECT	入力	セレクト
14	AUTOFD	出力	自動送り
15	ERROR	入力	エラー
16	INIT	出力	初期化
17	SLCTIN	出力	セレクト
18~25	GND	-	グラウンド

マウスコネクタ



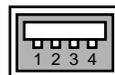
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	DATA	入出力	データ
2	NC	-	未接続
3	GND	-	グラウンド
4	VCC	-	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	-	未接続

キーボードコネクタ



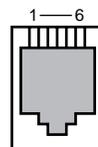
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	DATA	入出力	データ
2	NC	-	未接続
3	GND	-	グラウンド
4	VCC	-	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	-	未接続

USB コネクタ



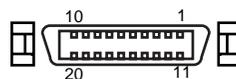
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	VCC	-	ケーブル・電源
2	- DATA	入出力	- データ信号
3	+ DATA	入出力	+ データ信号
4	GND	-	ケーブル・グラウンド

LINE 端子 (モデム)



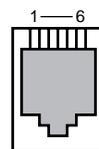
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	NC	-	未接続
2	-	-	PHONE端子の5ピンと接続
3	LINE	入出力	公衆回線に接続
4	LINE	入出力	公衆回線に接続
5	-	-	PHONE端子の2ピンと接続
6	NC	-	未接続

デジタルディスプレイコネクタ



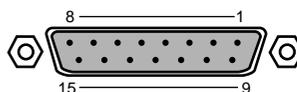
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	TX1 +	出力	+ データ・緑出力
2	TX1 -	出力	- データ・緑出力
3	GND	-	ケーブル・グラウンド
4	GND	-	ケーブル・グラウンド
5	TXC +	出力	+ クロック
6	TXC -	出力	- クロック
7	GND	-	グラウンド
8	+ 5V	-	電源
9	NC	-	未接続
10	NC	-	未接続
11	TX2 +	出力	+ データ・赤出力
12	TX2 -	出力	- データ・赤出力
13	GND	-	ケーブル・グラウンド
14	GND	-	ケーブル・グラウンド
15	TX0 +	出力	+ データ・青出力
16	TX0 -	出力	- データ・青出力
17	NC	-	未接続
18	NC	-	未接続
19	SDA	入出力	データ
20	SCL	入出力	データクロック

PHONE 端子 (モデム)



ピンNo.	信号名	方向	内容
1	NC	-	未接続
2	-	-	LINE端子の5ピンと接続
3	TEL	入出力	電話機に接続
4	TEL	入出力	電話機に接続
5	-	-	LINE端子の2ピンと接続
6	NC	-	未接続

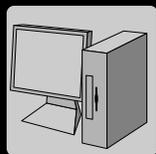
MIDI/JOYSTICK 端子



ピンNo.	信号名	方向	内容
1	+ 5V	-	電源
2	JOYF0	入力	ジョイスティックAボタン1
3	JRC0	入力	ジョイスティックA X座標
4	GND	-	グランド
5	GND	-	グランド
6	JRC1	入力	ジョイスティックA Y座標
7	JOYF1	入力	ジョイスティックAボタン2
8	+ 5V	-	電源
9	+ 5V	-	電源
10	JOYF2	入力	ジョイスティックBボタン1
11	JRC2	入力	ジョイスティックB X座標
12	MIDIOUT	出力	MIDI出力
13	JRC3	入力	ジョイスティックB Y座標
14	JOYF3	入力	ジョイスティックBボタン2
15	MIDIIN	入力	MIDI入力

本体のコネクタ / ジャックで利用できるケーブル

パラレルコネクタ	D-SUB25 ピンコネクタ付きケーブル
シリアルコネクタ	D-SUB9 ピンコネクタ付きケーブル
USB コネクタ	USB ケーブル
MIDI/JOYSTICK 端子	D-SUB15 ピンコネクタ付きケーブル
LINE/PHONE 端子	モジュラーケーブル
SPK OUT/LINE OUT/LINE IN 端子	ミニプラグ (ステレオ) ケーブル
MIC IN 端子	ミニプラグ (モノラル) ケーブル
ヘッドホン端子	ミニプラグ (ステレオ) ケーブル



2

本パソコンのリソースについて

本パソコンの IRQ (割り込み要求) DRQ (DMA 要求) I/O ポートアドレスを、どのハードウェアが使っているかの一覧と、リソース (IRQ、DRQ) の解放のしかたを説明しています。

リソース一覧

 **アドバイス**

リソースの値は変更されることがあります

ここに記載しているリソースの値は、ご購入時のものです。拡張カードなどのオプション機器を増設すると、値が変更されることがあります。

現在のリソースを確認するには

拡張カードなどのオプション機器を増設すると、リソースの値が変更されることがあります。現在のリソースは、以下の手順で確認できます。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (システム) をクリックします。
- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 4 「コンピュータ」が反転表示されていることを確認し、「プロパティ」をクリックします。
- 5 「リソースの表示」タブで、リソースの種類をクリックします。リソースの値の一覧が表示されます。

ご購入時の本パソコンの IRQ、DRQ、I/O ポートアドレスは、次のように設定されています。

IRQ (割り込み要求)

お使いの機種により若干異なります。

IRQ (割り込み要求)	使っているハードウェア
0	システムタイマ
1	キーボード
2	スレーブ割り込みコントローラ
3	空き
4	シリアルポート (COM1)
5	空き (C/50L, C/45L, C/457) サウンド (C/40L, C/407, C/405)
6	フロッピーディスクドライブ
7	パラレルポート
8	リアルタイムクロック
9	サウンド、USB、ACPI (C/50L, C/45L, C/457) ACPI (C/40L, C/407, C/405)
10	空き (C/50L, C/45L, C/457) USB (C/40L, C/407, C/405)
11	内蔵 FAX / ボイスモデム (COM2)
12	マウス
13	浮動小数点コプロセッサ
14	ハードディスク
15	CD-ROM ドライブ

DRQ (DMA 要求)

DRQ (DMA 要求)	使っているハードウェア
0	空き
1	空き
2	フロッピーディスクコントローラ
3	空き
4	DMA コントローラ
5	空き
6	空き
7	空き

I/O ポートアドレス

I/O ポートアドレス	使っているハードウェア
200H ~ 207H	サウンド
2F8H ~ 2FFH	内蔵 FAX / ボイスモデム (COM2)
378H ~ 37FH	パラレルポート
3F8H ~ 3FFH	シリアルポート (COM1)



コラム

リソース、IRQ、DRQ、I/O ポートアドレスとは

リソース

本パソコンの各周辺機器 (キーボード、マウスなど) や、拡張カードなどに割り当てられている IRQ、DRQ、I/O ポートアドレスなどを総称して「リソース」と呼んでいます。これらのリソースには識別のための番号が割り当てられます。

IRQ (割り込み要求 : Interrupt Request)

周辺装置が要求する処理はすべて CPU が行いますが、CPU はどの装置からいつ「こういう処理を行ってほしい」という要求が来るかを予想できません。CPU が常にすべての装置を監視していると、処理を行っている時間よりも、監視している時間のほうが長くなってしまい、非効率的です。そこで、各周辺装置や拡張カードのほうで、CPU に実行してほしいことが発生したときに、IRQ の番号を使って現在 CPU が行っている処理に「割り込み」、「自分のほうを優先してほしい」と要求します。

CPU は、どの装置から要求が来たのかを IRQ から判断して、処理を行います。それが終われば、CPU はふたたび元の処理に戻ります。

DRQ (DMA 要求 : Direct Memory Access Request)

CPU がひんぱんに使うデータやプログラムは、処理にかかる時間を短縮するためにメモリにおかれます。

DMA (Direct Memory Access) とは、それらのデータやプログラムなどをハードディスクなどの装置から読み込み、メモリに書き込む作業を CPU が行うのではなく、かわりに専用のプロセッサ (制御回路) が行うというしくみのことです。その間、CPU は他の処理を行えるために、CPU の作業効率が上がります。その専用のプロセッサのことを DMA コントローラと呼びます。

DRQ とは DMA コントローラが、どの周辺装置から DMA 要求が出されたかを認識するための番号のことです。

I/O (Input/Output) ポートアドレス

CPU と個々の周辺機器との間には、それぞれ情報をやりとりする出入り口があります。その出入り口に割り当てられる番号が「I/O ポートアドレス」です。

リソースを解放する

オプション機器をお使いになる場合には、オプション機器を取り付ける前に以下の設定が必要になることがあります。

取り付けるオプション機器が必要とするリソースが本パソコンですでに使われているときは、そのままではそのオプション機器を使えません。オプション機器を取り付ける前に、オプション機器が必要とするリソースを本パソコンで空ける必要があります。この作業を「リソースの解放」といいます。

本パソコンのリソースの使用状況について詳しくは、「リソース一覧」(←P.141)をご覧ください。

ここでは、シリアルポートまたはパラレルポートのIRQを解放する手順を例に、リソースを解放する方法を説明します。

アドバイス

拡張カードのリソースを解放するには

お客様が取り付けした拡張カードが使っているリソースを解放したいときは、拡張カードを取り外してください。そのあと、本パソコンの電源を入れると、リソースが自動的に解放されます。

用語

デバイス

パソコン本体内部の装置（メモリ、拡張カードなど）や、パソコンに接続する機器（マウス、キーボードなど）のことをデバイスと呼びます。

アドバイス

リソースを解放すると

それまでそのリソースを割り当てられていたデバイスは使えなくなります。

IRQ4を解放すると、パソコン本体背面のシリアルコネクタ（COM1）(←P.5)が使えなくなります。IRQ7を解放すると、パラレルコネクタ(←P.5)が使えなくなります。

これらのコネクタにオプション機器を接続している場合は、そのオプション機器も使えなくなります。

重要

リソースを解放したデバイスは使えません

リソースを解放すると、それまでそのリソースを割り当てられていたデバイスは、使えなくなりますのでご注意ください。

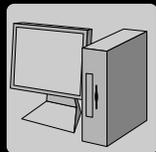
再びお使いになるときは、リソースを再設定してください。

リソースは不用意に解放しないでください

リソースは、不用意に解放すると、本パソコンが動作しなくなることがあります。「リソース一覧」(←P.141)でよくご確認のうえ、リソースを解放してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (システム) をクリックします。
- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
本パソコンのハードウェアの一覧が表示されます。
- 4 解放したいリソースを使っているデバイスをクリックして選びます。
IRQ4を解放するには「ポート（COM/LPT）」内の「通信ポート（COM1）」を選びます。
IRQ7を解放するには「ポート（COM/LPT）」内の「プリンタポート（LPT1）」を選びます。

- 5** 「プロパティ」をクリックします。
デバイスのプロパティの「情報」が表示されます。
- 6** 「デバイスの使用」の「このハードウェアプロファイルで使用不可にする」のをクリックしてにし、「OK」をクリックします。
「デバイスマネージャ」タブに戻ります。
リソースを解放したデバイスに×印が付きます。
- 7** 「閉じる」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが閉じます。
デバイスによっては、「閉じる」をクリックしたあとに、再起動するメッセージが表示されるものがあります。この場合は「はい」をクリックし、本パソコンを再起動してください。再起動したら、操作は終了です。
- 8** 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
- 9** 「再起動する」をクリックして、「OK」をクリックします。
本パソコンが再起動します。



3

ドライバのインストール

パソコンの調子が悪いとき、その原因がドライバにある場合があります。ゲームなどをインストールして、パソコンに合わないドライバに更新されてしまうと、パソコンは正しく動作しません。パソコンの状態に合わせて、ドライバを再インストールしてください。

画面が正しく表示されない場合はディスプレイドライバをインストールします。音が正しく出ない場合はサウンドドライバをインストールします。

インストールのときに気をつけること

正常にインストールを行うために、注意していただくことがいくつかあります。

アクティブデスクトップの解除

アクティブデスクトップに設定されたままインストールを行うと、正常にインストールを終了できない場合があります。インストールの前に、次の手順に従ってアクティブデスクトップの設定を解除します。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」→「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックし、チェックマークを外します。

Windows 98 の標準画面に切り替わります。

インストール終了後、改めてアクティブデスクトップに設定してください。

アプリケーションやスクリーンセーバーの終了

開いているウィンドウや、起動しているアプリケーションをすべて終了させてください。「Virus Scan」や「FM 便利ツール」など、タスクバーに常駐するタイプのアプリケーションや、スクリーンセーバーも終了させてください。

また、操作中、何度もパソコンが再起動されるので、スタートアップに登録されているアプリケーションは、そのつど終了させる必要があります。

「バージョンの競合」ウィンドウが表示された場合

インストール中に、「バージョンの競合」ウィンドウが表示されることがあります。その場合は、表示されたメッセージの内容をよくお読みになり、必ず「アプリケーション CD」に入っているファイルがインストールされるように、「はい」または「いいえ」を選んでください。

- ▶ ディスプレイドライバをインストールする場合
 - ◀ 次ページの「ディスプレイドライバをインストールする」をご覧ください。
- ▶ サウンドドライバをインストールする場合
 - ◀ 「サウンドドライバをインストールする」(P.149)をご覧ください。

アドバイス

アクティブデスクトップを解除する別の方法

デスクトップの何もないところで右クリックし、「アクティブデスクトップ」にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックしても、アクティブデスクトップを解除できます。

ディスプレイドライバをインストールする

インストールを始める前に、必ず前ページの「インストールのときに気をつけること」をご覧ください。

ディスプレイドライバのインストールは⑧「アプリケーションCD」から行います。

- 1** それまで本パソコンで行っていた作業を終了します。
必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。
- 2** 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 3**  (アプリケーションの追加と削除) をクリックします。
「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 4** 一覧の中の「ATI mach64 ディスプレイドライバ」をクリックします。
- 5** 「追加と削除」をクリックし、「ATI Uninstall」ウィンドウが表示されたら「はい」をクリックします。
- 6** さらにメッセージが表示されたら「はい」をクリックします。
本パソコンが再起動します。
- 7** ⑧「アプリケーションCD」をCD-ROM ドライブにセットします。
- 8** 「コントロールパネル」ウィンドウの  (画面) をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 9** 「設定」タブをクリックし、「詳細」をクリックします。
- 10** 「アダプタ」タブをクリックし、「変更」をクリックします。
「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 11** 「次へ」をクリックします。
「検索方法を選択してください。」というメッセージが表示されます。
- 12** 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」の  をクリックし、 にします。

- 13** 「次へ」をクリックします。
「モデル」の一覧が表示されます。
- 14** 「ディスク使用」をクリックします。
「ディスクからインストール」ウィンドウが表示されます。
- 15** 「配布ファイルのコピー元」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
- ▶ Office 2000 Personal モデルをお使いの方は
☞ e:¥update¥display¥ati¥ltpro
- eには、お客様がお使いの CD-ROM ドライブ名を入力してください。
 - ▶ 一太郎モデル / Word モデル / OASYS モデルをお使いの方は
☞ e:¥update¥display¥ati¥win98¥driver
- eには、お客様がお使いの CD-ROM ドライブ名を入力してください。
- 「デバイスの選択」ウィンドウの一覧が表示されます。
- 16** 「モデル」一覧の中の「RAGE LT PRO AGP (日本語)」をクリックします。
「RAGE LT PRO AGP (日本語)」が2つ表示される場合には、上段をクリックしてください。
- 17** 「OK」をクリックします。
「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックしてください。
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。:RAGE LT PRO AGP (日本語)」というメッセージが表示されます。
- 18** 「次へ」をクリックします。
ファイルのコピーが始まります。
「バージョンの競合」ウィンドウが表示された場合には、「いいえ」をクリックしてください。
- 19** 「RAGE LT PRO AGP (日本語) ハードウェアデバイス用に選択したドライバがインストールされました。」というメッセージが表示されたことを確認し、「完了」をクリックします。
「RAGE LT PRO AGP (日本語) のプロパティ」ウィンドウに戻ります。
「再起動しますか?」というメッセージが表示されたら、「OK」または「はい」をクリックしてください。

20 「アダプタ」タブの「リフレッシュレート」が「最適」になっていることを確認します。

なっていない場合は、「リフレッシュレート」の▼をクリックし、「最適」をクリックして、「閉じる」をクリックします。メッセージが表示されたら、「OK」または「はい」をクリックしてください。

21  「アプリケーションCD」をCD-ROMドライブから取り出します。

22 「閉じる」をクリックします。

「画面のプロパティ」ウィンドウに戻ります。

23 「閉じる」をクリックします。

「システム設定の変更」ウィンドウが表示されます。

24 「はい」をクリックします。

本パソコンが再起動します。

25 「コントロールパネル」ウィンドウの右上の  (閉じるボタン) をクリックします。

「コントロールパネル」ウィンドウが閉じます。

アドバイス

画面の設定を変更するには

解像度や発色数などの画面の設定を変更するには、「画面の解像度や発色数を変える」(←P.38)をご覧ください。

「モニターを設定してください」というメッセージが表示されたときは

「はい」をクリックします。モニターの設定について詳しくは、 『トラブル解決Q & A』の「画面が乱れる」をご覧ください。

アクティブデスクトップに設定してください

ご購入時の状態に戻すには、このあと、次の手順に従ってアクティブデスクトップに設定してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックし、チェックマークを付けます。
アクティブデスクトップに切り替わります。

ディスプレイドライバはバージョンアップされることがあります

最新版のドライバは、パソコン通信やインターネットなどのオンライン情報サービスにてご案内します。

- NIFTY SERVE 富士通 FM シリーズ情報「FM INFO」
(GO INFO でアクセスできます)
- インターネット富士通パソコン情報ページ「FM WORLD」
(<http://www.fmworld.ne.jp>)

サウンドドライバをインストールする

インストールを始める前に、必ず「インストールのときに気をつけること」(P.145)をご覧ください。

サウンドドライバのインストールは、「アプリケーション CD」から行います。

- 1** **それまで本パソコンで行っていた作業を終了します。**
必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。
- 2** 「アプリケーション CD」を CD-ROM ドライブにセットします。
- 3** 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 4**  (アプリケーションの追加と削除) をクリックします。
「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 5** 「インストール」をクリックします。
「フロッピーディスクまたは CD-ROM からのインストール」ウィンドウが表示されます。
- 6** 「次へ」をクリックします。
しばらくすると、「インストールプログラムの実行」ウィンドウが表示されます。
- 7** 「インストールプログラムのコマンドライン」に次のファイル名を入力し、「完了」をクリックします。
`e:¥cs4614¥setup.exe`
- e には、お客様がお使いの CD-ROM ドライブ名を入力してください。
「Crystal ドライバ インストール / 削除」ウィンドウが表示されます。
- 8** 「インストール」をクリックします。
しばらくすると、「インストレーション終了」というメッセージが表示されます。
- 9** 「再起動」をクリックします。
本パソコンが再起動されます。
「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示され、「次の新しいドライバを検索しています : PCI Multimedia Audio Device」というメッセージが表示されます。

- 10** 「次へ」をクリックします。
「検索方法を選択してください。」というメッセージが表示されます。
- 11** 「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する(推奨)」が  になっていることを確認し、「次へ」をクリックします。
- 12** 「検索場所の指定」の をクリックして にし、次のフォルダ名を入力します。
e:¥cs4614
- eには、お客様がお使いのCD-ROMドライブ名を入力してください。
- 13** 「フロッピーディスクドライブ」と「CD-ROMドライブ」が になっていることを確認します。
 になっている場合は、 をクリックし にしてください。
- 14** 「次へ」をクリックします。
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。 : Crystal SoundFusion(tm) PCI オーディオアクセラレータ」というメッセージが表示されます。
- 15** 「次へ」をクリックします。
ファイルがコピーされ、「Crystal SoundFusion(tm) PCI オーディオアクセラレータ 新しいハードウェアデバイスに必要なソフトウェアがインストールされました。」というメッセージが表示されます。
- 16** 「完了」をクリックします。
しばらくすると「Crystal SoundFusion(tm) ジョイスティック」、および「Crystal SoundFusion(tm) 仮想 MPU-401」がインストールされます。

アドバイス

Windows98 の CD-ROM を要求するメッセージが表示されたときは

「OK」をクリックします。

表示されたウィンドウの「ファイルのコピー元」に c:¥windows¥options¥cabs と入力し、「OK」をクリックしてください。

「再起動しますか?」と表示された場合は、「はい」をクリックし、本パソコンを再起動してください。

Crystal SoundFusion(tm) ディスクを要求するメッセージが表示されたときは

「OK」をクリックします。

表示されたウィンドウの「ファイルのコピー元」に次のフォルダ名を入力し、「OK」をクリックしてください。

e:¥crystal¥win9x

- eには、お客様がお使いのCD-ROMドライブ名を入力してください。

「ファイルが見つかりません。」というメッセージが表示された場合は、次のいずれかのフォルダ名を入力し、「OK」をクリックしてください。

c:¥windows¥options¥cabs または c:¥windows¥system

17 「コントロールパネル」ウィンドウの  (システム) をクリックします。

18 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。

19 「サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ」の  をクリックします。
一覧が表示されます。

アドバイス

「!」や「x」が表示されていたり、画面例のように表示されていない場合は、手順4 (P.149) からやり直してください。それでも「!」や「x」が表示されている場合は、弊社パーソナルエコーセンターにご相談ください。

「!」や「x」が表示されていたり、画面例のように表示されていない場合は、手順4 (P.149) からやり直してください。それでも「!」や「x」が表示されている場合は、弊社パーソナルエコーセンターにご相談ください。

このように表示されることを確認します。



20 「OK」をクリックします。

次に、MIDI の設定を行います。

21 「コントロールパネル」ウィンドウの  (マルチメディア) をクリックします。

「マルチメディアのプロパティ」ウィンドウが表示され、「オーディオ」タブが前面に表示されます。

22 「再生」・「録音」の「優先するデバイス」が「Crystal SoundFusion (tm)」になっていることを確認します。

なっていない場合は、右側の▼をクリックし、「Crystal SoundFusion (tm)」をクリックします。



23 「MIDI」タブをクリックします。

24 「単一の機器」が「Crystal SoundFusion (tm)」になっていることを確認し、「OK」をクリックします。

なっていない場合は、一覧から「Crystal SoundFusion (tm)」をクリックします。



25 「コントロールパネル」ウィンドウの S^oF (SoundFusion (tm)) をクリックします。

「Crystal SoundFusion (tm)のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

- 26** 「3Dステレオ・エンハンスメント」の「使用する」がになっていることを確認します。
になっている場合は、をクリックしにしてください。
- 27** 「SoundFusion(tm)DSound」の「DSound アクセラレーションを使用する。」のをクリックし、にします。
- 28** 「タスクバー」の「SoundFusion(tm)コントロールをタスクバーに表示する。」がになっていることを確認します。
になっている場合は、をクリックしにしてください。
- 29** 「OK」をクリックします。
- 30** 「コントロールパネル」ウィンドウの右上にある **X**（閉じるボタン）をクリックします。
- 31**  「アプリケーションCD」をCD-ROMドライブから取り出します。
- 32** 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
- 33** 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。
本パソコンが再起動します。

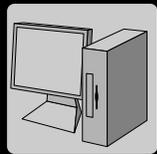


アドバイス

アクティブデスクトップに設定してください

ご購入時の状態に戻すには、このあと、次の手順に従ってアクティブデスクトップに設定してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックし、チェックマークを付けます。
アクティブデスクトップに切り替わります。



4

その他の注意事項

インテル® プロセッサ シリアル ナンバ コントロール ユーティリティについて (C/50L, C/45L, C/457 をお使いの方)

インテル プロセッサ ・ シリアル ・ ナンバ

インテル® Pentium® プロセッサに組み込まれた電氣的に読み取り可能なシリアル番号で、ウェブ上でのセキュリティ向上や情報管理・資産管理などに利用することができます。

プロセッサ・シリアル・ナンバはソフトウェア アプリケーションを使用して読み取りが可能です。また、インテル プロセッサ シリアル ナンバ コントロール ユーティリティまたはBIOSセットアップ(←P.91)を使用して読み取り機能の「有効」/「無効」を設定することができます。

インテル プロセッサ シリアル ナンバ コントロール ユーティリティ

本パソコンにはインテル プロセッサ シリアル ナンバ コントロール ユーティリティがあらかじめインストールされています。

このユーティリティを使用して、プロセッサ・シリアル・ナンバの確認と読み取り機能の設定を Windows98 上から行うことができます。

本パソコンのご購入時には「無効」に設定されており、タスクバーのアイコン表示はになっています。

プロセッサ・シリアル・ナンバの読み取り機能を有効にするには

- 1** タスクバーのを右クリックし、「設定」をクリックします。
- 2** 「有効」のチェックボタンを選び「OK」をクリックします。
- 3** 「Windows の再起動」をクリックします。
本パソコンが再起動します。
- 4** タスクバーにと表示され、プロセッサ・シリアル・ナンバの読み取り機能が有効になります。

プロセッサ・シリアル・ナンバを見るには

本パソコンのプロセッサ・シリアル・ナンバを見るには、タスクバーのを右クリックし、「ステータス」をクリックしてください。

注意事項

BIOS セットアップについて

BIOSセットアップ(←P.91)の「詳細」メニュー内の「CPU設定」でもプロセッサ・シリアル・ナンバの読み取り機能の設定をすることができます。「プロセッサシリアルナンバー」を「使用しない」に設定した場合は、プロセッサ シリアル ナンバ コントロール ユーティリティで読み取り機能を有効に設定できません。

プロセッサ・シリアル・ナンバについての詳細情報

プロセッサ・シリアル・ナンバおよびプロセッサ シリアル ナンバ コントロール ユーティリティの詳細については、<http://www.intel.com/jp/pentiumiii> を参照してください。

インテル プロセッサ シリアル ナンバ コントロール ユーティリティは、弊社より特に指示がない場合、本パソコンに添付されているものを使用してください。

液晶ディスプレイの特性(C/50L, C/45L, C/40Lをお使いの方)

TFT 液晶ディスプレイは高度な技術を駆使し、一画面上に235万個以上（解像度1024 × 768の場合）の画素（ドット）より作られております。このため、画面上の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合がありますが、これらは故障ではありませんので、予めご了承ください。

液晶ディスプレイの廃棄(C/50L, C/45L, C/40Lをお使いの方)

液晶ディスプレイ内の蛍光管の中には水銀が含まれています。本パソコンの廃棄にあたっては、地方自治体の条例または規則に従ってください。

PS/2 マウスの表示

本パソコンでは本体背面のマウスコネクタ（PS/2 互換マウスポート）（←P.5）にマウスが接続されていないため、次の2ヵ所エラーのメッセージが表示されます。故障ではありませんので、お使いになるうえで問題はありません。

- ・「システムのプロパティ」ウィンドウの「デバイスマネージャ」タブで、「PS/2 互換マウスポート」に「！」マークが表示されます。
- ・システム情報の「問題のあるデバイス」に「PS/2 互換マウスポート」と表示されます。

モデムについて

内蔵モデムに電話回線を接続するときの注意



近くで雷が起きたときは、パソコン本体の電源プラグをコンセントから、モジュラーケーブルをモジュラージャックから抜いてください。そのまま使用すると、雷によっては本パソコンを破壊し、火災の原因となります。



モジュラージャックやモジュラーコネクタに指などを入れないでください。感電の原因となることがあります。

- ・モデムが使用可能な回線
本モデムは、接続する電話回線がNTTの一般公衆電話回線の電気的な仕様と同じでないと正常に動作しません。
- ・ホームテレホン、ビジネスホンなどには接続できません
本モデムが接続できる回線は、一般のNTT公衆電話回線のみです。ホームテレホン、ビジネスホン、キーテレホン、ボタン電話などは、NTTの電話回線と電気的な仕様が異なるため接続できません。接続前に電話装置メーカーや保守業者にお問い合わせください。
- ・デジタル回線に接続する場合
本モデムはデジタル網（ISDN等）やデジタル構内交換網（デジタルPBX）の回線に直接接続することはできません。モデムカードが故障する恐れがありますので、ターミナルアダプタ等を経由して、アナログポートに接続してご使用ください。
- ・PBXに接続する場合
PBXに接続される通信回線の仕様がNTTの電話回線と電気的な仕様が異なる場合、本モデムが使用できない場合があります。例えば、呼出信号の電圧や周期、ダイヤルトーンの条件などについてはNTT回線の仕様に準拠しています。接続する前に、使用されているPBXの製造メーカーや保守業者にお問い合わせください。
ただし、「0」発信によって外線に接続するPBX内線電話の場合、ご使用のアプリケーションの設定で初期化コマンドにATX3を追加するか、または発信音をチェックしない設定をすることで、発信できることがあります。
- ・キャッチホン1契約をしている場合
キャッチホン1契約をしている場合は、パソコン通信やFAX送受信中に他から電話がかかると、回線が一時的に切断されます。その際、通信データが壊れたり、送受信が中止されたりすることがあります。キャッチホン2に変更するか、または同一の回線ではご使用にならないでください。
- ・FAX受信時の注意
自分側からダイヤルした場合、またはハンドセットで通話している間は、相手側からのFAXを受信できません。
- ・通信アプリケーションご使用時の注意
通信アプリケーションでデータのアップロード/ダウンロードを行う際には、パソコンがスタンバイ状態にならないように設定してください。アップロード/ダウンロードの途中でスタンバイ状態になると、データ転送が中断することがあります。
- ・電源ケーブル等は離してご使用ください
電源ケーブル等は、ノイズを発生して電話回線に影響をおよぼす場合があります。モデムをご使用になる際は、これらのノイズ源と回線に影響のない程度に離してご使用ください。
- ・他のモデムを接続しないでください
他の外付けモデム、または電話機付きのモデムなどが、本モデムの「TEL」端子に接続されている場合は取り外してください。

- ・分岐アダプタを使用してインターネットやパソコン通信をしているときの注意
通信中は電話機の受話器を外さないようにしてください。受話器が外れると、通信の妨害となり、通信が中断されることがあります。
分岐アダプタを使用する場合は、なるべく2分岐以内にしてご使用ください。
- ・モジュラーケーブルの長さが足りないとき
添付のモジュラーケーブルで長さが足りないときは、十分な長さの市販品をお買い求めください。

認定番号の表示

本モデムの技術基準適合認定番号は、モジュラージャック差込み口の横に表記されています。



APM について

本パソコンでは、省電力機能として、ACPI (Advanced Configuration and Power Interface) 機能と APM (Advanced Power Management) 機能のどちらかを選んでお使いになれます。ご購入時の設定は ACPI 機能です。

重要

ハードディスクをご購入時の状態に戻してください

Windows 98 の APM 機能に設定を変更するには、パソコンをご購入時の状態に戻す必要があります。ハードディスク (C ドライブ) 内のファイルはすべて消えることになるため、お客様が作成したデータなどの大切なファイルは、事前にフロッピーディスクなどにコピーして保存してください。

また、ご購入後にインストールされたアプリケーションは、もう一度インストールし直す必要があります。

ACPI 機能に戻すときには

再度ハードディスクをご購入時の状態に戻す必要があります。

ACPI 機能へ設定を戻すには、『 トラブル解決 Q&A』をご覧ください。ご購入時の状態に戻してから設定を変更してください。

Windows98 の APM 機能を設定する

必要なものを用意する

APM の設定には、以下のものがが必要です。

-  『トラブル解決 Q&A』
-  『取扱説明書』
-  『リカバリ CD-ROM 起動ディスク』
-  『リカバリ CD-ROM』(1/2)(2/2)
-  『アプリケーション CD』

APM 切り替えプログラムを使う

いったん APM 機能に切り替えると、ACPI 機能に戻すには、増設したオプション機器(拡張カードやプリンタ、スキャナなど)を取り外し、作成したデータを保存して、再度ハードディスク(Cドライブ)をご購入時の状態に戻す必要があります。前述の注意事項を再度確認の上、内容にご同意いただける場合のみ、以下の操作を行ってください。

1 『トラブル解決 Q&A』、 『取扱説明書』 をご覧になり、本パソコンをご購入時の状態に戻します。

ご購入後に増設されたオプション機器(拡張カード類やプリンタ、スキャナなど)はすべて取り外してください。これらのオプション機器は、すべての作業が終了するまで取り付けないでください。

また、ご購入後に作成したデータ、インストールしたアプリケーションなどは、すべて削除されます。必要なデータは、あらかじめフロッピーディスクなどに保存しておいてください。

2 本パソコンの電源を入れます。

3 『アプリケーション CD』 を CD-ROM ドライブにセットします。

4 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。

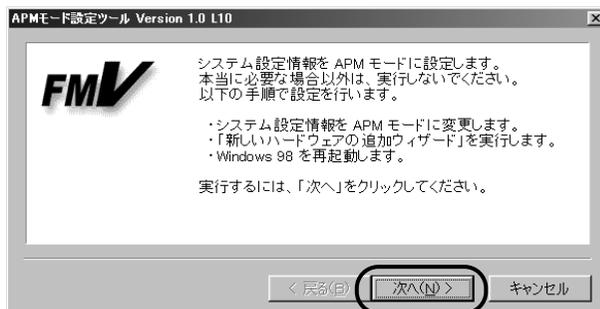
5 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

`e:¥chgapm¥chgapm.exe`

。 e には、お使いの CD-ROM ドライブ名を入力してください。

「APMモード設定ツール」ウィンドウが表示されます。内容をよくお読みください。

6 「次へ」をクリックします。



7 「APM モードに設定する」のをクリックし、にします。

8 「次へ」をクリックします。

9 「完了」をクリックします。

「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。

10 「次へ」をクリックします。

「システムにあるプラグアンドプレイ機器を検索します。」というメッセージが表示されます。

11 「次へ」をクリックします。

12 「インストールするデバイスは一覧にありますか？」というメッセージが表示されたら、「デバイスは一覧にない」のをクリックしてにし、「次へ」をクリックします。

13 「新しいハードウェアを自動的に検出しますか？」というメッセージが表示されたら、「はい」をクリックし、「次へ」をクリックします。「プラグアンドプレイで検出されなかった新しいデバイスを検索します。」というメッセージが表示されます。

14 「次へ」をクリックします。

新しいデバイスの検索が始まります。検索には数分かかります。「ハードウェアの検出が完了し、インストールの準備ができました。」というメッセージが表示されます。

15 「完了」をクリックします。

アドバイス

メッセージが表示されたら

- ・「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示された場合は「はい」をクリックしてください。
- ・「Windows 98 の CD-ROM」を要求するメッセージが表示された場合には、`c:\windows\options\cabs` と入力し、「OK」をクリックしてください。
- ・「ディスプレイ設定に問題があります」というメッセージが表示された場合は「OK」をクリックし、続いて表示される「画面のプロパティ」ウィンドウで「キャンセル」をクリックしてください。

16 「今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されたら、フロッピーディスクがセットされていないことを確認し、「はい」をクリックします。

Windows 98 が再起動し、新しいハードウェアの検出が実行されます。

17 「今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。

18 本パソコンが再起動したら、CD-ROM ドライブから  「アプリケーション CD」を取り出します。

19 「コントロールパネル」ウィンドウの  (ハードウェアの追加) をクリックします。

「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。

20 「次へ」をクリックします。

21 「システムにあるプラグアンドプレイ機器を検索します。」というメッセージが表示されたら、「次へ」をクリックします。

アドバイス

C/50L, C/45L, C/40L をお使いの方は

「すべてのデバイスがインストールされましたか？」というメッセージが表示されたら、「ほかのデバイスもインストールする」の をクリックして にし、「次へ」をクリックします。

22 「インストールするデバイスは一覧にありますか？」というメッセージが表示されたら、「デバイスは一覧にない」の をクリックして にし、「次へ」をクリックします。

23 「新しいハードウェアを自動的に検出しますか？」というメッセージが表示されたら、「はい」をクリックし、「次へ」をクリックします。

24 「次へ」をクリックします。
新しいデバイスの検索が始まります。検索には数分かかります。

アドバイス

「詳細」ボタンが表示されたら

検出が完了すると「詳細」ボタンが表示されます。このボタンをクリックして、「アドバンスド パワー マネジメント サポート」が検出されたことを確認してください。

- 25** 「完了」をクリックします。
- 26** 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
- 27** 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。
本パソコンが再起動します。
- 28** 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 29**  (画面) をクリックします。
- 30** 「設定」タブをクリックし、「色」を「High Color (16 ビット)」に設定します。
- 31** 「OK」をクリックします。
- 32** 「今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。
本パソコンが再起動します。
- 33** 画面を設定します。
ご購入時の状態に戻すには、解像度や発色数などの画面の設定を変える必要があります。詳しくは、「画面の解像度と発色数を変える」(P.38)をご覧ください。
画面を設定したら、必ず本パソコンを再起動してください。
- 34** 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
- 35** 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。
本パソコンが再起動します。
- 36** APM 機能に設定されたことを確認するため、「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
「Windows の終了」ウィンドウで「スタンバイ」が表示されることを確認し、「キャンセル」をクリックします。

3 モードフロッピードライブを再インストールする

- 1** 「コントロールパネル」ウィンドウの  (システム) をクリックします。
- 2** 「デバイスマネージャ」タブをクリックし、「フロッピーディスクコントローラ」の  をクリックします。
- 3** 「Fujitsu3-modeFloppy(FMVSeries)」をクリックし、「削除」をクリックします。
「デバイス削除の確認」ウィンドウが表示されます。
- 4** 「OK」をクリックします。
- 5** 「閉じる」をクリックします。
- 6** 「コントロールパネル」ウィンドウの  (ハードウェアの追加) をクリックします。
「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 7** 「次へ」をクリックします。
- 8** 「システムにあるプラグアンドプレイ機器を検索します。」というメッセージが表示されたら、「次へ」をクリックします。
- 9** 「インストールするデバイスは一覧にありますか？」というメッセージが表示されたら、「デバイスは一覧にない」の をクリックして にし、「次へ」をクリックします。
- 10** 「新しいハードウェアを自動的に検出しますか？」というメッセージが表示されたら、「いいえ」の をクリックして にし、「次へ」をクリックします。
- 11** 「ハードウェアの種類」で「フロッピーディスクコントローラ」をクリックし、「次へ」をクリックします。
- 12** 「ディスク使用」をクリックします。
- 13**  「アプリケーションCD」をCD-ROMドライブにセットします。

アドバイス

C/50L, C/45L, C/40L をお使いの方は「すべてのデバイスがインストールされましたか？」というメッセージが表示されたら、「ほかのデバイスもインストールする」の をクリックして にし、「次へ」をクリックします。

14 「配布ファイルのコピー元」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

e:¥3mode

. eには、お使いのCD-ROMドライブ名を入力してください。

15 「次へ」をクリックします。

16 「完了」をクリックします。

ファイルのコピーが始まり、しばらくすると「今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されます。

17 「はい」をクリックします。

18 本パソコンが再起動したら、CD-ROMドライブからⓈ「アプリケーションCD」を取り出します。

APMシステム情報設定ツールを使う

ここでは、Office 2000 Personalモデルをお使いの方を例に説明します。

1 Ⓢ「アプリケーションCD」をCD-ROMドライブにセットします。

2 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

e:¥fixapm¥fixapm.exe

. eには、お使いのCD-ROMドライブ名を入力してください。

「APMシステム情報設定ツール」ウィンドウが表示されます。

4 「OK」をクリックします。

「今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されます。

5 「はい」をクリックします。

6 本パソコンが再起動したら、CD-ROMドライブからⓈ「アプリケーションCD」を取り出します。

これでAPM機能の設定は終了です。このあとにオプション機器の接続、アプリケーションのインストールを行ってください。

💡 アドバイス

一太郎モデル/Wordモデル/OASYSモデルをお使いの方は

APMシステム情報設定ツールを、インターネット富士通パソコン情報ページ「FM WORLD」(<http://www.fmworld.ne.jp>)よりダウンロードしてください。

ダウンロードしたファイルを開くと、設定ツールとインストール手順の説明ファイルが作られます。説明ファイルに従い、設定ツールをお使いください。

索引

記号

2DD	20
2HD	20
3 モードドライブ	20

A

Alt キー	8
APM	157
Application キー	8
Application ボタン	10
Application ボタン 1 / E-mail ボタン	10
Application ボタン 2 / Internet ボタン	10
Application ボタン 3	10
ATAPI	6

B

Back space キー	9
BIOS セットアップ (C/40L, C/407, C/405) ...	112
- のパスワード機能を使う	122
- 標準設定値一覧	120
- メッセージ一覧	128
- を起動する	113
- をご購入時の設定に戻す	118
- を終了する	116
BIOS セットアップ (C/50L, C/45L, C/457) ...	92
- のパスワード機能を使う	102
- 標準設定値一覧	99
- メッセージ一覧	108
- を起動する	93
- をご購入時の設定に戻す	97
- を終了する	96
BUSY ランプ	3

C

Caps Lock 英数キー	8
CD	23
CD-ROM	23
- が取り出せないとき	25
- をセットする	24
- を取り出す	25
CD-ROM ドライブ	3, 7
CD 操作ボタン	10

CMOS RAM	92, 112
CPU	62
Ctrl キー	8

D

Delete キー	9
DIMM	63
DMA 要求	141, 142
DRQ	141, 142

E

ECC	63
EJECT ボタン	3
End キー	9
Enter キー	9
Esc キー	8

F

FAX / ボイスモデムカード	6, 69
- 仕様	133
F キー	8

H

Home キー	9
---------------	---

I

I/O ポートアドレス	142
IDE	6, 81
Insert キー	9
IRQ	141, 142

L

LAN カード	69
LINE IN 端子	5
LINE OUT 端子	5
LINE 端子	5, 138

M

MB	20, 62
MIDI/JOYSTICK 端子	5, 140
MO	76
MO ドライブ	76

Mute (消音) ボタン 10

N

Num Lock キー 9

P

Page Down キー 9

Page Up キー 9

Pause キー 9

PC/AT 交換機 48

PCI 70

PHONE 端子 5, 139

Plug&Play 53, 71

PnP 53, 71

Print Screen キー 9

S

Scroll Lock キー 9

SCSI 54, 76, 81

SCSI カード 69, 77

SCSI ケーブル 77

SDRAM 63

Shift キー 8

SPD 63

SPK OUT 端子 5

T

TWAIN 54

U

USB 2

USB 機器 57

USB コネクタ 3, 5, 138

W

Windows キー 8

ア

アウトレット 5

イ

インジケータ 9

インテル® プロセッサ シリアル ナンバ

コントロール コーティリティ 154

インレット 5

エ

液晶ディスプレイの特性 155

液晶ディスプレイの廃棄 155

エラーメッセージ 108, 128

オ

お手入れ 41

オプション機器 46, 81

音量調節ボタン 10

音量つまみ 29

音量ボリューム 3

音量を調節する 27

カ

カーソルキー 9

解像度 38

- を変更する 39

書き込み禁止タブ 22

拡張カード 69

- を取り付ける 72

拡張スロット 5, 6, 70

各部の名称と働き 2

画面 38

キ

キーボード 8

- のお手入れ 41

キーボードコネクタ 5, 138

強制終了できないとき 17

ク

空白キー 8

クリック 11

ケ	
ケーブル	140

コ	
コネクタのピン配列と信号名	136

サ	
再生/一時停止ボタン	10
サウンド機能仕様	135
サウンドドライバをインストールする	149

シ	
ジャンプスイッチ	105
終端抵抗	77, 78
終了	15
仕様一覧	132
省電力	18
シリアルコネクタ	5, 136

ス	
スキャナ	54
スクリーンセーバーボタン	10
スクロールボタン	11, 36
スタンバイ	18
スタンバイボタン	10
スピーカー	26
- から音が聞こえないとき	30
- 仕様	135
- のお手入れ	41
- の音量を調節する	27
スペースキー	8
スロットカバー	73

セ	
セットする	
- CD-ROM	24
- フロッピーディスク	22

ソ	
増設する	
- MOドライブ	76
- 拡張カード	69
- ハードディスク	81
- メモリ	62
外付けMOドライブ	77
- を取り付ける	78
外付けハードディスク	81

タ	
ターミナルアダプタ	56
ターミネータ	77, 78
縦置き用フット	3

チ	
チルトフット	8

ツ	
通風孔	5

テ	
停止/取り出しボタン	10
ディスプレイコネクタ	5, 136
ディスプレイドライバをインストールする	146
ディスプレイのお手入れ	41
ディップスイッチ	124
デジタルカメラ	55
デジタルディスプレイコネクタ	5, 139
デバイス	143
テンキー	9
電源	14
- を入れる	14
- を切る	15
電源スイッチ	3
電源ユニット	7
電源ランプ	3

ト	
ドライバ	48
取り出す	
- CD-ROM	25
- フロッピーディスク	22

取り付ける	
- 拡張カード	72
- 外付け MO ドライブ	78
- 本体カバー	60
- メモリ	64
取り外す	
- 本体カバー	59

ナ

内蔵ハードディスク	7
-----------	---

ハ

ハードディスク	81
- の領域を設定する	82
- を増設する	81
- をフォーマットする	85
ハードディスクアクセス表示ランプ	3
ハーフサイズ	70
パスワード	102, 122
パソコン本体	2
- 仕様	132
- のお手入れ	41
発色数	38
- を変更する	39
早送りボタン	10
パラレルコネクタ	5, 137

ヒ

光磁気ディスクドライブ	76
左ボタン	11
ビデオキャプチャカード	69

フ

ファンクションキー	8
フォトタッチソフト	54
プラグアンドプレイ	53, 71
プリンタ	50
プリンタケーブル	50
フロッピーディスク	20
- のデータを守る	22
- をセットする	22
- を取り出す	22

フロッピーディスクアクセス表示ランプ	3
フロッピーディスクドライブ	3, 7
- のお手入れ	42
フロッピーディスク取り出しボタン	3

へ

ヘッドホン	30
- から音が聞こえないとき	32
ヘッドホン端子	3

ホ

ボリュームボタン (+)	10
ボリュームボタン (-)	10
本体カバー	59
- を取り付ける	60
- を取り外す	59

マ

マイク	33
マイク端子	3
マウス	11
- のお手入れ	41
マウスコネクタ	5, 137
マウスポート	8
巻き戻しボタン	10
マルチモニタ機能	88

ミ

右クリック	11
右ボタン	11
ミュート	29

メ

メモリ	62
- の組み合わせ	64
- の取り付け場所	63
- の持ちかた	65
- 容量を確認する	66
- を交換する	67
- を取り付ける	64
- を増やす	62
メモリスロット	7, 63

モ

モデムカード 69, 155
- 仕様 133

リ

リソース 141, 142
- を解放する 143
リソース一覧 141

ロ

録音する 33

ワ

割り込み要求 141, 142
ワンタッチボタン 8, 10

Microsoft、Windows、MS、MS-DOS、WindowsNTは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Pentium、MMX は、米国インテル社の登録商標です。

Celeron は、米国インテル社の商標です。

Outlook は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

ATI、RAGE は ATI Technologies Inc の商標です。

K56flex は Lucent Technologies 社、Rockwell International 社の商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© 富士通株式会社 1999

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

使いこなす本 ハード編

B3FH-5231-02-00

発行日 1999年7月

発行責任 富士通株式会社

Printed in Japan

本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。

本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。

無断転載を禁じます。

落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。

㊦ 9907-1



箱を開けたら...

箱の中身を確認してください。
ご購入後、できるだけ早く添付品を確認
しましょう。

はじめに読む本

まず最初に...

1 取扱説明書



パソコンが初めてなら...

2 かるがるパソコン入門



CD-ROMが
付いています。



FMVを知ろう!

3 FMV総合案内



使いこなす本



インターネット編

- ・インターネットをはじめる
- ・ホームページを見る
- ・Eメールで手紙を出す



ソフト編

- ・地図で調べる
- ・電車の経路を調べる
- ・はがきを作る
- ・写真でカレンダーを作る

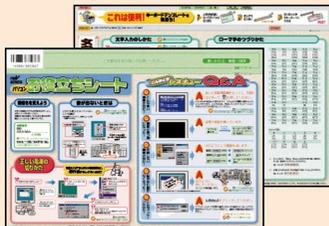
この本は次の機種には
添付されません。
FMV-DESKPOWER
ME/355
FMV-BIBLO
NE/33, MF/33



ハード編

- ・各部の名称を知る
- ・プリンタをつなぐ
- ・メモリを増やす

困ったときの本



お役立ちシート

お手元に置いてお使いください。
・ありがちなトラブルの解決
・文字入力早わかり



トラブル解決Q & A

- ・困ったときの画面集
- ・トラブル解決の道のり
- ・サポート情報
- ・パソコンをふりだしにもどす
- ・アプリケーションのインストール



このマニュアルはエコマーク認定の再生紙を使用しています。



T4988618873581